

平成12年度 ヌエック(国立女性教育会館)

# 主催事業実施報告書



研修  
交流  
調査研究  
情報







「ヌエック・フェスティバル2000」  
自由企画プログラムでの演奏



「教師のための男女平等教育セミナー」  
懇親会



「NVEC（国立女性教育会館）アドバンストコース」  
講義・討議



「家庭・地域で担う子育て支援セミナー」  
ワークショップ

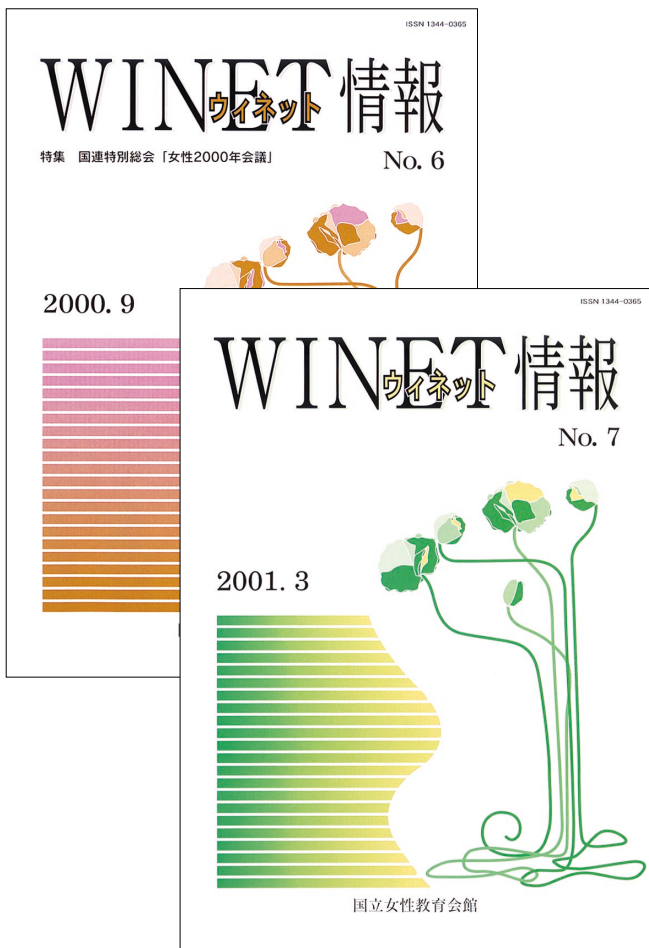
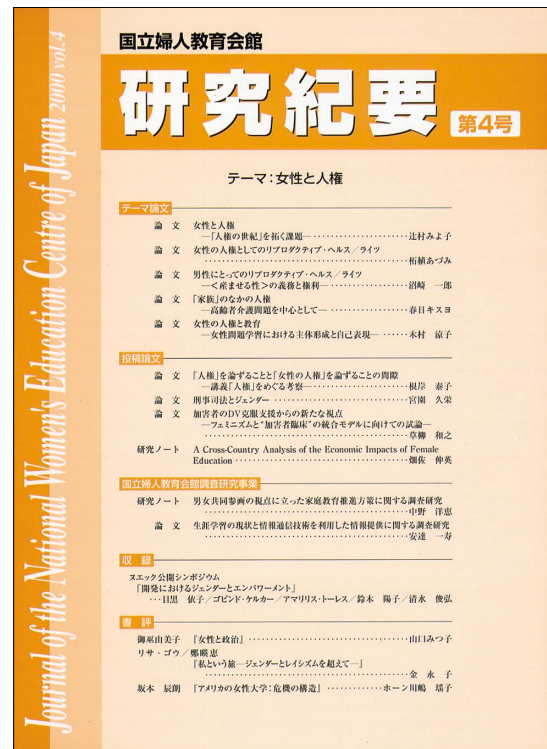


「女性学・ジェンダー研究国際フォーラム」  
帰りのもよう

## 国立婦人教育会館研究紀要（第4号）

スエックの調査研究事業の成果を発表し女性教育の発展に寄与するとともに、投稿論文を募集するなどジェンダーの視点に立った生涯学習に関する研究発表の場を広げることを目的として平成9年度より刊行しております。

第4号のテーマは「女性と人権」で、11本の論文・研究ノートと平成11年度公開シンポジウムの収録及び3本の書評・文献解題を掲載し、関係大学、都道府県等教育委員会、女性教育関係施設及び女性団体、その他の関係機関等へ配布しました。



## WINET情報（第6号、第7号）

女性・家族に関する文献情報及び情報センター利用に関する情報を中心に会館からの情報をわかりやすく提供しております。

都道府県教育委員会、女性教育施設及び女性団体、関係大学図書館、その他の関係機関等へ配布しました。



# 性教育会館作成資料

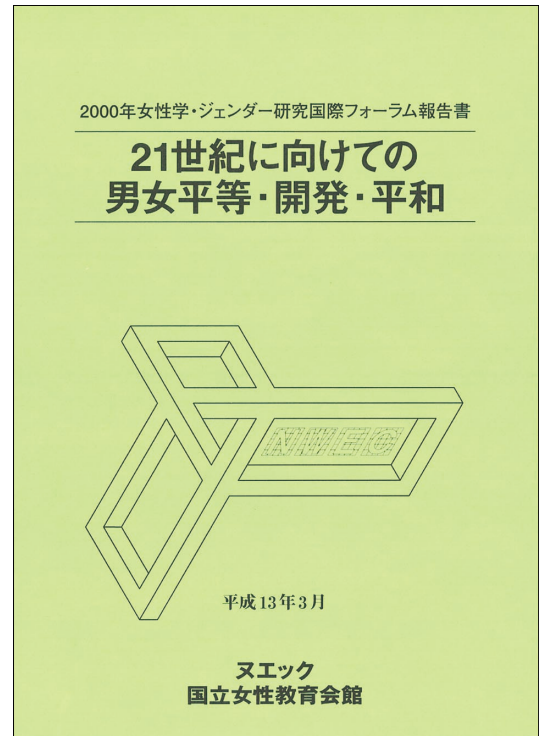
## 女性学・ジェンダー研究国際フォーラム報告書

平成12年8月3日(木)～6日(日)に開催された「2000年女性学・ジェンダー研究国際フォーラム」の成果をまとめたものです。

本国際フォーラムは、「女性2000年会議」の成果を受けて開催したものであり、参加者は1700名余でした。

本書は、主催者提供プログラムとして実施しました「基調報告女性2000年会議の成果と戦略」、8つの国際ワークショップと「国際シンポジウム 21世紀に向けての男女平等・開発・平和」の概要と、全国から応募のありました104件の自主企画ワークショップの概要を掲載しております。

ワークショップ主催者、参加者(希望者)、都道府県等教育委員会、女性教育関係施設及び女性団体、その他関係機関に配布しました。



## ヌエック女性学ビデオシリーズ

ヌエックの企画によるビデオシリーズ「ジェンダー・フリーな社会をめざして」第1巻～第3巻を刊行しました。

男女共同参画についての学習、討論を進める際の材料として、ぜひご活用ください。

館内視聴の申込みは情報センターまで、購入申込み・問合せは、ジェムコ出版株式会社(TEL 03-5428-8245)まで。

[第1巻]

「ジェンダーって何?～自分らしさの発見～」

[第2巻]

「彼女たちの挑戦～女性たちの多様な働き方～」

[第3巻]

「いまどき『女と男』事情～恋愛・結婚・子育て～」





## ● 目 次 ●

▽はじめに.....	1
▽研修事業	
婦人教育施設職員のためのセミナー .....	2
教師のための男女平等教育セミナー .....	8
海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業 .....	14
家庭・地域で担う子育て支援セミナー .....	20
フォーラム家庭教育 .....	24
男女共同参画学習推進フォーラム .....	26
NWEC（国立女性教育会館）アドバンストコース .....	32
公開講演会 .....	38
女性の教育問題担当官セミナー .....	40
▽交流事業	
女性学・ジェンダー研究国際フォーラム .....	46
ヌエック・フェスティバル2000 .....	58
▽調査研究事業	
高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究 .....	64
女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究 .....	66
地域の子育て環境づくりに関する調査研究 .....	68
男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究 .....	70
エル・ネット家庭教育セミナー .....	72
ヌエック公開シンポジウム .....	76
女性及び家族に関する学習情報の調査 .....	80
女性（婦人）教育シソーラスに関する調査研究 .....	82
▽情報事業	
WinetCass .....	84
女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会 .....	86
▽全国ボランティア情報提供・相談窓口事業 .....	88
▽社会教育実習生等受入事業 .....	90
▽ヌエック（国立女性教育会館）におけるボランティアの活動 .....	92





## はじめに

国立女性教育会館は、女性教育指導者その他の女性教育関係者に対する実践的な研修及び専門的な調査研究を行うことを目的として、研修、交流、情報、調査研究の四つの機能を中心に、男女共同参画社会の形成に資するさまざまな事業を展開しております。

平成12年度は、『男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と「活動」』を総合テーマとし各種事業を実施してまいりました。

この度、これらの事業の成果をまとめ「平成12年度 国立女性教育会館 主催事業実施報告書」を作成いたしました。調査研究事業等の報告書と併せ、関係の皆様にご活用いただければ幸いです。

最後に、当館は本年1月6日、「国立婦人教育会館」から「国立女性教育会館」に名称変更し、さらに本年4月1日より文部科学省の直轄機関から「独立行政法人 国立女性教育会館」へ移行いたしました。独立行政法人となりました後も、男女共同参画社会の形成をめざして、これまでどおり各種事業等の一層の充実に努めてまいりますので、引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成13年4月

独立行政法人  
国立女性教育会館  
理事長 大野 曜

# 婦人教育施設職員のためのセミナー

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成をめざした生涯学習の促進を図るため、公私立婦人教育会館・女性センター等の職員として必要な知識・技術を高めるための専門的・実践的な研修を行い、施設職員としての資質向上を図る。

## 2 主 題 「21世紀の男女平等・開発・平和 ―女性関連施設の役割と展望―

## 3 期 日 「職員コース」平成12年 6月27日（火）～30日（金） 3泊4日 「館長コース」平成12年 6月27日（火）～28日（水） 1泊2日

## 4 参加者 「職員コース」110名（女性78名 男性32名）（申込者数 144名） 「館長コース」 30名（女性18名 男性12名）（申込者数 38名）

合計140名

### (1) 年代別

① 館長コース (名)					② 職員コース (名)							
性別	40代	50代	60代	計	性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
女性	1	9	8	18	女性	17	14	28	15	2	2	78
男性	1	9	2	12	男性	2	12	12	6	0	0	32
合計	2	18	10	30	合計	19	26	40	21	2	2	110

### (2) 都道府県別 ( )内は館長コース (名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	6(1)	新潟県	3(1)	兵庫県	4(1)	熊本県	3
青森県	2	富山県	1(1)	奈良県	2	大分県	1(1)
岩手県	2	石川県	1	和歌山県	1	宮崎県	(1)
宮城県	1	福井県	1(1)	鳥取県	2	鹿児島県	1(1)
秋田県	3	山梨県	4(1)	島根県	1(1)	沖縄県	3
山形県	1	長野県	4(1)	岡山県	1(2)	札幌市	1
福島県	1	岐阜県	1(1)	広島県	1	仙台市	4
茨城県	4(2)	静岡県	4(1)	山口県	2	千葉市	1
栃木県	3	愛知県	4	徳島県	1	名古屋市	1
埼玉県	2(1)	三重県	2	高知県	1	大阪市	1(2)
千葉県	3	滋賀県	(1)	福岡県	7(4)	神戸市	1
東京都	4	京都府	(2)	佐賀県	1(1)	広島市	1
神奈川県	1	大阪府	8	長崎県	2(1)	福岡市	1(1)

計 44都道府県 8指定都市



## 5 プログラムの概要

### 【第1日 6月27日(火)】 (館長コース、職員コース共通)

- |                                                  |             |
|--------------------------------------------------|-------------|
| (1) 開会                                           | 13:00~13:25 |
| (2) 講演<br>「21世紀の男女平等・開発・平和―国連「女性2000年会議」の成果を知る―」 | 13:30~15:00 |
| 上智大学文学部教授                                        | 目黒 依子       |
| (3) 講義「メディア・リテラシーと女性情報」                          | 15:20~16:50 |
| 図書館情報大学図書館情報学部助教授                                | 岩澤まり子       |
| (4) 説明「婦人教育情報センターにおける情報提供サービス」                   | 17:00~17:30 |
| 国立婦人教育会館情報交流課長                                   | 森高 桂子       |
| (5) 情報交換会                                        | 18:00~19:30 |

### 【第2日 6月28日(水)】

#### 職員コース

\* 就任1年未満の職員対象

- |                                       |             |
|---------------------------------------|-------------|
| (6) ① 講義「女性学教育／学習の目的と内容―ジェンダーの視点とは何か」 | 9:00~10:10  |
| 国立婦人教育会館事業課研究員                        | 伊藤真知子       |
| 講義「ジェンダーの視点で問い直す男女・家族像」               | 10:20~11:30 |
| 国立婦人教育会館主任研究官                         | 中野 洋恵       |

\* 就任1年以上の職員対象

- |                                      |             |
|--------------------------------------|-------------|
| (6) ② ワークショップ「意識変容・エンパワーメントに向けた学習とは」 | 9:00~11:30  |
| 神奈川大学外国語学部教授                         | 入江 直子       |
| (7) 研究協議「婦人教育施設と団体・グループ活動について」       | 13:00~15:30 |
| 〈事例提供〉こうち女性総合センター事業課長                | 吉井 眞智       |
| とやま女性政策研究会                           | 山下 清子       |
| (8) 自由研究                             | 15:40~17:40 |
| ① 国立婦人教育会館ボランティアとの交流・実技体験            |             |
| ア「ボランティアとの交流」 イ「新聞クリッピング」            |             |
| ウ「緑探検―ヌエック構内の野草園・樹木の見学―」             |             |
| エ「野の花を生ける」 オ「茶道」 カ「切り絵」 キ「絵てがみ」      |             |
| ク「七宝焼き」                              |             |
| ② 「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」相談員との交流       |             |
| ③ 施設見学                               |             |
| ア 国立婦人教育会館 イ 埼玉県立歴史資料館 ウ 丸木美術館       |             |
| ④ 周辺散策等                              |             |

#### 館長コース

- |                        |              |       |
|------------------------|--------------|-------|
| (6) 研究協議「管理・運営に関する諸問題」 | 9:00~14:50   |       |
| 助言者                    | 東京ウィメンズプラザ館長 | 佐藤 洋子 |
| 司会者                    | 国立婦人教育会館事業課長 | 高見澤光子 |
| (7) 閉会(館長挨拶)           | 15:00~15:10  |       |

**【第3日 6月29日(木)】**

- (9) ワークショップ 9:00~16:30
- A 「学習プログラムの企画・立案」  
国立教育研究所生涯学習研究部生涯学習開発・評価研究室室長 山本 慶裕
- B 「ファシリテーター(学習支援者)の役割」  
大阪YWCA教育総合研究所主任研究員 神阪登茂子
- C 「プレゼンテーション能力を身につける」  
株式会社ウェコプ人材マネジメントコンサルタント 川合 雅子
- D 「“聴くこと”の力と情報検索」  
公立はこだて未来大学システム情報科学部教授 美馬のゆり

**【第4日 6月30日(金)】**

- (10) まとめ・評価 9:00~10:30
- (11) 講義「男女共同参画社会の形成に向けた婦人教育施設の役割」 10:50~11:30  
国立婦人教育会館館長 大野 曜
- (12) 修了証書授与 11:30~12:00
- (13) 閉会 12:00

**6 プログラムの内容**

- (1) 講演「21世紀の男女平等・開発・平和—国連特別総会「女性2000年会議」の成果を知る—」

上智大学文学部教授 目黒 依子

平成12年6月5日から9日にかけてニューヨークで行われた国連特別総会「女性2000年会議」に日本政府代表団顧問として出席した目黒依子氏が、女性2000年会議の目的、成果文書をまとめるプロセス、成果文書の読み方、今後の課題等についての講演を行った。その中で目黒氏は、成果文書を熟読することにより、北京行動綱領を今の時点で再度確認し、さらなる前進を求めることが重要であり、地域では国からの指示を待つだけではなく、地域の特性を生かした創造的な活動を行う必要があること、民間主導で行政がバックアップするような行政とNGOのパートナーシップが大切なこと、等を述べた。



「女性2000年会議」の様子を語る目黒依子氏

- (2) 講義「メディア・リテラシーと女性情報」

図書館情報大学図書館情報学部助教授 岩澤まり子

図書館情報大学助教授の岩澤まり子氏が、「男と女のメディアリテラシー」事業の実行委員長の経験から、急速に普及したインターネットによるコミュニケーションの特徴である受け手・送り手としての利用上の注意点をを含めてメディアリテラシーの今後について講義を行った。情報とは何かから始まり、北京行動綱領の戦略目標として「女性とメディア」が挙げられていることをふまえ、情報の信頼性と陳腐化についてコンテン



ツに対する評価能力を含めたメディアリテラシーが求められていることが強調された。

### (3) 研究協議「管理・運営に関する諸問題」(館長コース)

助言者 東京ウイメンズ・プラザ館長 佐藤 洋子  
事例提供 滋賀県立女性センター所長 竹中 佳子

滋賀県立女性センターの事例をもとに、参加者が、施設の管理・運営上で抱えている諸問題について意見を出し合い、その解決方法について協議を行った。婦人教育施設の所管に伴う問題、経済上の問題、男性参加に向けた各地の取組と今後の課題等、活発な討議が行われ、最後に講師から、管轄の複雑さは学習機会の増加につながることに、職員は常に勉強し続ける必要があること等の助言があった。



活発な意見交換が行われた研究協議  
(館長コース)

### (4) ワークショップ「意識変容・エンパワーメントに向けた学習とは」

神奈川大学外国語学部教授 入江 直子

男女共同参画社会をめざす学習のために、ジェンダー・バイアスに気づく敏感な視点、女性のエンパワーメントの視点の必要性が示された。また、学習者のエンパワーメントに向けた学習とは、参加者を学習プロセスの主体とする学習方法(参加型学習)を使い、参加者からのフィードバックによってプロセスを修正しながら学習を展開することにより意識変容の学習となる。そしてこの意識変容のプロセスを作り出すのが学習支援者の重要な役割であることを、講義、ワークショップ、協議から学んだ。

### (5) 研究協議「婦人教育施設と団体・グループ活動について」(職員コース)

〈事例提供〉 こうち女性総合センター事業課長 吉井 眞智  
とやま女性政策研究会 山下 清子

女性のエンパワーメントを図っている施設として「こうち女性総合センター」事業課長吉井氏から、団体・グループと施設の連携の成功例として「とやま女性政策研究会」山下氏から、それぞれの事例を報告した。その後、グループに分かれ、団体・グループ活動の活性化、活動内容、メンバーを広げる活動の在り方等について話し合った。



## (6) ワークショップ

### A 「学習プログラムの企画・立案」

国立教育研究所生涯学習研究部生涯学習開発・評価研究室室長 山本 慶裕

男女共同参画社会の意義を確認した後、プログラム立案のポイントを、わかりやすさ、親しみやすさ、おもしろさとし、男女共同参画社会の形成をめざし、ジェンダーの視点に立ったプログラムの必要性について学んだ。その後、まずワークシートを利用して個人別にプログラム案を作成し、それをもとにグループ全体で一つのプログラムを企画・発表した。



A 「学習プログラムの企画・立案」

### B 「ファシリテーター（学習支援者）の役割」

大阪YWCA教育総合研究所主任研究員

神阪登茂子

はじめに、学習を援助するファシリテーターの役割を考えるとともに、施設職員としてのセミナー、講座への関わりを探るための基本的講義を行った。次に人間理解をめざしたもの、自己と他者を受容するためのもの、及びアサーティブなコミュニケーションを図ることをめざしたワークショップ、グループワークを行い、セミナー・講座担当者がどれほど学習支援者としての鍵を握っているか、理論と事例、また参加型の学習方法を取り入れて考えた。



B 「ファシリテーター（学習支援者）の役割」

### C 「プレゼンテーション能力を身につける」

株式会社 ウェコプ人材マネジメントコンサルタント

川合 雅子



C 「プレゼンテーション能力を身につける」

プレゼンテーションの目的を、説明・意見表明・説得とし、伝える側が内容を理解し、話し手の責任として相手が必要とする情報をわかりやすく伝えるために、アイスブレイクを交えながら、楽しみながら基本的事項を学習した。グループ毎に一人ひとりが実際にプレゼンテーションを行う実習では、参加者相互が率直な意見交換を行った。

## D 「聴くこと」の力と情報検索

公立はこだて未来大学システム情報科学部教授

美馬のゆり

記憶研究に関する講義等から、“聴くこと”の意味と重要性を考えた後、聴くこと、情報を伝えること、記憶すること等のテーマで、それぞれコンピューターを使って文章の作成を行い、全員で評価検討を行った。

また、その後に、婦人教育情報センターの見学と、WinetCassを使ったグループワークによる情報検索実習を行った。



D 「聴くこと」の力と情報検索

## (7) 講義「男女共同参画社会の形成に向けた婦人教育施設の役割」

国立婦人教育会館長

大野 曜

はじめに婦人教育施設等の設立経緯、国立婦人教育会館の設置目的等についての説明があった。次に施設の役割として、行政が企画・立案した施策に沿った様々な事業を実施すること、女性の活動拠点であり女性のエンパワーメントを図ること、さらに男女共同参画社会意識にかかる住民の意識変容をサポートしていくこと等をあげた。

また施設は施策の具体的な展開だけではなく、事業を行った結果、成果が施策に反映されることにもなるので、行政と施設は緊密な連携をとる必要があること、GOとNGOの連携を図るために、NGOのネットワークづくりのサポートが大切であるとした。



講義をする大野館長

## 7 今後の課題・展望

- (1) 今回のセミナーでは、生涯学習センター、教育センター、公民館、行政職員等も参加者となり幅広い意見交換ができたが、対象を女性関連施設職員に絞ることも検討する。
- (2) 選択参加によるワークショップは非常に好評であったが、今後もより施設職員のニーズに沿った内容のワークショップを企画することが大切である。

(事業課専門職員 土岐 都子)



# 教師のための男女平等教育セミナー

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成に向け、教師の生涯学習の一環として、学校教育における人権尊重、男女平等に関する指導の充実及びジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）に敏感な視点の定着と深化に資する実践的な研修を行う。

## 2 主 題

「学校教育の中のジェンダー／男女平等教育を考える」

## 3 期 日

平成12年7月25日（火）～27日（木） 2泊3日

## 4 参加者 142名（女性115名、男性27名）申込者数（158名）

### （1）年代別 (名)

性別	20代	30代	40代	50代	60代	計
女 性	5	16	48	44	2	115
男 性	1	5	15	6	0	27
計	6	21	63	50	2	142

### （2）職名別 (名)

職名	幼稚園	小学校	中学校	高校	養護学校	教育委員会	教育研究所 研修センター	計
校長・園長	2	5	2	1				10
教頭・副園長	3	8	1	1	2			15
教 諭	2	57	12	31	1			103
養護教諭		1		1				2
指導主事						3		3
社会教育主事						5	1	6
研修指導員						2	1	3
総 計	7	71	15	34	3	10	2	142

### （3）都道府県別 (名)

都道府県	女性	男性	都道府県	女性	男性	都道府県	女性	男性	都道府県	女性	男性
北海道	2	1	富山県	1	1	奈良県	2	0	宮崎県	1	0
青森県	1	0	石川県	1	1	和歌山県	1	1	鹿児島県	1	0
宮城県	2	0	山梨県	4	0	島根県	1	0	沖縄県	0	1
福島県	3	0	長野県	2	1	岡山県	2	1	札幌市	3	0
栃木県	0	1	岐阜県	2	0	山口県	0	1	京都市	1	0
群馬県	1	0	静岡県	5	1	徳島県	3	0	大阪市	0	1
埼玉県	13	3	愛知県	3	1	香川県	1	0	神戸市	2	0
千葉県	7	1	三重県	3	0	高知県	0	3	広島市	1	0
東京都	11	5	滋賀県	1	0	福岡県	4	0	北九州市	1	0
神奈川県	5	1	大阪府	7	0	熊本県	7	0			
新潟県	5	1	兵庫県	2	0	大分県	3	1	計	115	27

計 36都道府県 6指定都市

## 5 プログラムの概要

### 【第1日目 7月25日(火)】

- (1) 開 会 10:30~10:45  
①主催者あいさつ 国立婦人教育会館長 大野 曜  
②オリエンテーション 国立婦人教育会館事業課専門職員 金 朝子
- (2) 講義「男女共同参画社会の実現に向けて」 10:50~12:00  
講師 文部省生涯学習局男女共同参画学習課長 有松 育子
- (3) 分科会Ⅰ(男女平等教育の現状と課題) 13:00~14:15
- (4) ワークショップ「ジェンダーに敏感な視点を身につける」 14:30~17:30  
講師 ジェンダートレーニング研究会 丹羽 雅代  
西山 美幸  
陣内 泰子  
片山 公子
- (5) 情報交換会 18:30~20:00
- (6) 自由交流 20:00~

### 【第2日目 7月26日(水)】

- (7) 施設見学 9:00~9:40
- (8) 講義及び討議「学校教育をジェンダーの視点で見直す」 9:45~12:00  
講義「学校教育の中のジェンダー」  
講師 大阪女子大学人間社会学部助教授 木村 涼子  
討議「具体的事例について」  
・グループ討議 ・全体討議
- (9) 分科会Ⅱ「男女平等教育推進のための課題及び方策研究」 13:30~17:30  
幼・小・中・高等学校教員コース  
A「性に関する指導をジェンダーの視点で考える」  
講師 高知大学教育学部教授 池谷 壽夫  
事例報告者 椋山女学園中学・高等学校教諭 太田ふみ子  
B「総合的な学習の時間をジェンダーの視点で考える」  
講師 鳴門教育大学助教授 西村 公孝  
事例報告者 江の島塾BENTEN 片岡 理智  
C「メディア・リテラシーをジェンダーの視点で考える」  
講師 国学院大学法学部教授 田中 和子  
事例報告者 岡山県高野小学校教諭 杉山祐充子  
管理職・指導主事等コース  
D「学校経営をジェンダーの視点で考える」  
講師 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授 舘 かおる  
事例報告者 新潟市教育委員会学校教育課副参事指導主事 上沼 歆子
- (10) 自由交流 19:30~

### 【第3日目 7月27日(木)】

- (11) 分科会Ⅲ「研修の成果のまとめ・評価」 9:00~10:20
- (12) リレートーク「これからの男女平等教育」 10:30~11:50  
講師 大阪女子大学人文社会学部助教授 木村 涼子  
高知大学教育学部教授 池谷 壽夫  
鳴門教育大学助教授 西村 公孝  
国学院大学法学部教授 田中 和子
- (13) 閉 会 11:50~12:00  
主催者あいさつ 国立婦人教育会館長 大野 曜

## 6 プログラムの内容

### (1) 講義「男女共同参画社会の実現に向けて」

男女共同参画社会基本法は、豊かで活力ある社会を築き一人ひとりが尊重される社会の枠組みとなる法律である。男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会のことである。学校教育を含め、全ての場面で男女共同参画社会の実現がなされるべきであり、国の最重要課題である。男女の人権が尊重され、豊かで活力ある社会を実現することが根底にあり、家庭生活、学校教育、社会教育等あらゆる分野で総括的に推進しなければならない。基本理念を受け、国は、男女共同参画基本計画を定める必要がある。

文部省としては、男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育・学習の充実を図っていくこととし、学習指導要領の改訂に当たっては、中学校の特別活動、家庭科等において、男女相互協力しての家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性、職業生活や社会参加において対等な構成員であることの指導・充実、また、小学校の性に関する教育・指導の充実を図った。今後、大学における、女性学、ジェンダーの教育に関する整備充実に取り組んでいく。



講義する有松氏



講義する木村氏

### (2) 分科会 I (男女平等教育の現状と課題)

各学校・教育委員会での、男女平等を推進する教育に関する現状や課題を話し合うことで参加目的を明確にした。

- ①幼・小学校 ②中学校 ③高等学校 ④管理職・指導主事等





### (3) ワークショップ「ジェンダーに敏感な視点を身につける」

まずはじめに、全体で、私が〇〇だったからできたこと、私がもし、〇〇だったら出来ただろうことを考えることで自分自身のジェンダーを振りかえり、次に、女性と犯罪等のクイズにより社会におけるジェンダー意識の現状を見直した。その後、ケース分析グループワークを行い、分析した結果をグループごとに発表し、全体討議を行った。



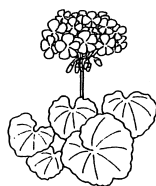
ケース分析の発表

### (4) 講義「学校教育をジェンダーの視点で見直す」

教育における男女平等の流れにはこれまで大きな3つの波があった。1つは、明治に学校教育制度が発足したときであり、その時女子も男子と同じ国民として教育の対象になった。男女が同じスタートに立ったとはいえ、裁縫教育が女子のみが受ける教科として発達していき、中等教育以降では男女別体系の教育制度が確立された。2つ目は、戦後の男女が一緒に学び、同じカリキュラムで学べるようになったことである。3つ目は、「国連婦人の10年」で女子差別撤廃条約が批准され、その後、家庭科の男女共修をはじめとして、学習指導要領の改訂がおこなわれ、教育の中で男女平等がさらに推進されていったことである。

今の学校の中で何が問題であるかを見るときに、ジェンダーに敏感になる色めがねをかけてみる必要がある。つまり、学校の文化・慣習・制度について、今までと違った視点で見直していくことである。また、時間や空間を見通す広い視野をもつために望遠レンズや広角レンズで学校現場を見直すことが、ジェンダー・センシティブにつながる。

混合名簿についても子どもたちが考える機会、教師自身が議論することが必要である。男子が先に来る名簿と他の社会的現象（男子が優先されること）と結びつくことが問題であり、また、名簿が後になることによって起こる心理的効果であるが、「男だから」「女のくせに」という言葉と比べて反発されることは少ないが、目に見えない形で積み重なり男子はファースト、女子はセカンド的存在であることのメッセージを送ってしまっている。男女別男子優先名簿が残っているのは、戦前の男女別学・別体系教育の歴史がそのまま引き継がれた結果でもあり、性差別とリアルタイムで関連する現代的課題である。



## (5) 分科会Ⅱ「学校教育現場をジェンダーの視点から見直す」

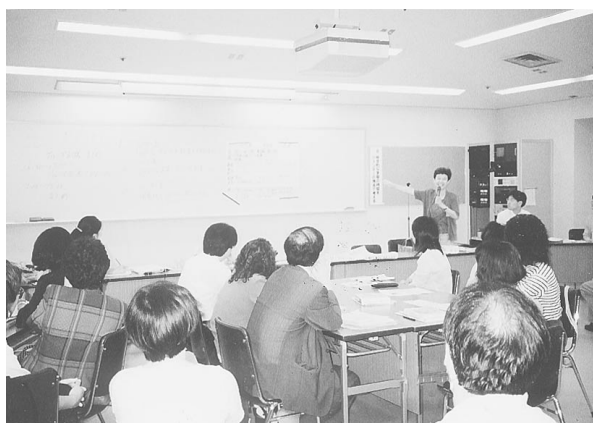
### A 「性に関する指導をジェンダーの視点で考える」

「子どもとセクシュアリティの中におけるジェンダー問題」の講義があり、男と女だけではくくれない二分法を取り払って考えること、性情報に含まれたジェンダーや誤った認識を子ども自身がチェックできることの必要性を確認した。次に、中高一貫教育の中で、多様な性を認めること（共生）をめざして実施した実践の事例報告を行った。その後、単なる二分法で性のあり方についてどう考えてきたか、教え込む性教育（教師自身がジェンダーバイアスにとらわれている）になっていなかったかについてグループ討議を行い、発表した。



グループワーク

### B 「総合的な学習の時間をジェンダーの視点で考える」



グループ討議の発表

「生きる力の育成と総合的な学習の時間とジェンダーとの関わり」の講義があり総合的な学習において「ジェンダーの視点」をどのように生かすか、教師の力量と総合的な学習における課題の設定について考えた。次に、学校・行政・市民が協働して実施した中学校の男女平等教育の授業実践と14歳の本音のシンポジウムの事例報告を行った。続いて、総合的な学習を進めるに当たって、各段階でどんなジェンダー・フリー教育の課題設定が出来るのか、各段階でどんな能力資質を養ったら

よいのか等についてグループ討議を行い、模造紙にまとめ発表した。

### C 「メディア・リテラシーをジェンダーの視点で考える」

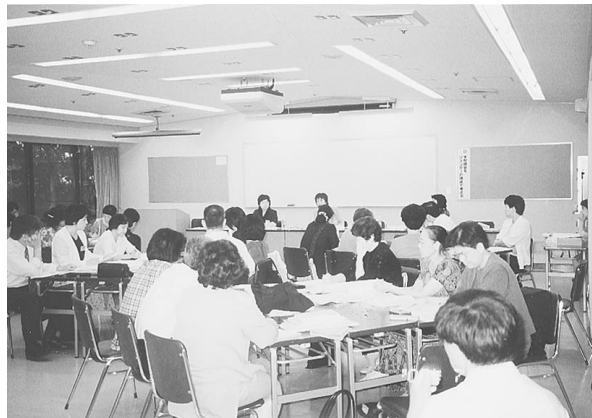
新聞、テレビ、コマーシャル等に現れるジェンダー等の問題提起の講義があり、次に、自分の中にあるジェンダー、テレビアニメ番組のメディアチェック等の授業実践の事例報告を行った。続いて、授業への取り組み方についてグループ討議を行い、学校別に広告の中のジェンダー、教師のメディア観の変容、新聞の切り抜きの教材等の発表があり、その後全体討議を行った。家庭との通信交流などを通して、家庭、学校、社会が連携することの大切さを確認した。



ビデオを視聴

#### D 「学校経営をジェンダーの視点で考える」

「学校経営をジェンダーの視点で考える必要性や男女平等教育を推進するための研修のあり方」の講義では、学校における男女平等教育、ジェンダー・フリー教育推進の背景・必要性、指導主事・管理職等の役割等について確認した。次に、新潟市男女平等教育推進研究会の今までの活動、新潟市の男女平等教育の現状の説明及び学校での男女平等教育の実践報告を行った。その後、管理職と指導主事として何ができるか、男女平等教育を推進するための研修のあり方についてのグループ討議を行い、発表した。学校・家庭・地域・行政との連携を図ること、推進体制づくりの必要性等の意見交換があった。



講義する舘氏

#### (6) 分科会Ⅲ「研修の成果のまとめ・評価」

このセミナーを振り返り、キーワードによるまとめを行い、男女平等を推進するための学校教育における課題に対し、それぞれの立場で実践に結びつく解決方策を考えた。

#### (7) リレートーク「これからの男女平等教育」

はじめに、分科会Ⅱの講師により、性別にとらわれず個人が能力を発揮できる社会の再構築のために、学校現場として男女平等教育を推進するためにどのような取組をすればよいかの提言、次に参加者との意見交換を行った。

### 7 今後の課題・展望

- (1) このセミナー全体を通して、ジェンダーに敏感な視点を身につける内容とし、「ジェンダーに敏感な視点を身につけること」、「学校の教育現場をジェンダーの視点で見直すこと」、「男女平等教育の推進の課題・方策研究」の3つのプログラムの更なる充実を図る。そのためには、実践に結びつく事例報告の収集やジェンダーに敏感な視点を身につける学習方法を開発する必要がある。
- (2) 各参加者においてジェンダーの認識には差があることから、体験的にジェンダーに気づくワークショップを取り入れることは必要だが、その方法・内容については充分検討する。
- (3) 初めの講義の中で、ジェンダー、セクシュアリティ等の基礎的な内容についてしっかり押さえる。
- (4) 男女平等教育を推進するためには、「総合的な学習の時間」や「各教科・領域」で児童・生徒に指導できる学習プログラムや教師やPTA向けの研修プログラムの開発を行う。

(事業課専門職員 金 朝子)

# 海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業

## 1 趣 旨

アジア太平洋地域における女性の地位向上を図るためには、同地域の女性のかかえる課題を把握し、情報やデータを整備し、適切に提供するシステムの充実、指導者の育成が重要である。

国立婦人教育会館は新しい女性情報システムを開発し、平成12年3月よりWinetCASSとして公開した。その開発、構築、運用等の経験を活かし、アジア太平洋地域の婦人教育、女性情報等の専門家を招致して、情報検索の基礎的な理論及び最新のコンピュータを利用した情報処理技術の研修を行う。

本研修を通して、女性問題の意識啓発に関する分析・まとめの技術、及び情報メディアの活用技術を習得するとともに、アジア太平洋地域の女性問題に関して相互理解を深め、域内の女性情報ネットワークの促進を図る。

## 2 主 催

文部省、国立婦人教育会館

## 3 期 日

平成12年 9月10日（日）～  
10月19日（木） 40日間



## 4 参加者 6カ国、6名



国 籍	氏名及び現職
中華人民共和国	Hu DAO HUA (フー・ダオ・ハウ) 全国児童及び女性労働委員会事務官
イ ラ ン	Leila AHMAD ABADIPOUR (レイラ・アハマド・アバ デュポー) 女性の参加センター情報科学研究専門家
北マリアナ諸島	Rosita Terlaje PANGELINAN (ロシータ・タラジェ・パ ンゲリナン) 政府女性問題事務所公共情報事務官
タ イ	Siriwan YENTANG (シリワン ヤンチェン) 総理府大臣官房室、全国女性問題委員会 (ONCWA) 政策企画分析官
バヌアツ	Eileen Roy MARAE (アイリーン・ロイ・マラエ) 女性問題省研究コミュニケーション研修教育官
ベトナム	Huong Lien LUU (フォン・リン・ルー) ベトナム女性の地位向上全国委員会 (NCFAW) ジェンダーと開発リソースセンター促進員



## 5 プログラムの概要

月 日	時 間	研 修 内 容	場 所 等
9/10 (日)		来日	
9/11 (月)	AM 15:00頃	又エックに移動 又エックに到着	又エック
9/12 (火)	10:00~10:30 10:40~16:00 16:00~17:00	開講式 カンントリーレポートの発表・討議 職員紹介	又エック
9/13 (水)	10:00~11:30 13:30~16:00	会館事業説明及び利用案内 生活案内	又エック
9/14 (木)	10:00~10:30 11:00~12:30 14:00~16:00	文部省生涯学習局担当審議官表敬 講義「日本の教育における男女平等」 文部省男女共同参画学習課長 有松育子 講義「日本の女性行政について」 総理府男女共同参画調整官 池永肇恵 (男女共同参画担当大臣付)	文部省 三会堂ビル  三会堂ビル
9/15 (金)	敬老の日	ホームビジット	
9/16 (土)			
9/17 (日)			
9/18 (月)	9:00~12:00 13:30~16:30	情報処理演習 講義「ジェンダーと開発」 国際協力事業団(JICA)企画部・環境女性課ジュニア専門員 山口 綾	又エック 又エック
9/19 (火)	9:00~12:00 13:30~16:30	講義「女性情報ネットワーク」 十文字学園女子大学教授 橋本ヒロ子 講義「女性と健康」 (財)家族計画国際協力財団(JOICFP) シニアプログラムオフィサー 勝部まゆみ	又エック 又エック
9/20 (水)	9:00~12:00 15:00~17:00	講義「女性とリテラシー」 (財)ユネスコ・アジア文化センター 識字課長 青柳 茂 講義「女性とメディア」 ビジネス・ウィーク誌特派員 アイリーン・クニイ	ユネスコ・アジア文化センター  特派員クラブ
9/21 (木)	9:00~12:00 13:30~16:30	情報処理演習 講義「女性学教育」 東洋英和女学院大学教授 藤村ファンズロー久美子	又エック 又エック
9/22 (金)	AM & PM	情報処理演習	又エック
9/23 (土)		お茶会	又エック (響書院)
9/24 (日)			
9/25 (月)	AM & PM	情報処理演習	又エック
9/26 (火)	AM & PM	情報処理演習	又エック
9/27 (水)	AM & PM	情報処理演習	又エック
9/28 (木)	AM & PM	情報処理演習	又エック
9/29 (金)	AM 14:00~15:00	情報処理演習 国立情報学研究所視察	又エック
9/30 (土)	13:30~15:30	大野利可 しの笛コンサート	吉田家住宅

月 日	時 間	研 修 内 容	場 所 等
10/1 (日)			
10/2 (月)	AM & PM	情報処理演習	又エック
10/3 (火)	10:30~12:30 14:30~16:30	ワークショップ (コーディネーター：藤村ファンズロー久美子) フォーラムよこはま視察	東洋英和女学院大学
10/4 (水)	AM & PM	情報処理演習	又エック
10/5 (木)	AM & PM	情報処理演習	又エック
10/6 (金)	AM & PM	ワークショップ	又エック
10/7 (土)			
10/8 (日)		川越めぐり	
10/9 (月)	体育の日		
10/10 (火)	AM PM	情報処理演習 WinetCASSシステム説明	又エック
10/11 (水)	10:00~13:00 15:00~17:00	富士通視察 情報処理演習	又エック
10/12 (木)	AM & PM	ワークショップ	又エック
10/13 (金)	11:00~15:00	プレゼンテーション (コーディネーター：藤村ファンズロー久美子)	又エック
10/14 (土)			
10/15 (日)		京都旅行	京都
10/16 (月)		京都旅行	京都
10/17 (火)		又エックに移動	又エック
10/18 (水)	10:00~10:30 11:00~11:30 13:00~14:00	研修評価会 閉講式 フェアウエル・パーティ 離館	又エック
10/19 (木)		離日	



文部省表敬



カントリーレポートの発表

## 6 プログラムの内容

### (1) 講義等

研修日程の前半に「日本の教育における男女平等」「日本の女性行政」「ジェンダーと開発」「女性情報ネットワーク」「女性と健康」「女性とリテラシー」「女性とメディア」「女性学教育」の講義を行った。

こうした講義を通して、「なぜ女性情報が必要なのか」を考えてもらい、情報処理演習につなげていった。



橋本ヒロ子氏の講義



ユネスコ・アジア文化センターにて

## (2) 情報処理演習

ウェブページの作成を中心に\*、MS-Office2000 (Word、Excel、PowerPoint) の活用、インターネット上での情報検索、データベース、ネットワークの構築等について演習を行った。\*研修生作成ウェブページは以下のURLで見ることができる。

(<http://www.nwec.go.jp/English/itt2000/index.html>)



ウェブページの作成



WinetCASSの説明

## (3) プレゼンテーション

「女性の地位向上のために誰に対してどんな情報を発信するのか」を自国の状況にあわせたテーマで考えることを課題とし、藤村氏のワークショップの時間を設け、研修生個々の意見を述べ合う時間を持った。

プレゼンテーションは主にPowerPointを使っでの発表となり、聞き手によくわかるようなプレゼンテーション技法もインストラクターから併せて学んだ。

各研修生の発表内容は以下のとおりである。

- ◎アイリーン・ロイ・マラエ「情報の共有について」
- ◎シリワン・ヤンチェン「女性の政治参加」
- ◎レイラ・アハマド・アバデュポー「イランの現状について—男女の各種比較」
- ◎ロシータ・タラジェ・パンゲリナン「女性の生活向上のための情報活用」
- ◎フォン・リー・ルー「情報の行政への活用」
- ◎フー・ダォ・ハウ「妊産婦死亡率を低下させるための情報活用」



プレゼンテーション

#### (4) 視察

日程の都合により「女性とリテラシー」「女性とメディア」の講義、藤村氏のワークショップは会館外で行った。その際、ユネスコアジア文化センター、東洋英和女学院大学の視察もあわせて行うことができた。

会館休館日を利用して、都内に視察に出かける前日は、都内に宿泊させるなど、できるだけ考慮したが、たびたびの移動により、研修生が疲労してしまうことがあった。

その他、国立情報学研究所、フォーラムよこはま、富士通を視察した。いずれも情報関係の機関であったため、研修生は非常に熱心だった。



フォーラムよこはま視察



パソコンソフトの説明

#### (5) 文化プログラム

会館ボランティアの協力により、お茶会、ホームビジット、川越めぐりなどを、土日のプログラムとした。重要文化財に指定されている日本家屋でのしの笛コンサートを聴く機会もあり、日本文化に触れる貴重な経験になったと思われる。



お茶会



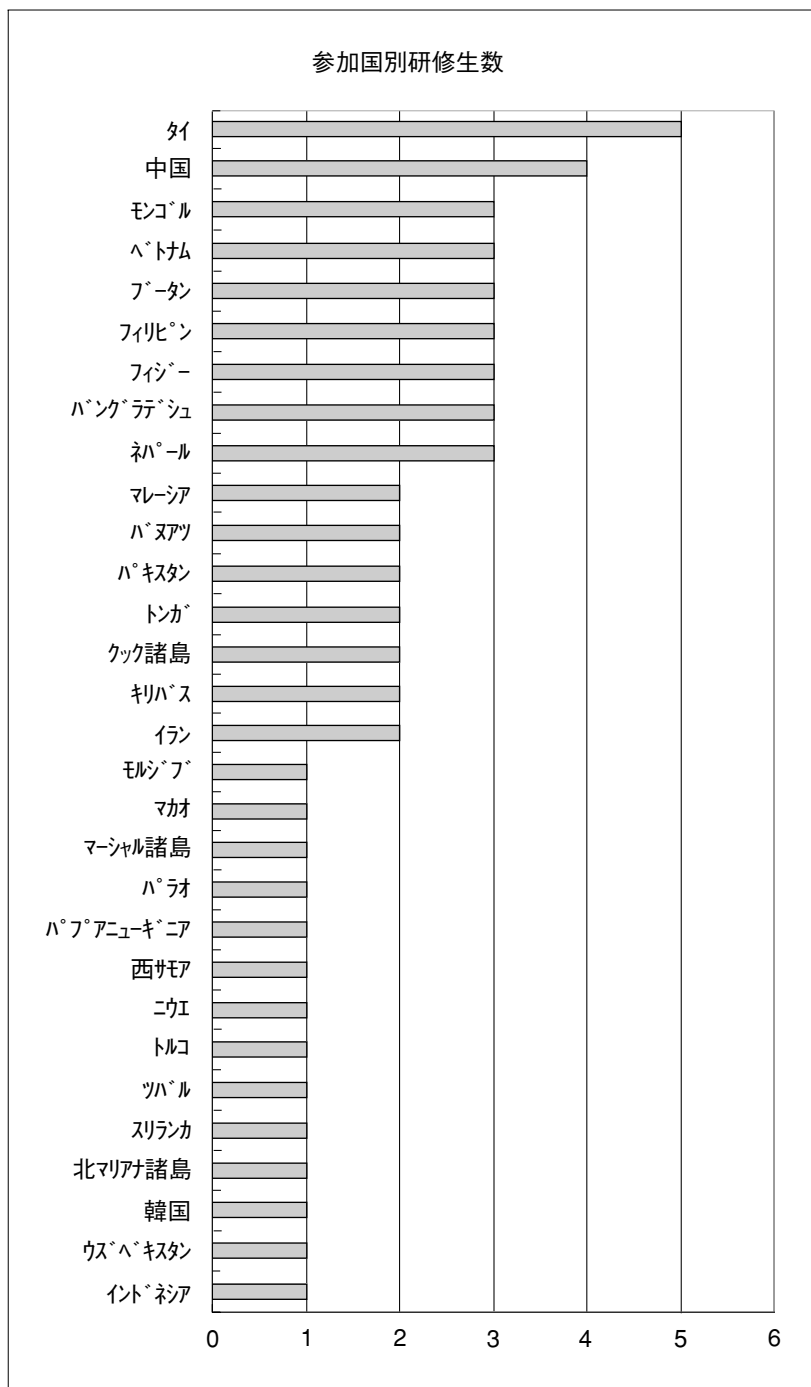
しの笛コンサート

### 7 今後の課題・展望

#### (1) これまでの流れ

本事業は政府開発援助の一環として平成元年度から行っており、今年度で12回目を迎えた。平成元年度にESCAP加盟国を対象に4名の研修生を受け入れ、60日間の日程で始まったが、平成8年度より研修生が6名と増え、研修期間を40日間とした。対象国も平成5年度からは準加盟国も含めたアジア太平洋地域のODA対象国全域とした。今年度までの参加国は30カ国（アジア州：17、太平洋州：13）研修生は延べ58名である。（参加国別研修生数は次ページの表を参照）

研修プログラムは情報技術の発展に沿った内容とした。当初はWordやExcelといったソフトの使い方が中心であったが、近年はウェブページの作成などの情報発信の技術研修を取り入れてきた。



## (2) 来年度へ向けて

ここ数年、情報技術の発達はめざましく、それに対応する情報研修の見直しの必要性が問われてきた。そこで、来年度より、本研修のこれまでの実績を踏まえ、日本を含むアジア太平洋地域の行政担当、NGOの指導者を対象とした情報処理技術の研修を行う予定である。多くの研修生を受け入れ、研修モデルを学ばせるという目的から、研修生を35名(日本人を含む)、研修期間を1週間と設定している。カリキュラム等の詳細は検討中の段階であるが、女性のエンパワーメントに必要な知識と技術を習得させるとともに、情報ネットワークを構築することにより、国際的な女性のエンパワーメントを実現することを目指している。

(情報交流課専門職員 合田 美恵子／青木 一恵)



# 家庭・地域で担う子育て支援セミナー

## 1 趣 旨

男女共同参画の視点に立った子育て支援をめざし、男性の子育て・地域活動への参加促進及び母親の子育て不安の解消を図る実践的研修を行う。

## 2 主 題 「男女が共に担う子育てをめざして」

## 3 期 日 平成12年9月8日（金）～9日（土） 1泊2日

## 4 参加者 143名（女性119名 男性24名）（申込者数 156名）

### (1) 年代別 (名)

性 別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
女 性	12	18	41	38	11	1	122
男 性	2	2	13	4	1	0	22
合 計	14	20	54	42	12	1	143

### (2) 所属別 (名)

所 属	女	男	計
地域で家庭教育支援に関わっている行政担当者	35	20	55
行政と連携して家庭教育支援に関わっている者	47	1	48
家庭教育支援を進めている団体・グループ	14	1	15
P T A	4	1	5
企業関係者	3	0	3
その他	16	1	17
合 計	119	24	143

### (3) 都道府県別 (名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	1	群馬県	1	長野県	1	福岡県	3	名古屋市	1
青森県	4	埼玉県	9	岐阜県	11	佐賀県	4	京都市	1
岩手県	1	千葉県	12	静岡県	6	長崎県	1	大阪市	1
宮城県	3	東京都	16	愛知県	1	大分県	1	北九州市	10
秋田県	5	神奈川県	6	大阪府	2	宮崎県	1	福岡市	1
山形県	1	新潟県	9	兵庫県	1	札幌市	2		
茨城県	12	富山県	4	島根県	4	川崎市	1		
栃木県	1	山梨県	1	香川県	1	横浜市	3		

計 29都道府県 8指定都市

## 5 プログラムの概要

### 【第1日 9月8日(金)】

(1) 開会 10:00～10:20

(2) 講義「男女共同参画社会及び家庭教育行政の動向について」 10:25～11:15  
 講師 文部省生涯学習局男女共同参画学習課家庭教育支援室長 石田 徹

- (3) 報告「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」 11:20~12:00  
 講師 国立婦人教育会館事業課主任研究官 中野 洋恵
- (4) 講演  
 「男女共同参画、はじめの一步を家庭から」 13:00~14:00  
 講師 恵泉女学園大学人文学部教授 大日向雅美
- (5) ワークショップ  
 「ジェンダーに敏感な視点を身につける—メディアの中のジェンダー—」 14:20~16:50  
 講師 フェリス女学院大学文学部助教授 諸橋 泰樹
- (6) 説明「子育て支援のための情報検索」 17:00~17:30  
 講師 国立婦人教育会館情報交流課専門職員 宮澤 紀美
- (7) 情報交換会 18:30~20:00

**【第2日 9月9日(土)】**

- (8) 分科会 9:00~14:30
- A 乳幼児期の親向けプログラムの企画「楽しい子育て」  
 講師 静岡大学教育学部教授 馬居 政幸
- B 父親向けプログラムの企画「お父さんのパワーアップ講座」  
 講師 会社員（メーカー管理職） 太田 睦
- C 家庭教育支援者向けプログラムの企画「あなたも子育て支援の力を」  
 講師 愛知県日進市立相野山小学校長・(元)愛知県教育委員会生涯学習課主査 小塚 淳子
- D 家庭教育相談員向け協議「家庭教育相談を考える」  
 講師 社会福祉法人子どもの虐待防止センター専任相談員 龍野 陽子
- (9) 全体会 15:00~16:20  
 「男女が共に担う子育てをめざして」  
 講師 静岡大学教育学部教授 馬居 政幸  
 会社員（メーカー管理職） 太田 睦  
 愛知県日進市立相野山小学校長・(元)愛知県教育委員会生涯学習課主査 小塚 淳子  
 社会福祉法人子どもの虐待防止センター専任相談員 龍野 陽子  
 コーディネーター 恵泉女学園大学人文学部教授 大日向雅美
- (10) 閉会 16:20~16:30

**6 プログラムの内容**

**(1) 講義「男女共同参画社会及び家庭教育行政の動向について」**

講師 文部省生涯学習局男女共同参画学習課家庭教育支援室長 石田 徹

近年、家庭の教育力が低下していると指摘されるが、社会構造の変化、地域社会の崩壊、少子化、学校教育への不信等々で、よい家庭、よりすぐれた家庭教育への期待が高まっていると考える。平成8年中央教育審議会答申では「家庭における教育は、本来家庭の責任にゆだねられており、それぞれの価値観やスタイルに基づいて行なわれるものである。そのため行政の役割は条件整備を通じて家庭の教育力の充実を支援していく」とあり、これが家庭教育支援の際の行政側の基本的態度である。

文部省では、一人ひとりの父親母親が家庭を見つめなおし、それぞれ自信を持って子育てに取り組んでもらうきっかけ、家庭教育のヒントとなることを願って家庭教育手帳・家庭教育ノートを作成した。今後は、思春期の子どもを持つ親向けに、家庭教育手帳・ノートのシニア版的なものを作りたい。また就学時検診時等に行う講演等を中心とした子育て学習の全国展開、思春期の子どもを持つ親向けの緊急子育て講座等のモデル事業を考えている。

## (2) 講演「男女共同参画、はじめの一步を家庭から」

講師 恵泉女学園大学人文学部教授

大日向雅美

昨年6月、男女共同参画社会基本法が成立したが、日本ではまだまだ女性が生きづらい。しかし男性が生きづらい社会でもある。男女それぞれが生きづらさを囲っているとするれば、そのルーツとして性別役割分業体制のひずみが今大きく現れている。

性別役割分業体制のひずみは、子育てにはっきり見える。専業主婦家庭、共働き家庭とも、夫の家事育児時間はそう変わらない。その理由は、企業社会にはびこる性別役割分業と男性の家庭参加を認めないこと、そしてみんなで力を合わせて変えようとしないうことにある。また育児は母親の仕事、特に乳幼児期は母親が最適任だという母性観も問題である。

子育て中のお母さんたちの9割は、子育てはつらい、子どもがかわいく思えないことがあるという。つらい理由は、一人の時間がないこと、話し相手がいないこと。たまには夫に声をかけてほしい、また、子育てが一段落した後社会に戻れるという保証があれば頑張れるというが、今はむずかしい状況である。



講演を行う大日向氏

21世紀の男女共同参画社会の理念は、経済構造の必然性から見ると、女性も男性も対等に、家庭・仕事・地域にかかわらなければならない。2025年には、みんなが社会を支えなければならない時代となる。女性が家庭責任を担いつつ生涯働くことができる社会は、同時に男性がほどほどの働き方で家庭に入れる社会でもある。人間らしく地域社会に生きるために、価値観を一番変えやすいのが子育てである。子育てのゆがみを見つめると、21世紀を開く鍵が男女共同参画だということが見えてくる。

## (3) ワークショップ「ジェンダーに敏感な視点を身につける—メディアの中のジェンダー—」

講師 フェリス女学院大学文学部助教授

諸橋 泰樹

はじめにワークショップとは何かについての説明があり、その後、メディアチェックの方法、ジェンダーに気づくことの重要性について講義を行った。次にテレビコマーシャルのビデオを見て、ワークシートを用いたメディアチェックを行い、気づいたことをグループ・全体で話し合った。

#### (4) 分科会

##### A 乳幼児期の母親向けプログラムの企画 「楽しい子育て」

講師 静岡大学教育学部教授

馬居 政幸

親の問題に関する講義の後、ビデオを視聴し、親が気楽に話せる人間関係の場作り、知恵を出し合う連携づくりの大切さの指摘があった。その後、グループ毎に「楽しさ」をキーワードとした乳幼児期の親向けプログラムを考えた。

##### B 父親向けプログラムの企画「お父さんのパワーアップ講座」

講師 会社員（メーカー管理職）

太田 睦

太田氏自身の子育て経験について講義後、男性が子育てに積極的に関わるには、育児家事をする中で男性のプライドを重視した役割を持つことの大切さを強調した。同時に父親が保育所行事、行政が企画した家庭教育学級に参加するきっかけとしては、イベント主義も有効であるとした。その後、各グループで父親向けプログラムを作った。

##### C 家庭教育支援者向けプログラムの企画「あなたも子育て支援の力を」

講師 愛知県日進市立相野山小学校長

・(元)愛知県教育委員会生涯学習課主査

小塚 淳子

支援者に必要な知識、実技、心得についての講義があり、ビデオで実際に支援者がどのような活動をするか視聴した。その後、アイスブレイクで人間関係づくりをし、12回分の支援者向けプログラムについて個別に考え、グループ内で相互に講評を行った。

##### D 家庭教育相談員向け協議「家庭教育相談を考える」

講師 社会福祉法人子どもの虐待防止センター専任相談員

龍野 陽子

虐待に関する電話相談、連携で成功した事例等の報告の後、子育ては真剣に取り組めば取り組むほど自分のいやなところを引き出すこと、虐待は特別な人の話ではなく、条件が悪ければ誰にでも起こりうる話であることの説明がり、養育者を肯定してくれる人が現れれば解決の糸口が見つかることの指摘があった。その後、グループでロールプレイを行い、相談をするというのはどういうことなのか、自分のことを話すのはこんなに楽になるのだと言うことを体験した。

## 7 今後の課題・展望

今年度は企画・運営ともに非常に好評であった。今後も地域・職種・年齢の枠を超えた多様な参加者、男性の参加を積極的に呼びかけていく必要があり、開催要項の発送時期、広報の場所・方法等の工夫が必要である。

(事業課専門職員 土岐 都子)



大日向氏のコーディネートによる全体会

# フォーラム家庭教育

## 1 趣 旨

子どもの「心の教育」の充実を図るために、男女が共に積極的に担う子育て及び地域社会との連携の中で担う子育てについて、幅広い意見交換を行い、家庭や地域社会の活性化を促す。

## 2 主 題

家庭・地域で育てよう、子どもの豊かな心  
 —— 親がいきいき、子どもがいきいき ——

## 3 主 催

文部省、国立婦人教育会館、埼玉県教育委員会

## 4 期 日

平成12年11月12日（日） 13：00～16：00

## 5 参加者 284名（女性260名 男性24名）

年代別 (名)

	20代	30代	40代	50代	60代	不明	計
女 性	4	19	64	65	56	52	260
男 性	1	2	6	6	4	5	24
計	5	21	70	71	60	57	284

## 6 プログラムの概要

### (1) 第1部 講演 「親がいきいき、子どもがいきいき」

講師 落語家 桂 文也

### (2) 第2部 パネルフォーラム 「家庭・地域で育てよう、子どもの豊かな心」

コーディネーター お茶の水女子大学大学院人間社会学教授 牧野カツコ

パネリスト 東京大学大学院教育学研究科教授 亀口 憲治

(社)日本PTA全国協議会顧問(前会長) 松井 石根

情報アドバイザー・ミズプランニング 須田 和



講演する桂氏



パネルフォーラム(牧野氏、松井氏、須田氏、亀口氏)



## 7 プログラムの内容

### 第1部 講演 「親がいきいき、子どもがいきいき」

夫婦のあり方が親子の関係や子どもの生き方に大きな影響を与えている。夫婦のコミュニケーションを大切にして、家族がそろって話のできる場を設定し、気づいたことを正面から伝えることが親子の絆を深めることになる。

最近の男性は確かに子育てや家事等をするようになってきた。しかし、手伝うという意識から抜け出せないでいる。男性にとって育児、妊娠、出産等は妻の問題であり、他人事と思っている人が多い。男性も、家事・育児等を自分のこととして捉え、主体的に参画して行くべきであり、それにはジェンダーの視点をもつことが大切である。

### 第2部 パネルフォーラム 「家庭・地域で育てよう、子どもの豊かな心」

保護者だけでは子育ては、もうできない状況にあるので、学校・地域・家庭の連携が大切だが、それぞれの役割が明確でなければ連携はできない。地域の中に学校があり、家庭があるのだから、地域の中でこういう学校をつくりたい、こういう子どもを育てるためにこういう家庭であってほしいという共通のコンセンサスが地域の中になければ、子育てはできなくなる。そのために、大人が共通の目標を持つこと、地域の中で学校・家庭はどうあるべきか考える場を地域住民が主体となって論ずることが大切である。

立派な大きな児童館が1つできるよりも自分たちがベビーカーを押して歩いていける身近なところにホットな場所、子連れにやさしい施設をつくることが大切である。また、おじいさん、おばあさんとのネットワークも必要である。

多くの子ども達はよい子として育ってきているので、よい子の重圧に挫折して引きこもり、不登校、家庭内暴力等を引き起こしてしまう。親も子どももいきいき生きるためには、親、大人が自分の心の中にもつ闇の部分に目を逸らず向き合い、見つめる作業が必要である。

母親の閉ざされた育児は、育児不安や極端な場合は虐待にもつながり、よい母親であろうとするとさまざまな問題を生じる。父親の育児参加は、母親の育児不安を取り除いたり、子どもの発達を促したりするという研究結果もある。父親が育児にかかわり、自分の子どもをもっと地域の人に見てもらい、他の人の子どものことも考えていく社会づくりが大切である。

## 8 今後の課題・展望

- (1) 「心の教育」は、社会的問題でもあり参加者の高い関心を誘った。父親参画と地域ぐるみの子育ての必要性が確認され、会場との活発な意見交換もあり、充実したフォーラムとなった。
- (2) プログラムの構成に変化をもたせ、例えば、第1部は寸劇等によりわかりやすい問題提起とし、第2部は、具体的な内容について講師と参加者が共に考える機会とする。
- (3) プログラムの決定を早めに行い、広報の方法を工夫をする。

(事業課専門職員 金 朝子)

# 男女共同参画学習推進フォーラム

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成をめざし、地域の実情と人々の学習要求に応じた生涯学習の推進と、広域的な施設間のネットワークの形成の充実を図るため、女性関連施設、生涯学習センター等の生涯学習関連施設と連携して地域において男女共同参画学習推進フォーラムを実施する。

## 2 主 題 男女共同参画社会の形成をめざした「学習」と「活動」

## 3 事業の内容

- (1) 男女共同参画社会の実現に向けて、従来の社会的慣行・意識・ライフスタイル等の見直しの視点にたった地域の具体的課題に資するものとする。
- (2) 国立女性（婦人）教育会館と共催機関が連携・協力して企画する。共催機関は、広域的な活動を行う女性関連施設、生涯学習センター等の生涯学習関連施設とする。
- (3) プログラムの企画に当たっては各地域ごとに企画委員会（教育委員会関係者・女性行政担当者・学識経験者等約10名）を組織し、女性に限らず、男性・高齢者等、幅広い層の参加者が積極的に参加できる工夫をする。

## 4 プログラムの概要

共催機関名・実施日	テーマ	実施方法	参加人数
1 もりおか女性センター （岩手県） 7月29日（土）	わたしたちのまちで働きたい・働きたい	ワークショップ 基調講演 シンポジウム	210名 女性 188名 男性 22名
2 大分県立生涯学習センター（大分県） 8月20日（日）	男女共生フォーラム～あなたが変わればみんなが変わる～	発表及びディスカッション、講演 （6/24～7/23の間3回のトーク&トーク）	354名 女性 302名 男性 52名 （8/20の参加者）
3 石川県立女性センター（石川県） 12月10日（土）	ネットワークで変える職場・家庭・地域	リレー対談 自主企画ワークショップ	300名 女性 280名 男性 20名
4 岐阜県生涯学習センター（岐阜県） 12月10日（土）	パートナーと創る21世紀・岐阜一地域発 男女共同参画ー	分科会 分科会報告 フォーラム	350名 女性 243名 男性 53名 不明 54名
5 和歌山県女性センター（和歌山県） 1月27日（土）	フォーラム・21世紀の男女共生社会きくのくに「癒し」のネットワーク	ネットワーク会場からの報告ネットワーク トーク 基調講演 対談 （7/30～1/13の間講演1回、講座6回）	300名 女性 275名 男性 25名 （1/27の参加者）

## 5 プログラムの内容

### 【もりおか女性センター】

#### (1) ワークショップ「働きたい女性のために考えよう」 10:00～12:00

事例発表をもとにそれぞれのテーマから浮かび上がる問題について話し合い、解決策を考えた。

- ① 上手に子育て前向き介護  
仕事が忙しくて保育に困ったり、家族の介護のため仕事を休まなければならない等、子育て・介護を社会全体の問題として考えた。
- ② 男女で考えるセクハラ対策  
働き続けたい女性にとって、職場の中で起きるセクハラは深刻な問題、今までの固定的な考え方を見直して、セクハラ対策を考えた。
- ③ 手の届く企業  
子育てなどで一度仕事を辞めたら難しい再就職、金融関係の女性への融資が低額という現状。こうしたことから起業するという事について考えた。

#### (2) 基調講演 「働き続ける女性たち」 13:30～14:30

講師 東京女性財団理事長

佐藤 洋子

これまでの女性の労働について、新聞記者として働き続けた自身の体験、また取材を通して見えたことについて語り、今後の少子化時代は、一人ひとりが可能な限り働き、可能な限り税金を納め、可能な限り社会保障を受けることが必要ではないかと述べた。



講演する佐藤氏

#### (3) シンポジウム「働きたい女性のために考えよう」 14:40～15:40

コーディネーター 東京女性財団理事長

佐藤 洋子

シンポジスト 岩手県立大学看護学部教授

石井 トク

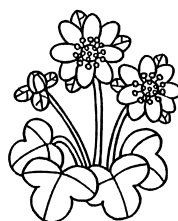
21世紀職業財団岩手事務所管理課長

安保 和子

(財)いわて産業振興センター新事業コーディネーター

関 洋一

結婚・子育てをしながら女性が働き続けること、また女性の再就職について、障害している要因及びその解決に向けて、それぞれの立場から考えを述べた。



## 【大分県立生涯学習教育センター】

### (1) 発表及びディスカッション

10:30~12:00

「男女共同参画社会」の実現をめざし、青年期、壮年期、高齢期のライフステージ別にその課題やその解決の方途についてトーク&トークを行い、その成果を共有する場としてフォーラムを開催し、それぞれの成果を発表した。

- ① 青年期のトークテーマ：家庭の中の話から
- ② 壮年期のトークテーマ：今なぜ男女共生の意識が必要なのか
- ③ 高齢期のトークテーマ：豊かな高齢社会はジェンダーフリーから



ライフステージ別の発表

### (2) 演劇「雑居病棟2号室」

13:00~13:50

ある雑居病棟の女性の入院患者たち－仕事一筋に生きてきた女性、女手ひとつで子どもを育てあげてきた母親、家庭を顧みない夫に不満をもつ妻など－の会話により、家庭における男女のあり方や女性の生き方を提案する劇を上映。

### (3) 講演「男女共同参画社会の実現に向けて ～生涯学習の役割と今後の取組

13:50~15:20

講師 北九州市立女性センター所長

三隅 佳子

生涯学習の視点と女性の地位向上の視点とのかかわり方が、男女共同参画社会の実現への課題そのものであり、それにはまず、自分が変わり、家庭を変え、地域を変えていくことが大切である、との問題提起のもと、具体的な取組について情報を得た。

## 【岐阜県生涯学習センター】

### (1) 分科会

10:30~12:00

それぞれ4つの分科会のテーマに応じて、各地域で活躍している団体等の代表者による事例発表と質疑応答が行われた。

- ① まちづくり 「地域発“元気印”あなたのまちでもはじめませんか」  
コメンテーター 国立婦人教育会館長 大野 曜
- ② ボランティア「私の生きがい 女と男：できることなんだろう」  
コメンテーター 中部学院大学人間福祉学部教授 巡 静一
- ③ 子育て 「男の自分発見 ～お父さん子育てを楽しんでいますか～」  
コメンテーター 岐阜大学教育学部教授 三牧 孝至
- ④ 職場 「改正均等法 あなたは働きやすくなりましたか」  
コメンテーター 岐阜大学教育学部教授 小林 月子

### (2) 分科会報告

13:35~14:10

各分科会の内容について、コメンテーターが報告・提案を行った。

- ① まちづくり  
行政と住民、そして議員との連携・分担がこれからの「まちづくり」「社会づくり」には欠かせないものである。また、住民からの情報発信、政策提言が停滞しがちな行政主導のまちづくりを変えていく大きな力になる。

② ボランティア

従来の行政セクターや企業セクターに代わって21世紀は市民レベルの取組、つまり市民センターが大きく浮かび上がってくる。行政に任せるのではなく、住民自らが汗をかき、参加していくことこそが住みやすいまちづくりには大切である。

③ 子育て

子育ては夫婦で行うものであり、母親任せではいけない。さらに、男性の地域社会への参画が子育てには必須であり、地域において活躍する「場」づくりを行うこと、そして、ヨコのつながりを深めていくこと、それが、地域を、子どもを大切にすることにつながっていく。

④ 職場

制度や施設が完備するのを待つだけでなく、制度をつくりながら、職場に注文をつけながら、自ら動く力をつけることが重要である。さらにまた、ネットワークを築いていくことも必要である。

(3) フォーラム「パートナーと創る21世紀・岐阜」

14:10~15:30

パネリスト 山岡町長

岐阜県女性海外派遣団「路の会」

(株)明宝レディース社長

子育てコンサルタント

前岐阜県PTA連合会会長

岐阜県青年のつどい協議会理事長

岐阜県青年のつどい協議会事務局次長

山内 章裕

春日井純子

本川 栄子

大洞 美季

水野 信

岩間 誠

堀田みさ子

コーディネーター

男女共同参画学習推進フォーラム企画委員長／中部学院大学短期大学部学長

片桐多恵子

「パートナーと創る21世紀・岐阜」に関して、どのように行動すべきかをそれぞれの立場から提案した。



フォーラム

【石川県女性センター】

(1) リレー対談「変わったか職場・家庭・地域」

10:40~12:10

講師 金沢信用金庫人事部主任調査役

放送局ディレクター

「ワークショップin小松」事務局

聞き手 コミュニケーションプランナー

木村 修

木村 珠美

毎田 雄一

伊藤 数子

男女平等の実現に向け制度は整いつつあるが、現実の社会は変わったのか、変わらなかったのかを三人の登壇者と参加者で検証した。

(2) ワークショップ

13:00~15:00

北陸三県から14の自主企画ワークショップを行い、寸劇、報告、討議、パネルディスカッション等様々な手法で男女共同参画について考えた。

① 仮称「男女平等推進条例」制定への市民サイドからのアプローチを

(富山)



- ② トーク&トーク「私の国際交流」～地域から世界へ (富山)
- ③ 男女共同参画へのアクション (福井)
- ④ 今、いっしょに考えませんか？0歳からのジェンダーフリーの子育て (福井)
- ⑤ 見直しませんか。わたしのまわり、あなたのまわり (福井)
- ⑥ 魅力ある「男女共同参画センター」(仮称)の設立を目指して (福井)
- ⑦ ジェンダーかるた作り (石川)
- ⑧ 女性・子どもの人権エンパワメント (石川)
- ⑨ 寸劇「GO!新世紀へ」 (石川)
- ⑩ 21世紀“家族の行方”を考える (石川)
- ⑪ 「これでいいの」女(ひと)と男(ひと)が共に自分らしい生き方を考える (石川)
- ⑫ ひとりの「自分」を大事に生きていますか？ (石川)
- ⑬ 熟年離婚、男の言い分、女の言い分「あなたのここが許せない」 (石川)
- ⑭ メディアの中の女と男 (福井)



寸劇によるワークショップ

## 【和歌山県女性センター】

### (1) ネットワーク会場からの報告

13:30~14:40

- ① 貴志川町生涯学習センター「男女共生づくり講演会」  
 弁護士の松原敏美氏の講演『あなたのための男女共生「男女共生」は21世紀の日本を救うキーワード』と会場で実施したアンケートの紙上報告があった
- ② 田辺女性センター「ビデオトーク講座 性別役割分担への気づき」(3回講座)  
 家庭・地域・職場のそれぞれの場面でのジェンダーを考えるビデオを鑑賞し、その後、参加者同士で望ましい家庭のあり方、夫婦のあり方等について話し合ったことについて報告があった。
- ③ 和歌山大学生涯学習教育研究センター (3回講座)  
 「若い世代とジェンダー・フリーな生き方・友達づくりの本音トーク」  
 若い世代にとって身近なテーマである恋愛、結婚、子育て、学校、就職などについても 気楽に本音トークしながらジェンダーについて考えようというもので、大学生を中心にした参加者は、ジェンダーをテーマにした劇の制作も手がけた。報告では、代表の3つのグループが、ジェンダーパフォーマンスを披露した。



ジェンダーパフォーマンス

### (2) ネットワークトーク

パネラー	国立女性教育会館長	大野 曜
	田辺女性センター運営委員長	良原 昌子
	和歌山大学生涯学習教育センター教授	雑賀 敏浩
	和歌山県女性センター長	宮崎 恭子

男女が共に社会を作っていくことの必要性、学校の中にジェンダー教育や男女共同参画の理念を教えたり、触れる機会を作ること等が話し合われ、会場との活発な意見交換があった。

(3) 基調講演「21世紀男女共生社会づくり」 15:35～15:45

講師 内閣府男女共同参画局長 板東真理子

男女共同参画は究極の目的であり、ステップである。一人ひとりが自分の生き方を選択し、男性女性のレッテルを貼らず一人ひとりを大事にしていく施策ができれば、日本にまた新しい活力が生まれると講演した。

(4) 対談「和歌山県を全国モデルに」 15:50～16:20

講師 内閣府男女共同参画局長 板東真理子  
和歌山県知事 木村 良樹

女性と男性のパートナーシップ、条例の果たす役割について対談し、新しい社会づくりを提言した。

## 6 今後の課題・展開

(1) 男女共同参画社会の形成に向けて、地域の具体的課題に資する内容であり、多様なプログラムとなった。

(2) フォーラムの企画・実施に当たっては、共催機関と連携・協力して男女共同参画社会の形成にかかるプログラムの充実を図る。

### 【目で見えるヌエック】

目で見えるヌエックのコーナーでは、国立女性教育会館の概要や主催事業をパネル・ビデオで紹介した。



(事業課専門職員 金 朝子)

# NWEC（国立女性教育会館）アドバンスコース

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成に向け、女性教育・家庭教育に関する事業の企画・立案に必要な専門的知識・技術の習得及びジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）に敏感な視点を身につける実践的な研修を行う。

## 2 期 日

平成13年1月22日（月）～26日（金） 4泊5日

## 3 参加者

参加者数 105名（女性88名 男性17名）

### (1) 年代別 (名)

	20代	30代	40代	50代	60代	計
女 性	15	7	32	26	8	88
男 性	1	3	9	4	0	17
合 計	16	10	41	30	8	105

### (2) 所属別 (名)

	教育委員会	首長部局	施設関係者	団体・グループ	その他	計
女 性	13	26	22	25	2	88
男 性	6	9	1	1	0	17
合 計	19	35	23	26	2	105

## 4 プログラムの概要

### 【第1日 1月22日(月)】

- |                                   |                    |             |
|-----------------------------------|--------------------|-------------|
| (1) 開 会                           |                    | 13：30～14：00 |
| (2) シンポジウム「男女共同参画基本計画と地方自治体の基本計画」 |                    | 14：00～16：00 |
| 講 師                               | 山口県環境生活部次長         | 今村 孝子       |
| 講 師                               | 中野区地域センター部女性・青少年課長 | 荒畑 正子       |
| 講 師                               | にいがた女性会議運営委員       | 笹川 幸子       |
| コーディネーター                          | 聖徳大学教授/男女共同参画審議会委員 | 松下 俱子       |
| (3) グループ討議                        |                    | 16：15～17：00 |
| (4) 情報交換会                         |                    | 18：00～19：30 |

### 【第2日 1月23日(火)】

- |                                   |                               |             |
|-----------------------------------|-------------------------------|-------------|
| (5) 説明・見学「女性教育情報センターにおける情報提供サービス」 |                               | 9：00～10：15  |
| 説 明                               | 国立女性教育会館情報交流課                 |             |
| (6) 体験学習「意識変容・エンパワーメントに向けた学習」     |                               | 10：30～17：00 |
| 講 師                               | 東洋英和女学院大学教授／<br>国立女性教育会館客員研究員 | 藤村久美子       |
| (7) 自由研究                          |                               | 19：00～21：00 |

**【第3日 1月24日(水)】**

- (8) 講義・討議「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の今日的課題」 9:00~11:30
- ① 「女性と健康」 講師 ジョイセフシニアプログラムオフィサー 勝部まゆみ  
② 「女性と経済」 講師 日本女子大学人間社会学部教授 大沢真知子
- (9) 分科会「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究」 13:00~17:00
- A 「女性のエンパワーメントをめざした事業の企画・立案」  
講師 国立女性教育会館事業課研究員 伊藤真知子  
コーディネーター 国立女性教育会館情報交流課専門職員 合田美恵子
- B 「男性を対象とした男女共同参画学習プログラムの企画・立案」  
講師 静岡県立大学国際関係学部教授 石川 准  
コーディネーター 国立女性教育会館事業課専門職員 小林千枝子
- C 「家庭教育に関する事業の企画・立案」  
講師 国立女性教育会館事業課主任研究官 中野 洋恵  
コーディネーター 国立女性教育会館事業課専門職員 金 朝子
- D 「方針決定へ向けたNGO・NPO活動」  
講師 武蔵野女子大学現代社会学部助教授 藤原 千賀  
国立女性教育会館事業課専門職員 土岐 都子
- (10) 自由研究 19:00~21:00

**【第4日 1月25日(木)】**

- (11) 分科会 前日のつづき 9:00~12:00
- (12) グループワーク「分科会報告」 13:30~14:30
- (13) 全体会「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策」 14:40~15:50
- 講師 国立女性教育会館事業課研究員 伊藤真知子  
講師 静岡県立大学国際関係学部教授 石川 准  
講師 国立女性教育会館主任研究官 中野 洋恵  
講師 武蔵野女子大学現代社会学部助教授 藤原 千賀  
コーディネーター 国立女性教育会館事業課専門職員 金 朝子
- (14) 「評価・まとめ レポート作成」 16:00~17:30
- (15) 自由研究 19:00~21:00

**【第5日 1月26日(金)】**

- (16) 講義・討議 「ふりかえり・評価」 9:00~10:50  
講師 東洋英和女学院大学教授／  
国立女性教育会館客員研究員 藤村久美子
- (17) 講義「『男女共同参画基本計画』と女性教育・家庭教育の現状と課題」 11:00~12:00  
講師 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長 有松 育子
- (18) 修了証書授与 12:15~12:35
- (19) 閉会 12:35~12:45

## 5 プログラムの内容

- (1) シンポジウム「男女共同参画基本計画と地方自治体の基本計画」

「男女共同参画計画」を受け、地方自治体では、具体的にどのような取組がされているのか、それぞれの地域、立場から報告があった。

- ① 中野区は、国の基本法を待たずに基本計画を策定した。特色は、区と住民が一体となって策定作業を行ったこと、部長クラスを巻き込んだことにより作業がスムーズに進んだ

ことであり、今後の課題として「指標づくり」と「厳しい財政状況の克服」をあげた。

- ② 山口県は、全国で3番目に男女共同参画推進条例を策定している。基本計画は、男女共同参画を推進する具体策、男女共同参画社会基本法、山口県男女共同参画推進条例における策定義務、と位置づけられており、今後の基本計画策定スケジュールの説明があった。
- ③ にいがた女性会議からは、NGOとして行政の基本計画策定にどのように参画すべきか、具体的取組について報告があった。問題点として、行政の担当課は各課からの意見をそのまま通してしまうということとをあげ、行政とNGOのパートナーシップの重要性が指摘された。
- ④ 国の基本計画具体策への取組について松下氏は、「早期実現のため、地方自治体、NGOへの支援」「世帯別から個人別の社会保障制度づくり」「暴力の防止」などをあげ、推進体制については、男女共同参画会議、内閣府男女共同参画局の説明があった。課題として、国の基本計画と地域の実状には大きな開きがあり、それをどう克服するかが重要だと指摘した。



開会風景



体験学習風景

## (2) 体験学習「意識変容・エンパワーメントに向けた学習」

男女共同参画社会の形成に向けた学習を進めるために必要な視点、学習プログラムを作成する際の留意点、および学習を援助するファシリテーターの役割、主体的な学習方法について体験的に考えるため、①ビデオをつかったワークショップ、②ジェンダーアイデンティティを検証するワークショップ、③英単語からの言葉を連想するワークショップ、④英字新聞を利用したワークショップなど、さまざまなワークショップを体験した。

## (3) 講義・討議「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の今日的課題」

### I 「女性と健康」

- ① リプロダクティブヘルスとは、WHOの定義によると、「人間の生殖システム、その機能と過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全な良好状態にある」ことをさす。言いかえると、「自分のからだと性について決めるのは自分自身であり、子どもを産む、産まないにかかわらず、からだと性の自己管理に必要なヘルスサービスや情報を一生を通して権利として保証する必要がある。そして男性及び女性が共にセクシャリティーについて自信をもち、心地よく過ごせること、性感染症や望まない妊娠を防ぐこともできる」ので

ある。

- ② リプロダクティブヘルスの問題としては、「妊娠の合併症」「思春期の妊娠を含む望まない妊娠、または時機の適当でない妊娠」「HIV/AIDSを含む性感染症」「不妊」「生殖器系の疾患」などがある。また、リプロダクティブヘルスケアに含まれる内容としては、「家族計画」「産前・産後検診」「訓練されているスタッフによる出産介助や婦人科系の緊急治療」「人工中絶に関連したサービス／中絶による合併症の治療」「不妊や性感染症の予防・診断・治療」「健康教育とリプロダクティブに関するカウンセリング」などがある。

- ③ 全世界で、よりよいリプロダクティブヘルスケアに必要な年間合計予算は、およそ17億ドルであり、これは、全世界の1週間の軍事費に及ばない。

また、リプロダクティブヘルスの状態が悪い根本的な原因としては、「教育の不足」「重労働」「栄養不良や全国的な健康状態の悪さ」「女性の性器切除」「早婚・若年齢出産、早すぎる子育て」「女性に対する暴力」「女性が置かれている社会的、法的に低い地位」「決定権がほとんどあるいはまったくなく、富を支配することができない」などがある。

リプロダクティブヘルスを推進するためには、男性に対する働きかけが大切であり、男性の責任感（パートナーシップ）を高めることが必要である。

## II 「女性と経済」

- ① 現在の日本における女性の雇用労働の現状をみると、女性の高学歴化が進み、それまで男性ばかりの職業分野にも女性が進出している。また、日本における労働者を男女別にみると、賃金格差、人材登用の格差が大きくなっている。また、女性の就労形態としては、正規職員ではなく、非正規社員（パートタイマー）の場合が多く、経済の低迷が続く中、「年功序列の賃金体系をとらなくてよい」「社会保障、健康保険の負担をしなくてもよい」など、企業にとってパートタイマーを雇うことのメリットは大きい。経済のグローバル化に合わせ、雇用を柔軟化していかなければならない。

- ② 現在、少子化が大きな社会問題になっており、その要因の一つに、女性の社会進出がいられている。しかし、女性が働くから出生率が下がるわけではない。働きながら子育てすることが女性にとって負担であるから、子どもを産むことを選択しない女性が増加しているのである。だから、仕事と子育ての両立が可能な支援策を取っていけば、女性も夫婦が望む人数の子どもを産むようになる。出生率の問題は、産みたくない人に産めといっているのではなく、産みたいけれど産めない人が多いことである。

- ③ 新しい働き方のモデルのひとつに、オランダモデルがある。いわゆるパートタイム革命である。オランダのパートタイムについての考え方と日本のそれとでは、意味が異なる。日本ではパートタイマーというのは正社員と処遇差があるが、オランダの場合は、正社員の短時間労働の就労形態をいう。パートタイム革命は、雇用保障を守ろうとする労働組合の願いと、保障はする代わりに賃金はあげないといった労働コストを削減したい経営者の意図、財政赤字を減らすという政府三者のそれぞれの目的を合致させて生み出した就労形態である。

### (4) 分科会「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究」

#### A 「女性のエンパワーメントをめざした事業の企画・立案」

男女共同参画社会の実現には女性問題解決に向け、女性のエンパワーメントが必要



である。さらに、女性のエンパワーメントをめざした事業・企画・立案のためには、①ジェンダーに敏感な視点を組み込んだ学習であること、②参加型・体験型の学習方法を取り入れること、③プログラム全体の一貫性を図ること、④学習者のニーズを把握すること、⑤企画の方法に留意することが大切である。

#### B 「男性を対象とした男女共同参画学習プログラムの企画・立案」

男性を対象としたプログラムということで、ターゲット（男性）を明確にすることが必要である。男は優越、所有、権力への飽くなき志向が強く、現在の“男らしさ”は手離さないのは明白である。それであるならば、新しい準拠モデルを提示することにより、男らしさの定義を変更すればよい。そして、プログラムを企画・運営していくためには「男女共同参画社会」という言葉について現場でふくらませ、読み替えていくことが必要である。

#### C 「家庭教育に関する事業の企画・立案」

家庭教育事業には男女共同参画の視点が必要であり、そのポイントは、①ジェンダー・バイアスへの気づき、②固定的な性別役割分担意識を是正し、父母が共に子育てをする認識をもつこと、③男らしさ、女らしさにこだわらない子育て、④妻と夫の関係の見直しである。これらのことを考えながら、「ジェンダーに敏感な視点を身につける」ような学習プログラムを企画することが重要である。



ワークショップ風景



プログラム試案の発表風景

#### D 「方針決定へ向けたNGO・NPOの活動」

具体的な活動事例として、市民の手で条例私案をつくった「高槻ジェンダー研究ネットワーク」と、もりおか女性センター設立に向けた活動に取り組んできた「もりおか女性の会」の活動報告をもとに、それぞれの方針決定に向けた活動について、その状況と課題、さらにどのような力をつけることが必要か、についてグループ討議を行った。具体的には、住民と行政の対等な立場でのパートナーシップの重要性、今後女性自身が身につける力として、コミュニケーション能力の必要性が指摘された。

#### (5) 全体会「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究」

それぞれの分科会講師より課題解決に向けてのキーワードとして、伊藤氏からは「楽になること」（ジェンダーの縛りから自分を楽しにする）、石川氏からは「新しい男らしさについての準拠モデルの提示」（男らしさの定義の変更）、中野氏からは「男女共同参画」

(子育て、家庭教育に必要な視点)、藤原氏からは「行政とのパートナーシップ」(まずはNGOと行政が情報交換を行い、お互いを理解し合うことが必要)が、それぞれ提言された。

(6) 講義・討議「ふりかえり・評価」

1 グループ5～6名に分かれ、各自が作成したレポートを回し読み、それぞれにコメントをつけた。講師からは、「学習者一人ひとりが自分のペースで考えられように助言することがファシリテーターの役割であること」「グループ学習の必要性」「講師の話をするのみにするのではなく、疑うことが必要であり、自分で考える姿勢が大切であること」ほか、意識変容・エンパワーメントに向けた学習方法について助言があった。

(7) 講演「男女共同参画基本計画と女性教育・家庭教育の現状と課題」

「男女共同参画社会の形成に向けた行政の動向として、「男女共同参画社会基本法」にもとづき策定された「男女共同参画基本計画」の説明、特に文部科学省がかかわる具体的施策の説明があった。さらに、男女共同参画推進に向け、国の政策を監視し評価する、影響を調査する機能を有する男女共同参画会議(事務局は、内閣府男女共同参画局)について情報提供があった。

## 6 今後の課題・展望

(1) アドバンストコースは今年度で終了するが、これまで6年間にわたるアドバンストコースで実施した学習プログラムの企画・運営上の視点・留意点、そして具体的な学習課題や学習方法をあらためて見直し、その蓄積のもとに、プログラム開発を行うことが必要である。

(2) 参加者から出されている学習ニーズとしては、ファシリテーターの役割、講座修了生の次のステップへの支援の仕方、体験学習の具体的方法、そして対象を絞った研修(例えば、行政とNGOを別にした研修)、行政とNGOとのパートナーシップの組み方などがある。

(事業課専門職員 小林 千枝子)

# 公開講演会

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成に向けて、女性・男性、家庭・家族等に関する今日的課題について解決の手がかりを得るために、有識者による講演会を開催する。

2001年は「ボランティア国際年」である。我が国においても、国民のボランティア活動への関心は年々高まり、今後もボランティア活動は一層の進展が期待される。そこで、男女共同参画社会の形成に向けて、参加者のボランティア活動への意欲の向上に資する講演会を開催する。

2 主 題 「私とボランティア活動 —教育こそボランタリィ精神で—」

3 主 催 ヌエック 国立女性教育会館

4 期 日 平成13年2月3日（土） 13：30～15：30

5 参加者 530名（女性483名 男性47名）

### (1) 年代別 (名)

	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
女 性	2	11	7	71	142	218	32	483
男 性	1	1	0	2	19	17	7	47
合 計	3	12	7	73	161	235	39	530

### (2) 職業別 (名)

	フルタイム	パートタイム	農林漁業	自営業	無職	学生	その他	不明	計
女 性	62	55	17	24	248	4	10	63	483
男 性	17	1	1	7	7	1	13	0	47
合 計	79	56	18	31	255	5	23	63	530

### (3) 都道府県別 (名)

都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数
秋田県	1	群馬県	27	神奈川県	2	静岡県	1
茨城県	14	埼玉県	325	新潟県	1	鳥取県	2
栃木県	20	東京都	12	長野県	125		

計 11都道府県

## 6 プログラムの概要

(1) 開会 13：30～13：40

(2) 講演 13：45～15：30

「私とボランティア活動  
—教育こそボランタリィ精神で—」

講師 黒沼ユリ子  
(バイオリニスト、フェリス女学院大  
学教授)

(3) 閉会 15：00



講演を行う黒沼氏

## 7 プログラムの内容

### (1) 女性問題に関わるきっかけ

初めて女性問題に関わろうと思ったのは、1975年、メキシコで開かれた国際婦人年世

界会議であり、取材のお手伝いをした。その時に、世界の女性が長い間差別されていることを知った。メキシコ会議は公式な政府間会議の他に、トリビューンと呼ばれるNGOの会合があり、そこでは女性のおかれた現状とそこからの解放を叫ぶだけではなく、今は男性も女性も含めた「人間解放」を行わなければ生きていけないという切羽詰まった状況だった。この時に日本の女性記者を伴って、一時期住んでいた山奥に行った。男性は、使い古しではあるがサンダルを履いているが、女性ははだしの生活。そこにも明らかな男女差別を感じた女性記者は、その後ボランティアな意志を堅くして、女性問題の解決に向けて闘う活動に入っていった。

## (2) 豊かさとは、幸せとは

メキシコでは、同じ種類の衣服は、最低限3枚あればいいと言う。日本では「ものの捨て方」の書かれた本が売れるというが、異常である。果たしてそれほどものが必要なのかと立ち止まって考える必要があるのではないか。メキシコの社会は、貧富の差が大きい。学校に行けない、ストリートチルドレンになる、等々、貧しい子どもがたくさんいる。しかし不幸かという、決してそうとも思えない。多少の不平・不満はあるかもしれないが、フラストレーションをためるほどでもない。今の暮らしは苦しくても、いつかはよくなると思っている。お金もある程度まであればいい、ここまであれば十分だ。少ししかないものもまわりの人に分け与えたり、娘の誕生日に、今まで一生懸命貯めたお金を全部使って近所の人に大盤振る舞いをしたりする。幸せの価値観は、人それぞれ違うものだが、メキシコの人には人に楽しみを与えられれば、いつかは自分が幸せになれると考えている。それが人生を楽しく生きる知恵なのではないだろうか。

## (3) 教育とボランティア精神

教育とボランティア精神は共通する所がある。ボランティアとは、意志があるということで、教育もボランティアも、生活とは無関係に自分の意志を持って何かをすることが大切である。

メキシコでは大きくなっても意志があれば学校に行くことができる。自分が行きたいと思えば学校にいける仕組みになっている。本当の教育とは、学ぶことは楽しい、こんなに素敵だということを実感させることである。メキシコでは、当たり前のように学校に行った人でも、その後も何度も学校に行く。女性も高校卒業後に結婚し、子育てが一段落すれば大学に行くことがある。メキシコの女性はよく働く。お金がある人も働く。働くことが好きであり、自分の学びを生かすために働く。今では勉強を積んだ女性達が、大臣、大学教授、大使等になり活躍している。

一番役に立つボランティアとは、自分の専門を生かすことであり、生半可ではできない。70歳近い友人は、毎日英語の教室を開いており、長い年月を掛けて自分に代わって教えることのできる後継者を育てている。「アカデミア・ユリコ・クロヌマ」は、非営利法人であり、私自身は無報酬で教えている。しかし講師に払う給料分として、必要最低限の月謝は取っている。

物乞いに余ったお金をあげるだけでは、ボランティアではない。ボランティアとは、意志を持ってやることであり、それが世間の役に立ち、さらに後継者を育てることである。教え子がようやくプロのバイオリニストになり帰ってきている。彼らにアカデミアを渡し、田舎に後継者を作るために、また一歩からボランティアでバイオリンを教えはじめようかなと考えている。

## 8 今後の課題・展望

- (1) 女性、家庭・地域で担う子育て支援セミナー・家族に関して当面する課題について有識者による講演会を開催してきたが、参加者層の広がりを図るよう、人選、方法、広報等を見直し、工夫する必要がある。
- (2) 男性の積極的な参加を促す講演とするよう、男性のニーズを把握する。

(事業課専門職員 土岐 都子)

# 女性の教育問題担当官セミナー

## 1 趣 旨

開発途上国における男女格差の是正と女子の教育機会の保障に対する支援、及び社会発展・開発の担い手となるべき人材を育成するための教育機会の充実を図る。

## 2 主 催

文部科学省、国立女性教育会館、国際協力事業団

## 3 期 日

平成13年 2月13日（火）～ 3月10日（土） 26日間

## 4 参加者

8カ国、8名

## 5 到達目標

- (1) 日本や他の国の教育に関する歴史的展開並びに教育政策に関する理解を深める。
- (2) 参加各国において、女性の地位向上に資する教育政策について、明確な具体像を把握する。
- (3) 自国の教育政策の形成に必要な知識及び能力の向上を図る。
- (4) 日本の社会、文化に関する見識及び理解を深める。



カントリーレポートの発表



女性教育情報センター見学



お茶会



お茶の水女子大学ジェンダー研究センター視察

## 6 プログラムの概要

月 日	時 間	研修内容	場 所
2/13 (火)		来日	
2/14 (水)	9:30~14:00 15:00~16:30	JICAブリーフィング プログラムオリエンテーション	東京国際研修センター JICA国際総合研修所
2/15 (木)	9:30~17:00	ゼネラルオリエンテーション	東京国際研修センター
2/16 (金)	9:30~17:00	ゼネラルオリエンテーション	東京国際研修センター
2/17 (土)	~12:30	都内見学	
2/18 (日)			
2/19 (月)	10:00~10:20 10:30~12:00 13:30~15:00 15:00~16:00	文部科学省生涯学習政策局 主任社会教育官名取はにわ氏表敬 講義「日本の教育制度」 文部科学省生涯学習企画官 義本 博司 講義「日本の教育行政」 (同上) 講義「教育における男女平等」 文部科学省男女共同参画学習課長 有松 育子	文部科学省
2/20 (火)	10:00~12:00 13:00~15:00 16:00~17:30	講義「日本の国際教育協力」 大阪大学人間科学部教授 内海 成治 国総研セミナー：開発途上国への教育協 力を考える フランソワーズ・カイヨー 日本文化紹介（水墨画）	JICA国際総合研修所
2/21 (水)	9:30~15:00	スクールマッピングとマイクロプランニ ングについて (技術教育専門家養成研修コースとの ジョイント) フランソワーズ・カイヨー	JICA国際総合研修所
2/22 (木)	10:00~12:00 13:30~17:00	講義「女子教育と経済開発」 広島大学教育開発国際協力センター助 教授 黒田 一雄 カントリーレポート準備	JICA国際総合研修所
2/23 (金)	10:00~17:00	カントリーレポート発表	JICA国際総合研修所
2/24 (土)	午後	京都に移動	京都
2/25 (日)		京都観光	京都
2/26 (月)	10:00~12:00 午後	講義「学校教育とジェンダー」 神戸大学教授 朴木佳緒留 東京へ移動	神戸大学
2/27 (火)	13:30~15:00 18:30~20:30	千葉県女性センター視察 国際協力の集い	千葉県女性センター JICA国際総合研修所



月 日	時 間	研修内容	場 所
2 / 28 (水)	9 : 30 ~ 11 : 30	講義「女性と暴力」 お茶の水女子大学生活科学部教授 戒能 民江	JICA国際総合研修所
	14 : 00 ~ 16 : 00	放送大学視察	放送大学
3 / 1 (木)	9 : 30 ~ 11 : 30	講義「女性と健康」 (財)家族計画国際協力財団 (JOICFP) 福田 友子	JICA国際総合研修所
	13 : 00 ~ 15 : 00	お茶の水女子大学ジェンダー研究センター視察 館 かおる (対応)	お茶の水女子大学
	15 : 00 ~ 17 : 00	NWECへ移動	国立女性教育会館
	18 : 00 ~ 19 : 30	歓迎会	
3 / 2 (金)	9 : 30 ~ 11 : 30	女性教育施設とNWECの役割 事業課概要説明 伊藤研究員	国立女性教育会館
	11 : 30 ~ 14 : 30	情報交流課概要説明 情報係・国際交流係	
	14 : 30 ~ 15 : 30	お茶会	
3 / 3 (土)		ホームビジット	
3 / 4 (日)			
3 / 5 (月)	9 : 30 ~ 15 : 00	学校視察 (菅谷小学校、玉ノ岡中学校) 東京へ移動	
3 / 6 (火)	10 : 00 ~ 12 : 00	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 視察	ユネスコ・アジア文化センター
	14 : 00 ~ 16 : 00	富士通視察	富士通株式会社
3 / 7 (水)	10 : 00 ~ 16 : 00	ワークショップ 大阪大学人間科学部教授 内海 成治	JICA国際総合研修所
3 / 8 (木)	15 : 00 ~ 16 : 30	評価会	JICA国際総合研修所
	17 : 00 ~ 17 : 30	閉講式	
	17 : 30 ~	フェアウェルパーティー	
3 / 9 (金)		帰国準備	JICA国際総合研修所
3 / 10 (土)		離日	



給食を体験



女性管理職との懇談



学校訪問



閉講式

## 7 今後の課題・展望

研修生との評価会、コースリーダーの内海成治氏（大阪大学人間科学部教授）との反省会において、以下のような意見が出された。

### （1）研修生

英語があまり堪能でない研修生は、講義の理解がむずかしい場合もあったように見受けられた。英語以外の言語（スペイン語、フランス語等）での実施も将来的には考えられるかもしれない。

### （2）カントリーレポート

カントリーレポートの発表は研修生各国の状況を知るための貴重な時間であるが、発表者に対する質問という形に留まり、ディスカッションには発展しにくい。全体的な報告に加えて、それぞれの研修生がひとつのテーマ（女子の就学率、中途退学者の割合等）について報告し、それについて研修生全員でディスカッションするような形式を考えたい。そのためには研修生決定後、来日前に何のテーマで話し合いたいか伝えるなどの、現地のJICA事務所との連携が必要であろう。

### （3）カリキュラム

今年度の反省点として、ワークショップ的な時間が少なく、講師対研修生という形での講義が多かった。今後はひとつのテーマに対して、講義→視察→ワークショップといった一連の流れのあるプログラムの可能性を検討したい。

### （4）研修環境

研修室にインターネットに接続できるコンピュータを設置する、壁に地図をかける、グループディスカッションしやすいような簡易な椅子を用意するというような配慮により、リラックスした雰囲気の中での研修も考えていきたい。









### （5）来年度に向けて

本セミナーは5年計画で、平成8年度より始まり、今年度で終了となった。来年度からは「女性教育推進セミナー」（仮題）として、開始される予定である。女子教育・女性教育の推進を支援するための研修ということで内容的には今までのセミナーと大きな違いはないと思われるが、この5年間の反省を活かし、より柔軟な研修プログラムを検討していきたい。

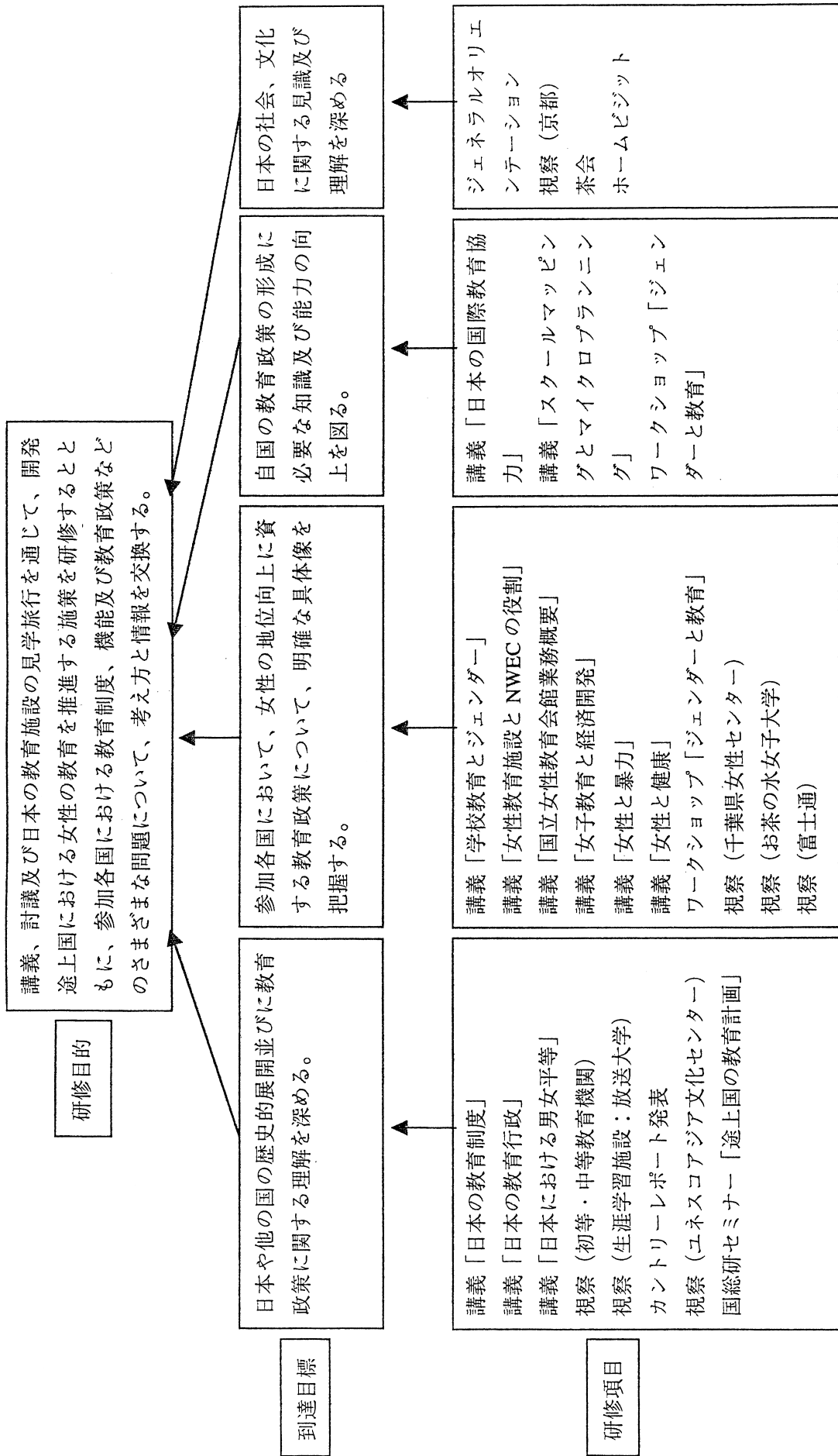
（情報交流課専門職員 青木 一恵）

LIST OF PARTICIPANTS IN "SEMINAR FOR OFFICERS OF WOMEN'S EDUCATION"

(平成12年度「女性の教育問題担当官セミナー」研修員リスト)

No.	Photo	Country	Name	Present Post	Mailing Address
1		Benin	Ms. BOCO Epouse Ali Assiba Agnes ボコ エポーズ アリ アシバ <u>アグネス</u> (D-00-11103)	Head of Girls' Education Service, Planning Department of Ministry of National Education and Scientific Research 教育・科学省 企画部 女子教育課長	03 BP 1588 Jericho Cotonou, Benin
2		Cambodia	Ms. CHHUN Sok Yean チュン ソクイエーン (D-00-11065)	Staff, Department of General Secondary Education, Ministry of Education, Youth and Sport 教育・青少年・スポーツ省 中等教育部スタッフ	169 Norodom Boulevard, Phnom Penh, Cambodia
3		Ethiopia	Ms. Yeffign WORKU Jemberie エルフイン ウォルク ジェムベリー (D-00-09911)	Head, Women's Affairs Dept., Ministry of Education, Women's Affairs Department 教育省 女性問題部 部長	P. O. Box 1367 Ministry of Education Women's Affairs Dept. Addis Ababa, Ethiopia
4		Haiti	Ms. DURCE Maguy デュルセ マギー (D-00-11618)	Chief of the External Cooperation Service, Ministry of National Education of Youth and Sports 青少年教育・スポーツ省 海外協力主任	#2 Lycée Français Street, by Marcadieu St. Bourdon, Port-au-Prince, Haiti
5		Malawi	Ms. Evelyn CHINGUWO エブリン チングオ (D-00-11064)	Senior Planning Officer Ministry of Education, Science and Technology 教育・科学・技術省 上級企画官	Ministry of Education, Science and Technology Private Bag 328, Lilongwe 3, Malawi
6		Nepal	Mr. Ram Prasad BASHYAL ラム プラサド <u>バシヤル</u> (D-00-11290)	Under-Secretary, Ministry of Education and Sports 教育・スポーツ省 次官	CHHA-2-421-1, Lazimpat, Kathmandu, Nepal
7		Oman	Ms. Zeinab Al-QASMI ザイナブ アルカスマ (D-00-10259)	Deputy Head, English Dept., Ministry of Social Affairs, Labour & Vocational Training 社会・労働・職業訓練省 英語教育課 課長代理	P. O. Box 636, PC. 130, Al-Uthaiba - Muscat, Oman
8		Tanzania	Ms. Mwanaidi Saleh ABDALLA ムワナイダイ サレー <u>アブダラ</u> (D-00-10717)	Commissioner, Policy Planning and Administration, Ministry of Education 教育省 専門業務部 コミュニケーション	Ministry of Education P. O. Box 3070, Zanzibar Tanzania

# セミナー概念図



# 女性学・ジェンダー研究国際フォーラム

## 1 趣 旨

女性2000年会議の成果を受け、21世紀の地球規模での男女平等・女性の地位向上をめざし、女性のエンパワーメントにかかわる多様な研究・教育・実践活動の課題や成果を出し合い情報交換を行うとともに、国内外のネットワークづくりを進める。

2 主 題 「21世紀に向けての男女平等・開発・平和」

3 共 催 国際連合広報センター

4 後 援 総理府 外務省

5 期 日 平成12年 8 月 3 日 (木)～ 6 日 (日) 3 泊 4 日

6 参加者 1,736名 (女性：1,612名、男性：124名)  
\* うち自主企画ワークショップ運営者 372名

### (1) 年代別 (名)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	不明	計
女 性	7	104	165	383	533	301	119	1,612
男 性	0	12	32	35	26	16	3	124
合 計	7	116	197	418	559	317	122	1,736

### (2) 所属別 (名)

	行政 担当者	団体・ グループ	研究者 ・教員	その他 有職者	学生	主婦	不明・ 無職	計
女 性	290	597	170	326	55	38	136	1,612
男 性	57	17	15	25	4	0	6	124
合 計	347	614	185	351	59	38	142	1,736

## 7 プログラムの概要

### 【第1日 8月3日(木)】

- (1) オープニング ピアノコンサート 13：30～
- (2) 開 会 14：10
- (3) 基調報告「女性2000年会議の成果と戦略」 14：15～16：15
- (4) 交流会 18：00～20：00

### 【第2日 8月4日(金)】

- (5) 国際ワークショップA「女性と経済」 9：30～12：00
- (6) 国際ワークショップB「女性と教育」 9：30～12：00
- (7) 自主企画ワークショップI 9：30～11：30
- (8) 国際ワークショップC「女性と暴力」 13：00～15：30
- (9) 国際ワークショップD「女性の地位向上のための制度的なしくみ」 13：00～15：30

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| (10) 自主企画ワークショップⅡ | 13:00～15:00 |
| (11) 自主企画ワークショップⅢ | 16:00～18:00 |
| (12) 自由交流         | 18:30～      |

**【第3日 8月5日(土)】**

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| (13) 国際ワークショップE「女性とメディア」 | 9:30～12:00  |
| (14) 国際ワークショップF「女性と健康」   | 9:30～12:00  |
| (15) 自主企画ワークショップⅣ        | 9:30～11:30  |
| (16) 国際ワークショップG「女性と人権」   | 13:00～15:30 |
| (17) 国際ワークショップH「女性の政治参加」 | 13:00～15:30 |
| (18) 自主企画ワークショップⅤ        | 13:00～15:00 |
| (19) 自主企画ワークショップⅥ        | 16:00～18:00 |
| (20) 自由交流                | 18:30～      |

**【第4日 8月6日(日)】**

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| (21) 国際シンポジウム             | 9:30～11:30 |
| 「21世紀に向けての男女平等・開発・平和への取組」 |            |
| (22) 閉会                   | 11:30      |

## 8 交流のひろば

- (1) ワークショップ開催中（8月4日、5日）、「交流のひろば」を開設した。
- (2) ワークショップの課題や成果の共有やネットワークの呼びかけ、ワークショップで配付した資料の閲覧等、情報交換を行った。

## 9 情報のひろば

- (1) 全日程（8月3日～6日の間）を通して開設した。
- (2) 参加者が資料、図書、パンフレット、チラシ等を展示・交換・配布・販売し、女性学・ジェンダー研究、女性のエンパワーメントに関する情報交換を行った。

## 10 「女性2000年会議 特別展示」

国立女性教育会館では「女性2000年会議」に関する特別展示を8月1日～31日まで開催した。

## 11 企画委員

本フォーラムの企画を会館と共同で行った（五十音順）。

企画委員長	有馬真喜子	財団法人横浜市女性協会理事長
委員	奥山 和弘	静岡県教育委員会生涯学習企画課指導主事
	迫田 朋子	NHK解説委員
	渋谷 敦司	茨城大学教授
	中村 道子	国連NGO国内婦人委員会委員長
	橋本ヒロ子	十文字学園女子大学教授
	坊下 隆子	国際連合広報センター広報担当
	村松 安子	東京女子大学教授
	村松 泰子	東京学芸大学教授

## 12 プログラムの内容

### (1) 基調報告「女性2000年会議の成果と戦略」

講師 マビック・カブレラ・バレサ Isisインターナショナルマニラ  
橋本ヒロ子 十文字学園女子大学教授／本フォーラム企画委員  
コーディネーター 有馬真喜子 (財)横浜市女性協会理事長／本フォーラム企画委員長  
「男女平等・開発・平和」について、「女性2000年会議」での成果と今後の戦略について国内外の情報を提供した。

はじめに、有馬氏から1975年にメキシコで開催された「第1回世界女性会議」から「女性2000年会議」に至るまでの世界女性会議の歩みについて報告があり、政府代表顧問として「女性2000年会議」に出席した橋本氏からは、成果文書の合意が難しかった理由、成果文書の構成・内容、北京会議以降の新たな問題についての報告があった。今回の会議で新しい行動綱領が策定されなかったのは、北京で策定された行動綱領自体がうまく実施されていないからであるとの指摘があった。NGOの立場で参加したバレサ氏からは、NGOの評価としては成果の乏しいものであったが、健康、女性に対する暴力、女性に対するグローバル化の影響、国家予算の配分、同一労働同一賃金、人権（亡命・移民における男女平等の確保）、政治的エンパワーメント等の分野については成果があったという報告があった。

今後の取組として、ネットワークの重要性、女性の政治参画の推進、ITの活用があげられた。



「基調報告」



会場との意見交換

### (2) 国際ワークショップ

「女性2000年会議」の成果を受けてのフォーラムとし、第4回世界女性会議で策定された行動綱領の12の重大問題領域より、「女性と経済」「女性と教育」「女性と暴力」「女性の地位向上のための制度的なしくみ」「女性とメディア」「女性と健康」「女性と人権」「女性の政治参加」の8つのテーマで、それぞれ外国人専門家、日本人専門家、コーディネーター各1名による8件の国際ワークショップを開催した(それぞれ同時通訳つき)。なお、コーディネーターは企画委員が担当した。

#### ① A 女性と経済

外国人専門家 ジャニスE・グッドソン・フェルデ ICDA国際コンサルタント  
日本人専門家 神野 直彦 東京大学教授  
コーディネーター 今井 圭子 上智大学教授

これまで、経済の分野にジェンダーの視点が入っていなかったが、女性2000年会議成



果文書第3章「北京宣言及び行動綱領実施に際して直面する新たな課題」の中に、グローバル化の影響が取り上げられた。

フェルデ氏は、「ジェンダーの不平等は経済の問題であると同時に社会・環境の問題であり、ジェンダーの分析とWIDの視点は経済開発、人材開発、貧困削減に不可欠なものである」と述べ、特にジェンダー・貿易の問題に取り組むネットワークの事例を報告した。神谷氏からは、財政学の立場で女性と経済のグローバル化、持続的経済発展の問題について報告があり、IT化をいかに進め、どう使いこなすかが重要であり、そのためには情報に関する教育が必要であるとの指摘があった。

## ② B 女性と教育

外国人専門家 チョン・セ・ファ プール学園大学教授

日本人専門家 奥山 和弘 静岡県教育委員会生涯学習企画課指導主事／  
本フォーラム企画委員

コーディネーター 亀田 温子 十文字学園女子大学教授

学校教育を含めたジェンダーフリー教育に向けての取組と課題について考えた。

チョン氏は、韓国の教育におけるジェンダーの問題（女子の進学率、教職に占める女性の割合、家庭科の選択制、ステレオタイプ的な校訓、教科書等）、さらには、各自治体での女性政策担当室の配置状況や教育関連法の改正等、法律・制度・政策上におけるジェンダーフリー教育の進捗状況等を報告した。奥山氏からは、ジェンダーを学ぶ教材の作成・提供について自分の体験をもとにした報告があり、特に地域に密着し、実感に支えられた生きた教材を提供することの重要性が指摘された。

全体討議では、個々人がジェンダーに敏感な視点を身につけるための方策、教育にかかわる者たちの意識変革、法律制度が大きな課題であるとまとめた。

## ③ C 女性と暴力

外国人専門家 カメナ・グナラトナ スリランカ・オープン大学講師

日本人専門家 近藤 恵子 女のスペース・おん代表世話人

コーディネーター 庄司 洋子 立教大学教授

「女性と暴力」について、特に家庭内暴力の実態と被害者支援に向けた実践活動を通して今後の取組を考えた。

グナラトナ氏はスリランカの家庭内暴力の実態について、情報が少ないこと、中産階級を対象とした実態調査や精神的虐待に関する調査がないこと等を報告し、家庭内暴力を刑事的な違法行為として取り締まることの必要性を強調した。近藤氏からは、日本における家庭内暴力の実態、被害者救援活動の状況、法システム整備の課題について報告があった。

## ④ D 女性の地位向上のための制度的なしくみ

外国人専門家 フィリッパ・ホール ニューサウスウェールズ州女性局次官

日本人専門家 江橋 崇 法政大学教授

コーディネーター 橋本ヒロ子 十文字学園女子大学教授／本フォーラム企画委員

女性の地位向上のため、ジェンダーに基づく政策を行い、予算分析、影響調査からみた制度的しくみについて課題を考えた。

ホール氏は、政府の予算割当ての優先順位を分析する一つ的手段である「女性の予算声明」を作成した経験から、ローカルなレベルでジェンダー分析を行う場合はチェックリストと事例研究が必要であり、現在そのプロジェクトを立ち始めたところであるとの報告をした。江橋氏からは、川崎市の男女平等オンブッドと市民オンブズマンの設置に

かかわった経験をもとに、「男女共同参画社会基本法」施行後の各地方公共団体での取組について報告があり、特に女性行政や女性施策の問題は孤立したものではなく、NGOを含めた政策評価の必要性が言及された。

⑤ E 女性とメディア

外国人専門家 マビック・カブレラ・バレッサ Isisインターナショナルマニラ

日本人専門家 林 香里 成蹊大学講師

コーディネーター 村松泰子 東京学芸大学教授／本フォーラム企画委員

マスメディアやIT（新しいコミュニケーション技術）の近年の状況を踏まえ、女性がメディアにアクセスできることの意義、どのような形で女性の発信・コミュニケーションが確保されるのか、マスメディアをどのように変えればよいか等について報告・討議した。

林氏は、「オンナ・コドモ」に何がわかるとのせりふに象徴される男のジャーナリズムの中にあって、ジャーナリズムは民主主義とかかわる非常に大事な問題であることを女性たちが共有していくことの必要性を報告した。女性情報の収集・発信・ネットワークづくりをすすめるNGOに所属するバレッサ氏からは、日常の活動報告とともに、メディアは強力な社会的組織であり、女性の地位向上を促進するために重要なものであることが指摘された。また、村松氏は女性の表現を保障するため、メディアにおける女性の主流化、メディアリテラシーの必要性を指摘した。

⑥ F 女性と健康

外国人専門家 キャサリン・コバーン Management Science for Health  
(MSH)

日本人専門家 池上 清子 国際家族計画連盟本部リソースモータビライゼーションオフィサー

コーディネーター 迫田 朋子 NHK解説員／本フォーラム企画委員

リプロダクティブヘルス・ライツをどう考え、推進していったらよいかを中心テーマとした。

コバーン氏は、MSHのバングラデシュでのプロジェクトを通して女性の健康を守るための活動を報告した。池上氏は、12の国・地域における「リプロダクティブヘルス／ライツ」についての重要テーマを取り上げたビデオを見せながら、IPPFが提示しているリプロダクティブライツを測る指標に基づいて解説を行った。迫田氏からは、NHKの放送番組を通して日本の青少年に対する性教育の現状と課題が提示され、性の問題をオープンに話せる社会環境づくりの必要性が指摘された。全体討議では、少子化問題、日本のODAとのかかわり等に焦点を絞って活発な討議が生され、特に少子化問題については、女性が十分なサービス・情報を得て責任ある判断ができること、またその判断が尊重されることが大切であるとまとめた。

⑦ G 女性と人権

外国人専門家 ツティラ・トムソン タイ・女性の地位向上協会会長

日本人専門家 山下 泰子 文京女子大学教授

コーディネーター 林 陽子 弁護士

「女性と人権」という幅広いテーマの中で特に女性差別撤廃条約に焦点を当てた。

トムソン氏はこの条約が世界各国にもたらした影響・成果、さらにタイにおける女性の権利を盛り込んだ憲法改正について報告した。山下氏からは、ネパールにおける女性の現状、国際法にみる女性の人権の歴史、「女性2000年会議」における女性の人権に関

する問題、女性差別撤廃条約議定書等について説明があり、「女性の権利は人権であり、条約はその人権を守るためのツールである」という点を強調した。全体討議では、議定書に世界で5番目、アジアでいち早く批准したタイの戦略、技術等について活発に論議した。

#### ⑧ H 女性の政治参加

外国人専門家 アザ・カラム キーンズ大学民族紛争研究センタープログラム  
マネージャー

日本人専門家 久保公子 財団法人市川房枝記念会事務局長

コーディネーター 渋谷敦司 茨城大学教授／本フォーラム企画委員

国際的レベルでの女性の政治への参加についてのワークショップであり、主に議会に女性をどのように送り出すかが、一つの焦点であった。

久保氏は地方議会と衆議院のデータに基づき、女性の地方議員は5.9%、衆議院議員は7.3%と過去最高の割合であり、これは非常な政治不信により無党派層が増加し、市民活動で実績があり、生活者の視点をもった女性への期待が高まったからであるとの分析を報告した。アザ・カラム氏からは、女性の議会での活動、議会へ進出するための戦略、どういう課題を克服していけばよいのか、実践的な提案やアドバイスがなされ、ビジョンをもつこと、優先順位をつけること、ルールを知ること、一人だけで頑張るのではなくグループで取り組むこと、イメージーションをもつこと等の必要性があげられ、特に柔軟性がキーワードであるとの指摘があった。

### (3) 国際シンポジウム「21世紀に向けての男女平等・開発・平和への取組」

外国人専門家 国際ワークショップ外国人専門家6名

日本人専門家 中村 道子 国連NGO国内婦人委員会委員長／  
本フォーラム企画委員

コーディネーター 有馬 真喜子 (財)横浜市女性協会理事長／  
本フォーラム企画委員長

各国際ワークショップでの討議をもとに6名の外国人専門家および日本人専門家の中村氏から、21世紀に向けた男女平等・開発・平和への取組の現状と課題、さらに今後の展望について提言があった。

質疑の時間では、どのように男性を取り込んでいけばよいのか、各専門家に意見が求められ、「ジェンダー分析は男性、女性の両方の置かれた状況を調査するものであり、WIDの視点とジェンダーの視点両方が必要である」「まず男性の意識を変えるように



力強い提言をいただいた「国際シンポジウム」



好評だった「女性2000年会議」特別展示

し、特に司法に携わっている男性に働きかけていく」「女性の権利の確立が男性にもメリットがあることをわからせる」「ジェンダーセンシティビティは学問であるので、学習・訓練の必要がある」等の意見が出た。最後にコーディネーターの有馬氏から、北京会議と比べ、グローバルゼーションの課題、医療現場への関心、IT革命についてなど、問題の幅が広がってきているとの指摘があった。

#### (4) 自主企画ワークショップ

今回は、全国26都道府県と海外（韓国）より応募のあった104件のワークショップを実施した。

ワークショップのテーマは「女性問題・ジェンダー研究」が最も多く（15件）、以下、「女性に対する暴力」（12件）、「家族・家庭・子ども」（11件）、「女性と労働」（10件）、「女性の教育・学習」「女性政策」「学校教育における男女平等教育」がそれぞれ8件と続く。

ワークショップの特徴としては、「女性政策」や「政策決定の場への女性の参画」に関するテーマが多い。また、フォーラム開催以来初めて、男性学・男性問題をテーマとした「男性雑誌とジェンダー」のワークショップが実施された。

なお、運営者から「参加者を引きつけるようなタイトル、内容、方法、配付資料の工夫等、運営者の力量が問われる思いがした」等の声もあり、充実した研究交流を図るためのエンパワーメントの重要性が指摘された。

#### 自主企画ワークショップの概要

実施総数 104件

（平成11年度：95件、平成10年度：120件、平成9年度：105件、平成8年度：60件）

(件)

	テ ー マ	H12	H11	H10	H 9	H 8
A	女性問題・ジェンダー研究	15	7	11	10	17
B	女性の教育・学習	8	7	11	3	4
C	女性政策	8	9	6	13	5
D	女性施設	1	6	3	5	1
E	政策決定の場への女性の参画	4	7	6	4	4
F	女性と労働	10	5	10	6	4
G	女性と高齢社会	3	3	3	1	—
H	女性と人権	3	1	2	—	1
I	女性に対する暴力	12	10	7	2	—
J	女性のからだ・セクシャリティー	5	8	7	9	2
K	女性とメディア	2	2	5	6	2
L	女性と表現	5	10	10	12	4
M	女性情報	—	2	2	—	—
N	GOとNGOとの連携	2	—	4	2	—
O	ネットワークづくり	3	—	2	2	—
P	グループの活動報告	1	—	9	—	—
Q	学校教育における男女平等教育	8	9	8	11	3
R	家族・家庭・子ども	11	7	11	15	7
S	開発と女性	2	2	3	3	3
T	女性と環境	—	—	—	1	—
U	女性史	—	—	—	—	3
V	男性学・男性問題	1	—	—	—	—
	総 計	104	95	120	105	60

2000年女性学・ジェンダー研究国際フォーラム 自主企画ワークショップ一覧

No.	タイトル	実施主体（都道府県名）	方法
1	さあ、ジェンダーチェックしてみましょう	石川県男女共同参画推進員 小松地域グループ「ラ・ソワレ」 (石川県)	報告・討議 意見交換
2	一性差別— その仕組みと仕掛けの総体 テキスト「女性の人生曼陀羅」の読み方	駒尺喜美研究室 性差別曼陀羅（まんだら）研究会 (大阪府)	説明・質疑応答
3	女性とスポーツ：21世紀への課題 —「女性スポーツ白書」の作成から	NPO法人 ジュース（茨城県）	報告・ディスカッション
4	ヘクセの見た“女性2000年会議”	くわなウイン (三重県)	報告・討議
5	絵で読む「男女共同参画社会基本法」	練馬ジェンダー研究会 (東京都)	展示
6	ビューティフルライフ！？ —ふたりでいたい日々	おうみはちまん女性いきいき広場 (滋賀県)	寸劇・討議
7	身近な選択の難しさについて考えよう —現代女性の自己決定に関する現状と提言	女性の自己決定研究会 (東京都)	報告・討議
8	ダイエットを語る	ヴィ・アイム (東京都)	グループによる共同作業
9	ジェンダーを越えて（心とからだのワーク）	ボディ・マインド・ヘルスセンター (岡山県)	心とからだのリラクゼーション
10	ミレニアムの国際女性フォーラム	あごら新宿 (東京都)	報告・討議
11	“解決熟女” 人生相談って他人事？	思考することばの会 (静岡県)	問題提起・グループ討議
12	女性学をTA（交流分析）的観点から考える	TA教育研究所 (大阪府)	シンポジウム・ワーク等
13	色別される子ども達 —子どもの成長をめぐる環境を見直して見ましょう	京都精華大学 藤枝滯子ゼミ (京都府)	問題提起・ディスカッション
14	生涯を通じた女性の健康保持・肥満予防個人差対応ウォーキング	H. L. E（ヘルスライフエクササイズ）研究会 (神奈川県)	実践・講義・個人対応レクチャー
15	趣味とジェンダー 鉄道趣味を例にとりあげて	幸田ジェンダー男女論研究室 (愛知県)	報告・討議
16	女性問題学習の問題 女性センターの学習講座を考える	21世紀の女性センターを考える会 (東京都)	報告・討議
17	与謝野晶子の教育論を現在のジェンダー教育と比較して	堺市・与謝野晶子研究会 (大阪府)	シンポジウム（報告・質疑応答）
18	氷の壁をのりこえよう！ —ライフサイクルの“教育”を考える	世界女性会議岡山連絡会 (岡山県)	問題提起・意見交換
19	ホントのキモチ、大発見 —ひと味ちがう自己表現トレーニング講座	グループ「NAT'S」 (埼玉県)	ロールプレイ等
20	外国人女性と日本語支援	アジア女性センター（アミカス日本語クラス） (福岡県)	報告・討議
21	「女性学ってなーに？」	輝き（奈良県女性行動計画を考える会） (奈良県)	報告・作業・話し合い
22	「ジェンダー・センシティブ」プログラムを創る	She Will 広島 (広島県)	グループによる共同作業
23	ジェンダー・センシティブトレーニングを通じて女性のヘルスエンパワーメントを高めましょう。	アフター北京やまなし女・心・からだトーク (山梨県)	報告・トレーニング・討議
24	「私」のまちの女性施策 —行動計画・啓発事業・女性センター・市民参画—	WIN-L (大阪府)	報告・討議
25	「目黒区に男女平等参画基本条例（仮称）をつくる自主グループの活動」	目黒区に男女平等参画基本条例（仮称）を作る会 (東京都)	報告・情報交換
26	ジェンダーの視点で考える特定非営利活動促進法特定非営利活動法人認証受理から…変わったこと・変わらないこと	特定非営利活動法人ウイン女性企画 (愛知県)	シンポジウム
27	「女と男の共同参画市民条例」 —私たちの言葉で私たちの条例をつくらう	グループ「ふえみわーど」 (神奈川県)	報告・討議・作業
28	私たち市民が考えた「わがまち高槻市の男女平等推進条例」	高槻ジェンダー研究ネットワーク (大阪府)	報告・討議

No.	タイトル	実施主体（都道府県名）	方法
29	「男女共同参画推進条例をより身近なものとするための取り組みについて」 —三重県男女共同参画推進条例に私たち県民の声を反映させるために	三重県男女共同参画推進条例に私たち県民の声を反映させる会 (三重県)	報告・討議
30	漫才「女性と年金」	婦人民主クラブ (岡山県)	漫才
31	ジェンダーフリーの視点を取り入れた保育 part 2 —ふりーせる保育	松戸市役所保育課 ジェンダーフリーを取り入れた保育研究 (千葉県)	報告・討議
32	女性関連施設の保育室は今？	あんふぁんて・どんな保育がほしい会 (東京都)	展示・ロールプレイ
33	政策へ参画する自分づくり —男女共同参画社会に関するアンケート調査を通して	福岡行政相談委員協議会女性委員会 (福岡県)	報告・討議
34	バックアップスクール・鹿児島・出前セミナー —日本の女性地方議員第1号は鹿児島の女性でした	鹿児島県内の女性議員を100人にする会 (鹿児島県)	寸劇・報告・討論 ・マップ・意見交換 ・はがき販売
35	立候補ってどんな事？ —市町村選挙における女性のエンパワメント	くまもと・バックアップ女性の会・グローバル・プランニング共催 (熊本県)	寸劇・ロールプレイ
36	伊勢市の「市民参加のまちづくり」から —女性（わたし）の住みたい町をつくる	め組 (三重県)	報告・グループによる共同作業・発表
37	ネットワークビジネスを検証する —女性が語る女性の仕事	正しいネットワークビジネス推進協議会・ウイメンズ・チャンスセンター (東京都)	報告・討議・質疑応答
38	「女性のための情報コンビニ・フランチャイジー大募集!!」 —女性問題にビジネス感を！	group Me & Her (福岡県)	報告・討議
39	私たちがつくる・新しいワークルール	フェミニット（東京・生活者ネットワーク女性部会） (東京都)	調査参加・報告・討議・発表
40	改正男女雇用均等法は働く女性にどのような変革をもたらしたか アンケート調査報告	さわの会 (大阪府)	報告・討議
41	パート労働に均等待遇を！	日本婦人会議埼玉県本部 (埼玉県)	報告・意見交換
42	職場の中の女性差別	あごら九州 (福岡県)	寸劇・全体討論
43	“We can! —女（わたし）たちはできる！” 女性技能職人への挑戦	トレーズウーマン（女性技能職人）ネットワーク (埼玉県)	ビデオ・討議
44	農業女性のグループ活動 —福岡県A市の事例	村田 和賀代 (福岡県)	報告・討議
45	韓国の女性はどのように働いていますか？	オーランド 女性と自立と労働研究会 (韓国)	発表・質疑応答
46	働くこと、育児すること	京都精華大学 藤枝滯子ゼミ有志 人文学部4回生 (京都府)	ビデオ・ディスカッション
47	「高齢化と女性」 —老いのプロセスをジェンダー・フリーの視点で考察する	「日本向老学学会」 (愛知県)	発表・討議
48	写真展「元気な高齢者たち」 (撮影者 佐口 武子)	婦人国際平和自由連盟日本支部 (東京都)	展示
49	ホームヘルパーの社会的評価向上を目指して 住民・利用者意識調査結果報告	福岡県女性総合センター「あすばる」 (福岡県)	報告・討議
50	女性の人権確立の歴史 —第36回越谷母親大会の歩み	越谷母親大会実行委員会 (埼玉県)	展示・資料配布
51	FGM（女性性器切除）女性と人権と暴力	FGM廃絶を支援する女たちの会 (東京都)	ビデオ・討議・展示・人体模型
52	「女性差別撤廃条約」をパワー・アップ	国際女性の地位協会 (東京都)	解説・報告・質疑応答
54	女性に対する暴力	城西国際大学ジェンダー研究会 (千葉県)	報告・討議

No.	タイトル	実施主体（都道府県名）	方法
55	シンポジウム：DV（ドメスティック・バイオレンス）被害側・加害側の相談機関の連携の可能性および限界について	ストップ・THE・DV・フォーラム （東京都）	シンポジウム形式・話題提供・質疑応答
56	サバイバーとサポーターの新たな関係づくりのために	サポート関係研究会 （福岡県）	報告・討議
57	「人権とDV」	横地 恵美子 （岐阜県）	報告・討議
58	「スクール・セクシュアル・ハラスメント」について知ろう —教師のための「スクール・セクシュアル・ハラスメント防止研修プログラム」	「スクール・セクシュアル・ハラスメント」防止全国ネットワーク （大阪府）	報告・討議・グループワーク
59	「ストップ女性・子どもへの暴力」富山市民企画講座の報告 —DV講座を手がかりに活動し始めた女たち	『グループ「女綱（なづな）」—ストップDVとやま』 （富山県）	報告・討議
60	ビデオトーク —女性に対する暴力を考える 国連ユニフェムビデオ会議（1999年3月8日）のビデオ（日本語版）を中心に	ユニフェム東京 （東京都）	ビデオ・全体討議・展示・販売
61	「“女性に対する暴力撤廃”全国キャンペーン」を広げよう！	ぐるうぶ：NO！セクシュアルハラスメント （福岡県）	報告・討議
62	女性への暴力防止を考える	グループ セクハラ全廃 （埼玉県）	報告・討議
63	「女（ひと）と男（ひと）、家庭から」—ドメスティック・バイオレンスを視点に	ネットワークA・L青森 （青森県）	報告・討議
64	キャンパスセクハラの具体的対策を考える	高橋 りりす （東京都）	一人芝居・シンポジウム・討議
65	学校の現場に性暴力予防教育を ワークショップ「デートレイプからつながよう、からだの話、暴力の話」	グループBONA （神奈川県）	グループによる共同作業・討議
66	薦森樹のジェンダー・スタディ —性差別のない社会をつくるために	ライフネットワーク （沖縄県）	問題提起・討議・意見交換
68	避妊と中絶 —最近の状況をめぐって	女性の人権と性考える会 （東京都）	報告・問題提起・討議
69	命のかがやき	内田絵子と女性の医療を考える会 （東京都）	報告・ビデオ・ディスカッション・展示
70	くたばれ！？専業主婦？！	E&Sユニット （東京都）	ゲストスピーカーとの対談・質疑応答
71	ウィメンズセクシュアリティ・女と身体—表現について	永元 香子 （東京都）	グループによる共同作業・身体を動かし、自分を感じる・ダンス公演
72	「新聞の中の家族像を読み解く」（調査・報告）	「報道と女性」研究会 （福岡県）	報告・討議・展示
73	“おんなの子”“おとこの子”どんな本読んでるの？	「クーリエ」 （大分県）	報告・討議・展示
74	続 落語でジェンダーブレイク	桂 文也 （京都府）	落語
75	私の町のジェンダーチェック！ まちかどの裸像は鑑賞物？	女性フォーラム in とよた （愛知県）	グループ討議
76	う～まん一座による寸劇	かつしか女性会議「う～まん一座」 （東京都）	寸劇
77	ジェンダーと表現の多様性 —ファッション選択におけるジェンダー	城西国際大学 ジェンダーと表現の会 （千葉県）	報告・討議
78	「みんなで作ろう ジェンダー歌留多」	あびこ女性会議 （千葉県）	展示・説明・交流・販売
79	展示 男女共同参画社会に向けて —行政と市民・女性と男性の協働	「日本女性会議2000津」実行委員会 （三重県）	展示
80	男女共同参画 みなと女性会議2000年フォーラム	男女共同参画社会を創る会（旧「男女共同参画ビジョンで点検する会」） （東京都）	報告・質疑応答・討議



No.	タイトル	実施主体（都道府県名）	方法
81	女性問題を中心とした市民活動の広げ方や推進のための方策について	末松 優子 (東京都)	報告・討議
82	共生の視点で創るわが街 東松山	東松山女性のネットワーク (埼玉県)	展示
83	“協働” から見えてきたもの	子どもと歩む大人の勉強会 (三重県)	報告・討議
84	共生のためのエンパワーメント	共生ネットワークTekuTeku (鹿児島県)	報告・討議・展示
85	中国におけるジェンダーフリー教育	吉田 洋子 (中国)	報告・討議
86	街角ウォッチングPartIII続アート・リテラシーを高校生の授業にどう取り扱ったか	岡山女性フォーラム (岡山県)	報告・討議・展示
87	ジェンダー視点の総合学習	「自分づくり授業」実行委員会 (愛知県)	報告・討議
88	ジェンダーから解放された社会を未来の子どもたちに —市民が学校で実施した授業を例に	江の島塾BENTEN (神奈川県)	報告・討議・展示
89	あなたもどうぞ 授業、教科の中での男女平等教育Part 3	東京男女平等教育研究会 (東京都)	報告・交流・討議
90	男女平等教育 —マスメディアの性暴力と学校現場のセクハラについて	男女平等をすすめる教育全国ネットワーク (東京都)	問題提起・討議・実践交流
91	「ジェンダーフリー」って何だろう？	学校をジェンダーフリーに・全国ネット (神奈川県)	報告・討議
92	幼い子どもたちが開く男女平等参画社会 保育の場から地域ジェンダーを変えよう —保育者養成校の試み	山梨県立女子短期大学ジェンダー・フリー教育プログラム研究会 (山梨県)	報告・発表・ロールプレイ・開発教材の紹介と展示・討議
93	日本で第一位 三世同居による女性の姿 PART II	WHO'S山形 (山形県)	報告・討議
94	21世紀の子育て支援取り組みについて (パートII) —民間の児童館を立ち上げて	ジェンダーの視点で男女参画を考える会 (佐賀県)	討議・展示
95	即興劇で見る家族、家庭、子供とのかかわり 「新しい明日へのスタートライン」	即興演劇団*プレイバックーズ (神奈川県)	パフォーマンス
96	現代を徘徊する「母性」と「父性」 —あらたな視点をもとめて	ウイメンズ・ウィング (千葉県)	報告・討議
97	みんなでいっしょに子育てしよう —絵本によるジェンダーフリーの意識づくり	はちのへウイメンズアクション (青森県)	絵本の読み聞かせ・意見交換・ビデオ・活動報告
98	ジェンダーフリーの子育てをテーマにした紙芝居“萌と翔”上演とトーク	紙ヒコーキ (埼玉県)	紙芝居・フリートキング
99	今、家族を考える —家族のゆらぎとゆくえ	NGO石川ネットワーク (石川県)	報告・討議
100	子育ての男女共同参画	CCEEL (CLUB CREATING EQUAL & ECOLOGICAL LIVES (岐阜県)	報告・討議
101	どうなる 民法改正	すすめよう！民法改正ネットワーク(東京都)	寸劇・報告・討議
102	熟年離婚・男の言い分女の言い分	こまつさわやかクラブ (石川県)	寸劇・討議
103	女性と離婚	5年別居離婚に反対し、女性の自立を考える会 (愛知県)	報告・討議
104	タンバン支配下のアフガニスタンの女性の暮らし	アフガンの女性とこどもを支援する会 (東京都)	報告・質疑応答
105	ベトナムの女性たちの自立を支援しつつ	ベトナム友好市民の会 (愛知県)	報告・問題提起・質疑・意見交換
106	男性雑誌とジェンダ	メンズセンター (大阪府)	報告・討議・共同作業

国立婦人教育会館提供プログラム

	若もののジェンダー問題学習	国立婦人教育会館 伊藤真知子研究員	報告・討議
--	---------------	-------------------	-------



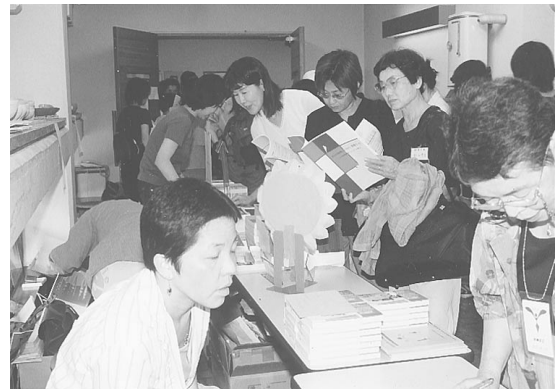
ワークショップの内容はさまざま



ワークショップのリハーサル風景



お母さん、お父さんに好評だった保育付き



全国の情報交換の場となった「情報のひろば」

### 13 今後の課題・展望

- (1) 「女性学・ジェンダー研究フォーラム」の第2ステージへの展開をめざし、“研究”“教育”“実践活動”を結ぶ研究交流の場として、一層の充実を図る。
- (2) ジェンダー研究についての最新情報を提供するなど、研究者に魅力ある内容とすることが必要であり、そのためには、企画委員会について役割、メンバー構成、任期等十分な検討が必要である。
- (3) 自主企画ワークショップは、年々その内容・運営方法が充実してきている。しかし、必ずしも女性学・ジェンダー研究の必要課題がテーマとしてあられない場合もある。年度ごとに募集テーマを設定し、あらかじめ複数年のテーマを提示して募集をする（いくつかは、自由テーマも入れる）など、プログラムの検討が必要である。
- (4) 男女共同参画社会に向けた取組とするには、男性参加者、あるいは男性学・男性問題などに関する自主企画ワークショップの応募が増えるよう、広報等に一層の工夫や努力が必要である。

(事業課専門職員 小林 千枝子／情報交流課専門職員 青木 一恵)

# ヌエック・フェスティバル2000

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成に向けた多様な生涯学習を展開している全国の団体・グループに、日頃の学習・活動の報告・発表、研修及び全国的な交流の機会を提供し、参加者相互の学習、交流及びネットワークづくりをめざす。

## 2 主 題 出 会 い ・ 感 動 ・ ネットワークー男女共同参画社会の実現へー

## 3 主 催 ヌエック・フェスティバル2000実行委員会／国立婦人教育会館

\*実行委員会：地域から推薦された6名、ヌエックボランティア2名、ヌエック職員1名による計9名にて実行委員会を組織し、実行委員長をおいた。また準備及び当日の運営のため、ヌエックボランティアの中から希望者を募って、ワーキング・グループとした（○は実行委員長）。

東北・北海道地域	畑 恒子	〔ステップアップよこて〕会長
関東地域	○大高ゆみ子	〔かながわ女性会議常任委員〕
東海・北陸地域	山下 清子	〔とやま女性政策研究会〕
近畿地域	土田美代子	〔滋賀県地域婦人団体連合会常任理事〕
中国・四国地域	岩田 京子	〔広島県安芸郡府中町府中南公民館長〕
九州地域	樋田 京子	〔福岡県公立学校長〕
	内田千賀子	〔ヌエックボランティア〕
	野村知恵子	〔ヌエックボランティア〕
	土岐 都子	〔国立婦人教育会館事業課専門職員〕

## 4 期 日 平成12年11月10日（金）～12日（日） 2泊3日

## 5 参加者 694名（女性615名 男性79名、2泊3日延べ人数 1273名）

\*内訳「自由企画プログラム運営者」60団体・グループ（272名）  
「一般参加者」44団体・グループ（370名）、個人（52名）

### （1）年代別 （名）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	合計
一般参加者	女性	1	14	17	71	148	93	38	382
	男性	0	4	2	7	10	11	6	40
	計	1	18	19	78	158	104	44	422
自由企画プログラム運営者	女性	0	4	8	37	120	64	0	233
	男性	0	0	2	8	12	16	1	39
	計	0	4	10	45	132	80	1	272
合 計		1	22	29	123	290	184	45	694

## (2) 都道府県別

(名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	61	埼玉県	172	長野県	107	広島県	37	宮崎県	1
青森県	2	千葉県	34	岐阜県	2	山口県	4	鹿児島県	2
岩手県	10	東京都	39	静岡県	5	愛媛県	6	不明	32
宮城県	4	神奈川県	18	滋賀県	19	高知県	2	計	34都道府県
秋田県	11	新潟県	16	大阪府	5	福岡県	1		
茨城県	16	富山県	16	奈良県	3	佐賀県	1		
栃木県	1	石川県	40	和歌山県	3	長崎県	4		
群馬県	9	山梨県	2	岡山県	8	大分県	1		

## 6 プログラムの概要

### 【第1日 11月10日(金)】

- (1) 開会 13:00~13:30
- (2) コント「ザ・ニューズペーパーと一緒に考えよう、男女共同参画社会」  
出演：ザ・ニューズペーパー 13:30~14:00
- (3) シンポジウム「男女共同参画 —それぞれの地域から—」 14:00~15:30  
シンポジスト 志村 直毅（山梨県東八代郡石和町「ホップ・ステップ・ジャンプ」推進委員会委員／山梨県立女性センター運営協議会委員）  
細谷 洋子（北海道男女平等条例市民案策定プロジェクト代表）  
三隅 佳子（北九州市立女性センター「ムーブ」所長）  
コーディネーター  
大野 曜（国立婦人教育会館長）
- (4) 自由企画プログラムⅠ 16:00~18:00
- (5) 交流の夕べ —嵐山ですてきな出会いを— 18:30~21:00

### 【第2日 11月11日(土)】

- (6) 自由企画プログラムⅡ 9:30~11:30
- (7) 自由企画プログラム（ステージ発表） 13:00~15:40
- (8) 自由企画プログラムⅢ 16:00~18:00
- (9) 自由交流「地域ブロック別交流 —地域でネット—」 19:00~21:00

### 【第3日 11月12日(日)】

- (10) 「おおいに語ろう テーマ別討論」 9:00~10:50
- ① 男女共同参画・学習  
担当：畑 恒子委員、内田千賀子委員、  
小林千枝子（国立婦人教育会館事業課専門職員）
- ② 高齢化社会  
担当：岩田 京子委員、土岐 都子（国立婦人教育会館事業課専門職員）
- ③ 生涯学習とボランティア  
担当：山下 清子委員、金 朝子（国立婦人教育会館事業課専門職員）
- ④ 労働  
担当：大高ゆみ子委員、伊藤真知子（国立婦人教育会館事業課研究員）
- ⑤ 子育て支援・まちづくり  
担当：樋田 京子委員、中野 洋恵（国立婦人教育会館事業課主任研究官）

⑥ 男性とともに

担当：野村 知恵子委員、島田 悦子（国立婦人教育会館事業課事業主任）

(11) 全体会

11：00～12：00

(12) 閉会

12：00

## 7 プログラムの内容

### (1) コント

「ザ・ニューズペーパーと

一緒に考えよう、男女共同参画社会」

出演：ザ・ニューズペーパー

ある日、夫と妻が役割を交代するという内容のコントを通して、広く一般に存在する現在の性別役割分業について、おもしろくわかりやすく演じた。



男女共同参画をコントで演じるザ・ニューズペーパー

### (2) シンポジウム

「男女共同参画 —それぞれの地域から—」

シンポジスト 志村 直毅（山梨県東八代郡石和町「ホップ・ステップ・ジャンプ」推進委員会委員

山梨県立女性センター運営協議会委員）

細谷 洋子（北海道男女平等条例市民案策定プロジェクト代表）

三隅 佳子（北九州市立女性センター「ムーブ」所長）

コーディネーター

大野 曜（国立婦人教育会館長）

男女共同参画社会の形成に向けてそれぞれの地域の活動についての情報を得ることにより、今後の課題について考えるシンポジウムを行った。

はじめに、志村氏から男女共同参画の視点で行う石和のまちづくりの取組及び今後の課題についての報告があった。「ホップ・ステップ・ジャンプ」推進委員会委員として参加した出前講座、いろいろな場所でのアンケート等から感じたこと、そしてその地道な活動をもとに困難があっても冷静にかつ賢く対処して理想的な男女共同参画社会の形成をめざしていることについて話をした。細谷氏は、志村氏とは対照的に「いかれる女たち」「鬼のようだ」と言われながらも、条例づくりを行政だけに任すのではなく、「ホットに、ホットに」住民の立場で市民案を考えた経緯、市民案の特徴、そして今後の課題について報告した。三隅氏からは、男女共同参画社会の形成をめざすためのGOとNGOのパートナーシップについての説明があり、連携の具体例について報告があった。

3人のシンポジストに対し、会場からは、男女共同参画に関わる予算、男性の意識改革等についての質問が多数



シンポジウム

出た。三隅氏の「愛しているから夫の自立を望む」「自分の家庭の中、自分の足元を見つめ、自分の夫をどのように変えていくことができているのか、自分の娘や息子をどのように教育しているのか、自分自身への問いかけが原点である」の発言に、会場からは大きな拍手がわいた。

### (3) 自由企画プログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ ・ステージ発表

- ① 自由企画プログラムのテーマは「文化活動」が最も多く（15件）、以下「まちづくり・環境」（8件）、「ジェンダー問題」（7件）「ネットワーク・パートナーシップ」（7件）、「女性政策（参画を含む）」（5件）「表現・情報・メディア」（5件）、「教育・学習」（4件）、「高齢化」（3件）「人権（暴力を含む）」（3件）、「家族・子育て」（2件）、「労働・経済」（1件）であった。

- ② 自由企画プログラムのうちステージ発表は、寸劇2件、朗読1件、ジャズ演奏1件、郷土芸能1件、詩吟1件、日本舞踊1件の計7件であった。

### (4) 交流の夕べ

地域の情報、芸能を交換する「交流の夕べ」を行った（参加者297名、発表22団体・グループ）。食堂において食事をしながら、歌・グループ紹介等が行われ、その後は、本館ロビーにおいて、北海道登別鬼踊り等の各地の踊り、伝統芸能等を楽しんだ。

## 8 今後の課題・展望

男女共同参画社会の形成に向けた取組とするには、男性の積極的な参加が必要である。男性による自由企画プログラムの応募が増えるよう、広報先の開発、主催者提供プログラムについて一層の工夫と努力が必要である。



自由企画プログラム（ワークショップ）



自由企画プログラム（展示風景）



地域の踊りを披露し交流する参加者

（事業課専門職員 土岐 都子）

実施された自由企画プログラム一覧

内容	No.	タイトル	実施主体	方法・内容
ジェンダー問題	1	源氏物語のさげび 千年前、男女共同参画社会への熱い思いがあった	源リウ会 代表：黒木 睦子 (埼玉県)	発表・討論
	2	ことばが変われば、時代が変わる！ ～男偏の漢字は何故ないの？～	ジェンダー視点で「ことば」を見直そう会 代表：市場 尚文、木浪健二郎 (岡山県)	討議
	3	男と女のいきいきライフをめざして ～農村におけるジェンダー問題	富山市女性農業士会 代表：山口 雄子 (富山県)	報告・討議
	4	GO! 21世紀へ	劇団 響 代表：浜本 輝子 (石川県)	寸劇
	5	“今一度先輩たちに学ぶ” ～21世紀へ向かって、新たな力を～	HAW・大分（女性の生き方研究会） 代表：松木 和美 (大分県)	発表（朗読）
	6	男女共同参画社会を目指して 「私たちの意識改革」	共生ネットワークTeku Teku 代表：皮篁石久美子 (鹿児島県)	展示
	7	男女共同参画社会の小さな実験室 ～「茶房 “ホットタイム”」～	NWEC ボランティア 代表：遠藤 和徳 (埼玉県)	喫茶（フェスティバル期間中のサービス）
教育・学習	8	いいおんな・いいおとこ ～混学・憩楽まなび～	まなびの会 代表：繁政 秀子 (広島県)	発表・展示・実技（昔遊び）
	9	委託事業の企画書の書き方	かながわ女性会議 代表：田中 正子 (神奈川県)	報告
	10	ひろしま女性大学広島校同窓会ミレニアム事業 「ひろしま女性議会」開催報告	ひろしま女性大学広島校同窓会 代表：井上 佐智子 (広島県)	報告・討議
	11	話力をつけて、上がらずに話す方法	人前での話し方 代表：石黒 君子 (千葉県)	講義・実技
女性政策	12	わたしにもできる男女共同参画 一松戸の市民 がつくった男女共同参画行動指針「アクション ゆう」、あなたのまちは？	まつど女性会議 代表：浪越 淑子 (千葉県)	報告・討議
	13	コント 「男女共同参画社会基本法」	川崎の男女共同社会をすすめる会 代表：金田 佳枝 (神奈川県)	コント・討議
	14	「とやまの女性百科」レポート発表 私たちと憲法	ベアテさんの会 代表：橋本悠紀子 (富山県)	発表・討議
	15	議会に女性を！ これまでの成果、今後の展望	全国フェミニスト議員連盟 代表：土井 節子・岩橋 百合 (神奈川県)	報告・討議
	16	クオータ制ってなあに？ 日本人は男だけ？女はいても100人に6人？！	クオータ制の実現をめざす会 代表：神永 礼子 (広島県)	報告・発表・展示
労働・経済	17	21世紀の未来に輝く経営者をめざして	奈良県女性経営研究会 代表：今西 康世 (奈良県)	報告・討議
高齢化	18	地域で支える高齢者	一步の会 代表：関根 マサ (埼玉県)	討議
	19	豊かな老後を迎える為に！	クオリティオブライフを考える交流会 代表：滝本 静子 (埼玉県)	討議
	20	今、老後を考える（明治・大正・昭和を奥能登 で生きた女性の聞き取り調査から見えてくるもの）	やませみ読書会 代表：政田ますみ (石川県)	報告・討議・展示
人権 表現・情報・メディア	21	表現ゲームで遊んでみよう！	たんぼぼのたね 代表：岩本 和代 (大阪府)	ゲーム等
	22	ビデオで見る犯罪被害者	埼玉犯罪被害者支援を創る準備会 代表：渋谷登美子 (埼玉県)	ビデオフォーラム
	23	性暴力虐待からの回復をめざして	日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン(JUST) 代表：熊沢 有子 (埼玉県)	展示
	24	輝ける女性を育てる(情報社会に生きるために)	甲西町ふじんかい 代表：澤田 幸枝 (滋賀県)	発表
	25	新聞で見る女性の周辺	秋田市女性学習センター・情報活用ボランティア 代表：高山 万紀子 (秋田県)	報告・発表・討議
	26	本間 栄子、語りの世界	本間栄子、語りの世界 代表：本間 栄子 (東京都)	発表（朗読）
	27	北京女性会議からの女性広報誌の流れ	ヌエックボラティアJ.T.Vグループ 代表：高市美佐子、森恭子、森田緑 (埼玉県)	展示
	28	伊東桂・詩のころろを読み解く一詩人・伊東桂 の故郷をたずねてー 私たちがみた中朝国境レ ポート	ぐるーぷ迎春花 代表：大島ふさ子 (東京都)	報告・発表・討議
りまち環境	29	守ろう、母なる大地と命の水	日本の産廃を考える会 代表：勝又みずえ (山口県)	報告・討議
	30	生ゴミを資源に変えよう	立山EM会 代表：藤城 富子 (富山県)	討議



内容	No.	タイトル	実施主体	方法・内容
まちづくり・環境	31	快適でやさしさのある生活と環境のまちをめざして	のしろまちづくりグループニューウェーブ 代表：保坂 悦子 (秋田県)	発表・討議
	32	「無宗教・公開模擬葬」報告 ～自分流の旅立ち方～	葬送を考える市民の会 代表：長崎 昭子 (北海道)	報告・発表・展示
	33	ハートフルタウン つばきのまちづくり	府中町つばきのまちづくり会 代表：阪井 淳一 (広島県)	展示
	34	環境へのこだわり・できることからの実践	八日市地域婦人団体連合会 代表：谷 正美 (滋賀県)	発表
	35	自然を愛し、人とのふれあいを深めよう	長浜市婦人連絡団体連合会 代表：川崎 茂野 (滋賀県)	発表・実験・情報交換会
	36	高齢者・障害者に住みよい町	栗東町エルダー婦人連合会 代表：土川 幸子 (滋賀県)	発表
	37	いちご オットコー座寸劇公演	男の子育てを考える会 代表：星 建男 (東京都)	寸劇
	38	子育て中の女性へ 九州発 トランタン30ans新聞	トランタン新聞・九州版 代表：諏訪田あつ子 (鹿児島県)	発表・展示
文化活動	39	お抹茶をたのしむ 一表千家一	ひびき会 代表：金井 倫子 (埼玉県)	実技体験
	40	作品展示と体験教室	小川町和紙絵サークル 代表：戸田 幸子 (埼玉県)	展示・実技体験
	41	嵐山の秋に奏でるメロディ	嵐山オカリーナ 代表：水島 義信 (埼玉県)	演奏
	42	七宝焼	きらら 代表：門 マツエ (埼玉県)	展示・実技体験
	43	茶席	清重会 代表：樽川 初枝 (埼玉県)	実技体験
	44	女7人が踊る優美でストーリー性の高い “女勧進帳”をお楽しみに！	菊峰舞踊会 代表：長峰 和子 (埼玉県)	発表
	45	滑川八木節演奏実演	滑川八木節会 代表：服部 正幸 (埼玉県)	演奏
	46	ハートフルサウンドフェスタ (良い友、良い音、良い笑顔)	軽音楽バンドザ・ブレンディーズ (the Blendies) 代表：宮木 賢司 (埼玉県)	演奏
文化活動	47	現代吟詠、鶯風流波調会	現代吟詠鶯風流波調会 代表：浅野麯二鶯 (東京都)	発表(吟詠)
	48	手漉き和紙への誘い	和紙の会 代表：石川 博士 (埼玉県)	実技体験
	49	嵐山に奏でる夢コンサート パートII	ゆかいな仲間 代表：田口美恵子 (埼玉県)	演奏
	50	秋の嵐山を小さなキャンバスに描こう	ら・ふーみ 代表：中島 允子 (千葉県)	実技体験
	51	せせらぎ作品展	陶芸サークルせせらぎ 代表：千野 洋子 (埼玉県)	展示
	52	野の花を生ける	清心会 代表：野原 和子 (埼玉県)	実技体験
	53	クラシックをあなたとともに	地域でクラシックを聴く会 代表：木田 啓子 (埼玉県)	ピアノ連弾
	54	女性の力で夢のある未来を創る —婦人会活動を通して—	ステップアップ・よこて 代表：畑 恒子 (秋田県)	報告・発表・討議
ネットワーク・パートナーシップ	55	いきいき 女が創る生・活・ネット —ベアテさんと出会った人々・その広がりと未来—	東海市めんどりの会 代表：加藤 龍子 (愛知県)	報告・発表・展示
	56	婦人会主催 「ホームヘルパー2級養成講座」開設3年目	飯伊連合婦人会 代表：飯田市連合婦人会長 岡田 慶 下伊那郡連合婦人会長 市瀬 紀子 (長野県)	報告・発表・討議・展示
	57	題名のない交流会	NWECボランティア なごみ 代表：宮本 紀子 (埼玉県)	展示・交流
	58	男女協道の“美しいまちづくり”NPOを！～ つくばの“くらしの企画舎”とVnetがジョイント・フォーラム～	NWECボランティア なごみ 代表：宮本 紀子 (埼玉県)	展示・交流
	59	一緒にやりゆう —行政・市民のいい関係から生まれるもの—	高知市女性政策推進協議会特別委員会 代表：木村 昭子 (高知県)	報告・討議
	60	ネットワークに助けられて—市民版 「男女共同参画プラン」をつくるまで	女性のネットワーク鎌ヶ谷 代表：岩楯 堪子 (千葉県)	報告・討議

# 高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の形成を目指し、高齢期における豊かなライフスタイルの実現に向けた男女共同参画学習を進めるため、ジェンダーに敏感な視点に立ち、高齢男女の生活と意識に関する調査研究を行う。

## 2 研究目的

- (1) 高齢期のゆたかで多様なライフスタイル・モデルの明示
- (2) 個人の高齢期におけるゆたかなライフスタイルの実現に向けての学習課題の明確化

## 3 期 間

平成12年度～平成13年度（3年計画の第2年次）

## 4 研究内容

- (1) 高齢社会に向けての男女共同参画社会の学習課題
- (2) 教育老年学関連調査におけるジェンダーの問題
- (3) 男女共同参画社会を担う高齢者介護
- (4) NPO領域における女性リーダー育成
- (5) 高齢社会の家族・親族コミュニケーション能力
- (6) 中高年企業人の男女共同参画社会に対する意識
- (7) 高齢期のゆたかなライフスタイル・モデル
- (8) 高齢社会に向けての男女共同参画社会の学習プログラム

## 5 実施方法

### (1) 研究プロジェクトの設置

関連分野の研究者及び国立女性(婦人)教育会館事業課研究員等による研究プロジェクトを設置し、調査研究を行う。

- ①平成12年度（3年計画の第2年次）  
・テーマ別研究のまとめ、報告書作成
- ②平成13年度（3年計画の最終年次）  
・一般向けブックレット作成（市販予定）

### (2) 研究プロジェクトメンバー

安達 正嗣	名古屋市立大学助教授	家族社会学・コミュニケーション論
新井 茂光	デイセンターさくらセンター長	高齢者福祉
内山 早苗	内山工房代表取締役・高齢社会を 生き抜く人づくり塾主宰	ビジネス教育・生涯教育
葛原 生子	安田女子大学助教授	成人教育
堀 薫夫	大阪教育大学助教授	教育老年学
伊藤真知子	国立女性(婦人)教育会館事業課研究員	女性学・社会学

## 6 平成12年度の研究経過（プロジェクト会議3回、ワーキンググループ研究会2回開催）

- (1) 上記研究内容をテーマ別に分担し、各自（一部共同）によるアンケート調査、ヒアリング調査、文献研究を実施し、報告書にまとめた。

### 報告書目次

I 調査研究の概要	
1 趣旨	
2 目的	
3 研究の視点と研究方法	
4 研究経過	
II 高齢社会に向けての男女共同参画学習	
1 向老期の男女共同参画学習の課題 —団塊の世代を中心に—	伊藤真知子
2 教育老年学関連調査におけるジェンダーの問題	堀 薫夫
3 男女共同参画社会を担う高齢者介護	新井 茂光
4 NPO領域における女性リーダー育成プログラム開発に向けての 予備的研究	葛原 生子
5 高齢社会の家族・親族コミュニケーション能力の学習プログラム にむけての予備的研究 —愛知県春日井市高蔵寺ニュータウンでの面接調査から—	安達 正嗣
6 中高齢企業人の男女共同参画社会に対する意識調査と意識改革 のための学習プログラム開発の方向性	内山 早苗
III 今後の課題—向老期の学習プログラム開発のために	
参考資料	

- (2) 上記研究成果にもとづいて学習プログラム開発を進め、ブックレットの企画案を作成した。

## 7 今後の課題・展望

少子高齢化がいつそう進行する社会状況のもとで、いわゆる団塊の世代を中心とする世代の人々が高齢期を前にして自らの生活や生き方をふりかえり、再構築を図る時期（向老期）にさしかかっている。平成13年度は、ゆたかな高齢期の実現に向けた学習活動、とくにジェンダーに敏感な視点に立った学習を推進するため、テーマ別研究の成果をもとに、向老期における学習課題を明確化し、課題解決に向けた学習方法等について研究を進め、学習プログラムを開発し、その成果をとりまとめてブックレットを作成する。ブックレットは、社会教育関連の企画・立案者や一般の学習者に向け、学習プログラム例やその活用方法、関連情報などを盛り込み、広く学習講座、グループ学習、さらに個人学習においても活用できるよう内容の充実を図り、市販する予定である。

（事業課研究員 伊藤 真知子）

# 女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究 (韓国女性開発院との共同研究)

## 1 趣 旨

日韓両国における女性の生涯学習の実態についてジェンダーの視点からの解明および比較を行い、生涯学習の拡充方策を提示することにより、女性のエンパワーメントを推進する。

## 2 研究目的

- (1) 日韓両国における女性の生涯学習の実態の解明および比較
- (2) 女性のエンパワーメントに向けた生涯学習の拡充方策

## 3 期 間

平成12年度～平成14年度（3年計画の1年次）

## 4 実施方法

### (1) 研究プロジェクトの設置

関連分野の研究者及び国立女性（婦人）教育会館事業課研究員等による研究プロジェクトを設置し、調査研究を行う。

- ①平成12年度（3年計画の第1年次）
  - ・日韓共通調査票作成 ・韓国調査の実施・集計
- ②平成13年度（3年計画の第2年次）
  - ・日本調査の実施・集計
  - ・日韓比較研究
  - ・日韓シンポジウムの実施
- ③平成14年度（3年計画の最終年次）
  - ・まとめ、報告書作成

### (2) 研究プロジェクトメンバー

原 ひろ子	放送大学教授
渡邊 洋子	京都大学大学院助教授・国立女性（婦人）教育会館客員研究員
伊藤 眞知子	国立女性（婦人）教育会館事業課研究員

#### \*韓国女性開発院プロジェクトメンバー

金 在仁	韓国女性開発院教育研究部長
郭 三根	漢陽女子大学教授
李 秀連	韓国外国語大学講師
丁 淑卿	韓国女性開発院主任研究員
許 賢蘭	韓国女性開発院研究員

## 5 平成12年度の研究経過（日韓共同研究会議2回開催）

- (1) 韓国女性開発院において第1回共同研究会議を開催し、日韓比較調査の設計、調査票の検討を行った。

- (2) 国立女性（婦人）教育会館において第2回共同研究会議を開催し、調査対象および調査票を決定した。
- (3) 日韓共通の調査票（①女性関連施設・機関用、②学習者用）により、韓国では予備調査および本調査を実施、日本では予備調査を実施した。

〔調査票の設問項目〕

①女性関連施設・機関用

- ・運営状況（設立目的、運営主体、利用者数、職員数、施設・設備、運営資金等）
- ・学習プログラム関連（教育目標、実施講座内容・方法、プログラム開発の方法、運営上の問題点、望ましい施設・機関のあり方等）

②学習者用

- ・女性の日常活動（日常活動の状況、生活改善の方法等）
- ・生涯学習の学習経験（学習の実施状況、学習講座の内容等）
- ・生涯学習の活性化方策（生涯学習・女性の役割に関する意識等）
- ・フェイスシート

- (4) 平成13年度文部省科学研究費補助金基盤研究（B）および平成13年度日本学術振興会日韓科学協力事業共同研究を申請中である。



韓国女性開発院での会議風景



又エックでの会議後、公民館を視察  
歓迎してくれた学習グループの方たちと共に

## 6 今後の課題・展望

平成13年度は、①日本における調査の実施、②調査結果の日韓比較分析を行う。

日本調査は、韓国と共通の調査票で、ほぼ同様の方法により実施、集計する。調査対象とするのは、首都圏の生涯学習関連機関200機関（女性関連施設、公民館、働く婦人の家、農村婦人の家、カルチャーセンター、公開講座実施大学）およびこれらの機関における学習者2000名である。集計後、日韓両国の調査結果をもとに、ジェンダーの視点に立った比較分析を行う。国際シンポジウム（韓国）および共同研究会議（日本）を開催し、女性の生涯学習の実態の解明ならびに女性のエンパワーメントの具体的な推進方策について研究討議を深め、共同研究をさらに進めていきたいと考えている。

（事業課研究員 伊藤 眞知子）

# 地域の子育て環境づくりに関する調査研究

## 1 趣 旨

家庭教育をサポートする地域の環境作りについて、子どもの発達段階に応じた実践的、学際的調査研究を行う。

## 2 研究目的

- (1) 都市化、核家族化など社会環境の変化の中で、子育てや家庭教育の充実が大きな課題となり、行政や民間で多方面から支援の在り方が問われている。その中でも特に、子育てサークルや子育て支援グループの育成が、地域で多くの人を巻き込む広がりのある活動として注目されるようになってきている。
- (2) そこで本研究においては次のような視点から調査研究をすすめ、地域における家庭教育支援方策についての提言を行う。
  - ・子育てサークル・子育て支援サークルを対象として、地域における家庭教育支援としてどのような実践が展開されているのかを把握する。
  - ・子育てサークル・子育て支援サークルの活動内容を明確にする。
  - ・活動を活性化しているのはどのような要因に基づくのかを明らかにする。
  - ・子育てサークル・子育て支援サークル活動の成果と抱えている課題を明らかにする。

## 3 期 間

平成10年度～平成12年度（3年計画の3年次）

## 4 実施方法

### (1) 調査研究チームの設置

国立女性（婦人）教育会館に調査研究チームを設置し、年次計画に沿って調査研究を進めることとする。（3年計画）

- ①平成10年度：乳幼児期を対象に家庭教育に関する資料を収集する。また国立女性（婦人）教育会館主催事業「家庭・地域で担う子育てセミナー」参加者を対象とした活動状況のアンケート調査を行った。
- ②平成11年度：実践事例のヒアリング、観察調査等を行った。
- ③平成12年度：質問紙によるアンケート調査を行い、報告書を作成した。

### (2) プロジェクトメンバー

安達 一寿	十文字学園女子大学講師／国立女性（婦人）教育会館客員研究員
結城 恵	群馬大学教育学部助教授／国立女性（婦人）教育会館客員研究員
中野 洋恵	国立女性（婦人）教育会館事業課主任研究官
宮沢 紀美	国立女性（婦人）教育会館情報交流課専門職員

## 5 平成12年度研究経過

### (1) 子育てサークル、グループを対象としたアンケート調査票の作成

地域における家庭教育支援に資することを目的として、平成10年度に実施した観察調査、研究協議会での実践報告の成果をもとに子育てサークル・グループを対象としたアンケート調査を作成した。

## (2) 調査の概要

### ①調査対象

対象者及びサンプル数：全国の子育てサークル1000（子育てサークルリーダー1000人、及びメンバー5000人）

対象都道府県：合計特殊出生率と30代前半の女性の労働力率の軸で分類し、それぞれのグループから対象となる都道府県を選んだ。対象都道府県以下のとおり。

山形県、群馬県、埼玉県、東京都、石川県、三重県、滋賀県、大阪府、広島県、香川県、熊本県 以上11都道府県。

### ②抽出方法

対象となる子育てサークルは都道府県のホームページ、県・区市町村・社会福祉協議会等からの紹介、子育てネットワーク等の紹介により抽出。

都道府県	サークル数	都道府県	サークル数	都道府県	サークル数
山形県	94	石川県	38	広島県	93
群馬県	80	三重県	73	香川県	100
埼玉県	94	滋賀県	103	熊本県	84
東京都	120	大阪府	121	計	1,000

### ③調査方法

郵送配布・郵送回収

	配布数	有効回収数	有効回収率
メンバー調査	5,000	2,195	43.9%
リーダー調査	1,000	571	57.1%
全体	6,000	2,766	46.1%

### ④調査内容

メンバー調査：サークルメンバーとしての活動状況や本人の属性、意識など

- ・活動状況
- ・日頃の子育ての問題点
- ・子育てサークルの問題点や意見等

リーダー調査：サークルの概要とリーダー自身について

- ・サークルの概要、運営、行政支援について等

## (3) 公開シンポジウムの開催

研究成果を発表するために2月25日、セッション杉並において「少子化時代の子育てのゆくえー広がる子育てサークルー」をテーマに公開シンポジウムを開催した。

## 6 今後の課題・展望

本調査研究では、親の意識やサークル活動の実態を明らかにすることによって子育てや家庭教育支援の施策を考える資料を作成することができた。今後はさらに子育て中の親のニーズの把握方法、地域の実情に応じた子育て家庭教育支援の具体的方策についての研究、情報提供の方法などの検討が求められよう。

(事業課主任研究官 中野 洋恵)

# 男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究

## 1 趣 旨

幼児期から性別にとらわれず、一人ひとりの多様な個性や人権を尊重し、男女共同参画を高める意識や価値観を育む家庭教育推進方策の在り方について調査研究を行うとともに、男女共同参画の視点に立った家庭教育プログラムの開発、教材等を作成する。

## 2 期 間

平成10年度～平成12年度（3年計画の第3年次）

## 3 実施方法

### （1）研究委員会の設置

国立女性（婦人）教育会館に研究委員会を設置し、年次計画に沿って調査研究を進めることとする。（3年計画）

- ①平成10年度： 都道府県教育委員会等の作成する家庭教育関係資料の収集と分析、家庭教育担当者を対象としたアンケート調査から担当者の意識分析を行った。
- ②平成11年度： 家庭教育関係行政担当者や指導者を対象として男女共同参画の視点に立った家庭教育を推進するために必要な内容、方法、情報を掲載するブックレットを作成し、研修プログラムについて検討した。
- ③平成12年度： 男女共同参画の視点に立った家庭教育関係行政担当者や指導者の養成のためのモデル研修プログラム、11年度に作成したブックレットの学習プログラムサンプルをもとに実験プログラムを実施する。実験プログラムの成果から効果的なプログラム実施のガイドラインを作成すると共に、報告書をまとめた。

### （2）研究委員会委員

馬居 政幸	静岡大学教授	教育社会学
(座長) 大日向雅美	恵泉女学園大学教授	発達心理学
坂田 正俊	愛知県教育委員会生涯学習課主査	家庭教育行政
諸橋 泰樹	フェリス女学院大学教授	社会心理学
山本 慶裕	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官	社会教育
中野 洋恵	国立女性（婦人）教育会館事業課主任研究官	家庭教育

### （3）実験プログラム実行委員会の設置

実験プログラムの実施のために研究委員会委員に加え実験プログラムに関わる委員による実験プログラム実行委員会を設置した。

### （4）実験プログラム実行委員

柴崎 俊一	埼玉県嵐山町教育委員会生涯学習課社会教育係
佐藤あずさ	千葉市立花園小学校PTA研修部
長堀 雅春	東京都小金井市公民館本町分館事業係主事
岩田 純子	神奈川県横浜市都筑区役所生涯学習振興課



岡田ちな美 静岡県島田市教育委員会生涯学習課主事  
 金 朝子 国立女性（婦人）教育会館事業課専門職員  
 土岐 都子 国立女性（婦人）教育会館事業課専門職員

#### 4 平成12年度の研究経過（研究委員会5回、実験プログラム実行委員会2回）

##### （1）実験プログラムの実施

	実施機関	プログラム	実施日
1	埼玉県嵐山町教育委員会	のびのび親子共育塾 (小学生の子どもをもつ親向け)	平成12年10月7日(土)21日(土) 11月18日(土)12月2日(土)16日(土) 平成13年1月20日(土)
2	千葉市立花園小学校	もっと上手にカンパセーション (小学生の子どもをもつ親向け)	平成12年12月2日(土)16日(土) 平成13年1月20日(土)
3	東京都小金井市公民館	生き方はひとつじゃない (中高生向け)	平成12年9月9日(土)～10日(日)
4	横浜市都筑区役所	家庭のライフプラン (高年期に備える親向け)	平成12年11月11日(土)18日(土) 25日(土)
5	静岡県島田市教育委員会	楽しい子育てセミナー (乳幼児をもつ親向け)	平成12年9月2日(土)16日(土) 10月7日(土)21日(土)29日(日) 11月12日(日)
6	愛知県教育委員会	家庭教育支援者(子育てネット ワーカー)養成講座	平成12年7月25日(火)8月29日(火) 10月13日(金)11月15日(水)
7	国立女性(婦人)教育会館	家庭・地域で担う子育て支援セミナー	平成12年9月8日(金)～9日(土)

##### （2）報告書の作成

3年計画の3年次として3年間の研究の成果として、研究の趣旨と研究経過、男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究実験プログラム、課題と展望をまとめた報告書を作成した。

#### 5 今後の課題・展望

今年度は昨年度に作成したブックレット「男女共同参画、はじめの一步を家庭から」のプログラム試案をもとに実験プログラムを実施したが、最大の問題点は参加者を得ることの難しさであった。男女共同参画や男女平等に対する無関心さや「心理的な拒否」という意識はいまだに根強い。男女共同参画の視点に立った家庭教育事業を進めていくに際しては社会の潮流を正確に見据えながら、一方では地道に息長く取り組む姿勢が必要である。21世紀の日本社会において、男女共同参画の推進は女性にとっても男性にとっても必要不可欠な課題であるという認識をまず企画者自身が持つことが必要であり、そのためにも家庭教育事業担当者を対象とした社会の変遷や家族の在り方についての学習機会を充実していくことが求められる。

(事業課主任研究官 中野 洋恵)

# エル・ネット家庭教育セミナー

## 1 趣 旨

社会全体で子どもを育てることや子育ての在り方を見つめ直すことが重要になっている今日、家庭教育に関する講座を全国にくまなく設置している公民館に衛星通信システム(エル・ネット)を活用して配信することによって、地域における家庭教育学習を支援し、全国津々浦々の地域で子どもを育てる環境の整備に資する。

## 2 期 日

平成12年 5月17日～平成13年 3月31日

## 3 プログラムの概要

### (1) 「エル・ネット 家庭教育セミナー」の企画・制作・放送

文部科学省は、国立女性(婦人)教育会館(以下「会館」)に番組の企画・制作・放送を委嘱する。会館は、家庭教育番組を企画・制作し、体系的に番組を編成して、全国各地の公民館に配信する。

### (2) 企画協力者

番組の企画、制作、編成に当たって、下記の方々から企画協力者として協力を依頼する。

企画協力者

鹿嶋 敬	日本経済新聞社編集委員
河野真理子	(株)キャリアネットワーク代表取締役社長
西東 桂子	フリーエディター
残間里江子	メディア・プロデューサー
広岡 守穂	中央大学教授
三上 欣也	日本PTA全国協議会副会長
渡辺 秀樹	慶応義塾大学教授

### (3) 放送回数等

月 2回隔週で放送 (15回程度)

## 4 プログラムの内容

### I しつけ集中シリーズ

	月 日	テーマ・講師	内 容
1	7/14 (金)	「親子のコミュニケーション」 河合 隼雄 国際日本文化研究センター所長 残間里江子 メディア・プロデューサー	世代間のギャップが言われる中で親子の絆を深めるためのコミュニケーションについて考えた。
		「家庭教育手帳解説①」 渡辺 秀樹 慶応義塾大学教授 中野 洋恵 国立女性(婦人)教育会館事業課主任研究官	家庭教育手帳、ノートについて

	月 日	テーマ・講師	内 容
2	7/28 (金)	「親から学んだもの」 和泉 元彌 狂言師 残間里江子 メディア・プロデューサー	伝統ある狂言の世界に生まれ育った和泉元彌さんをゲストに親から学んだことや伝統について考えた。
		「家庭教育手帳解説②」	家族のコミュニケーション
3	8/4 (金)	「基本的な生活習慣としつけ」 藤崎眞知代 明治学院大学教授	子どもの発達過程について理解し、どのようなしつけが必要なのかを明らかにした。
		「家庭教育手帳解説③」	しつけて何？
4	8/18 (金)	「子どもの社会性を育てる」 汐見 稔幸 東京大学助教授	他人に迷惑をかけない、差別をしないなど、子どもの社会性について理解を深めた。
		「家庭教育手帳解説④」	ルールをつくる
5	9/1 (金)	「私の子育て論」 鈴木 光司 作家 残間里江子 メディア・プロデューサー	文壇最強の子育てパパの異名を持つ作家鈴木光司さんの経験談をもとに父親の意味について考えた。
		「家庭教育手帳解説⑤」	家庭で育む思いやり

## Ⅱ 父親の家庭教育参加のためのシリーズ

	月 日	テーマ・講師	内 容
1	10/6 (金)	「夫婦のコミュニケーション」 広岡 守穂 中央大学教授 河野真理子 (株)キャリアネットワーク代表取締役社長	家庭教育、子育てを考える上で父親と母親のパートナーシップが重要である。夫婦のコミュニケーションや家族のつながりについて考えた。
		「家庭教育手帳解説⑥」	夢は人を育てる
2	10/20 (金)	「父親の地域参加」 岸 裕司 秋津コミュニティ会長 三上 欣也 日本PTA全国協議会教育問題委員長 金 朝子 国立女性(婦人)教育会館事業課専門職員	様々な地域参加は親子のコミュニケーションの場として、また自然活動の場としても大きな意味を持っている。父親が多様な地域活動に子どもとともに参加し、子どもとともに育っていくことの重要性を話し合った。
		「家庭教育手帳解説⑦」	遊びが子どもを大きくする
3	11/3 (金)	「父母の子育て経験」 牧野カツコ お茶の水女子大学教授 中村 克洋 フリーアナウンサー	父親の家庭教育への参加は、諸外国と比較して少ないといわれる。諸外国の実状とも比較しながら日本の父母の子育て経験の実態を明らかにした。
		「家庭教育ノート解説①」	家族の在り方を考える

	月 日	テーマ・講師	内 容
4	11/17 (金)	「家庭での父親の役割」 ケント・ギルバート タレント 太田 睦 会社員 千葉まゆみ アナウンサー	父親の役割とは何かについて、諸外国の実例も示しながら父親像を考えた。
		「家庭教育ノート解説②」	家族のコミュニケーション
5	12/8 (金)	「仕事と子育て」 下村 健一 元TBSキャスター 西東 桂子 フリーエディター	父親の子育て参加が言われるようになってきたが、父親の子育て参加は進んでいるのか、父親も母親も子育てに関わる時間をどのように確保していけばいいのか。子育てと職業のバランスについて考えた。
		「家庭教育ノート解説③」	しつけへの姿勢

### Ⅲ 明日の親のためのシリーズ

	月 日	テーマ・講師	内 容
1	1/12 (金)	「今どきの妊娠・出産事情」 子どもを産むということ 中村 克洋 フリーアナウンサー 山田まりや タレント 安達 知子 東京女子医科大学助教授 大日向雅美 恵泉女学園大学教授	最近の妊娠・出産をめぐる状況について紹介するとともに、乳児期の子どもへのかかわり方や子どもを産み育てることの意味についてパネルディスカッションを実施し、2回にわたって放送した。
		「家庭教育ノート解説④」	子どもの非行
2	1/19 (金)	「今どきの妊娠・出産事情」 子どもを育てるとのこと 中村 克洋 フリーアナウンサー 山田まりや タレント 安達 知子 東京女子医科大学助教授 大日向雅美 恵泉女学園大学教授	「今どきの最近の妊娠・出産事情」の2回目として子どもを産み育てることの意味について考えた。
		「家庭教育ノート解説⑤」	家庭でのルール
3	2/2 (金)	「いろいろな子育て・外国の子育て事情」 西東 桂子 フリーエディター ミュリエル・ジョリヴェ 上智大学教授 ペマ・ギャルポ 岐阜女子大学教授	各国の子育て事情や日本との比較をとおり、どのように子どもを育てるかについて、視聴者の意見や感想を交えて考えた。
		「家庭教育ノート解説⑥」	思いやり
4	2/16 (金)	「みんなで支える子育て」 上出 弘之 子どもの虐待防止センター理事長 河野真理子 (株)キャリアネットワーク代表取締役社長 西田百合子 フリーアナウンサー	子どもを持つ家庭を支援するための様々な制度の現状について理解し、子育てしやすい社会にしていくためにはどのような制度の充実が必要か考えた。
		「家庭教育ノート解説⑦」	個性をのばす

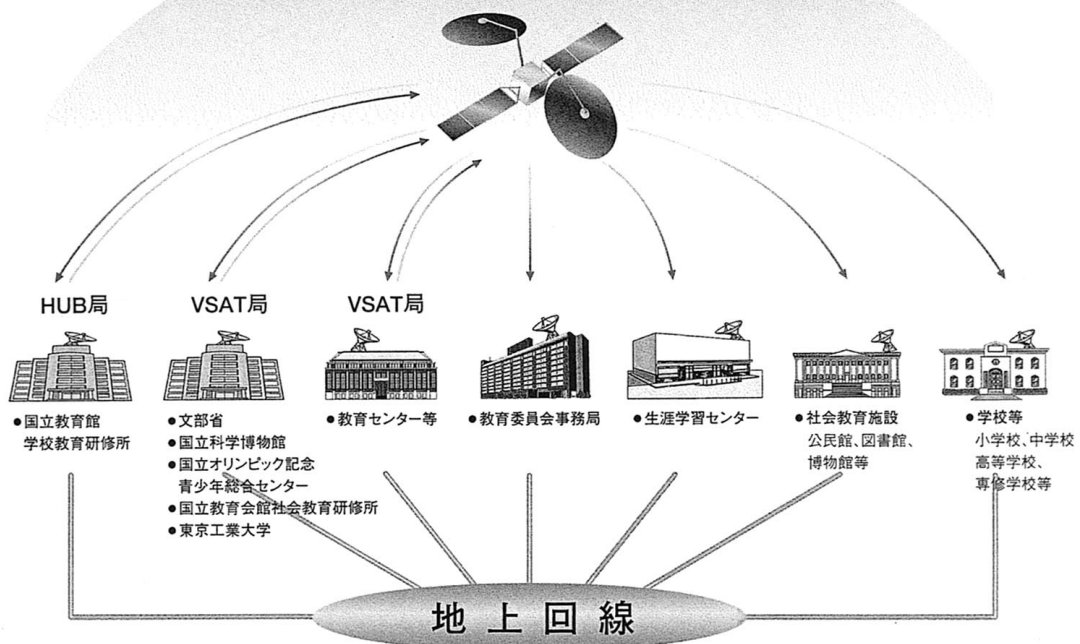
	月 日	テーマ・講師	内 容
5	3/2 (金)	「21世紀の子育てのために」 鹿嶋 敬 日本経済新聞社編集委員・論説委員 椋野美智子 日本社会事業大学教授 山田 昌弘 東京学芸大学助教授	急速な少子高齢化にともない21世紀の日本がどのような社会になっていくのか、子どもが育つ環境がどのようなになっていくのか、今後の展望を議論した。
		「家庭教育ノート解説⑧」	不登校やいじめなどへの対応

## 5 今後の課題・展望

今回の「エル・ネット家庭教育セミナー」では番組を制作し、それを放送するという方法をとったが、今後は遠隔地を結んだ双方向の番組構成が必要がある。新しい技術を活用したプログラムの内容の検討が求められる。またまだ視聴者が少ないので効果的な広報が必要である。

(事業課主任研究官 中野 洋恵)

# 社会教育・学校教育の 新しいネットワーク「エル・ネット」!



# ヌエック（国立女性教育会館）公開シンポジウム

## 1 趣 旨

男女共同参画社会形成に向けた調査研究の充実及び推進を図るために、国立女性教育会館の女性、家庭・家族に関する調査研究の最新の成果を発表し意見交換を行う公開シンポジウムを開催する。

## 2 主 題

- 第1部 少子化社会の子育てのゆくえー広がる子育てサークル  
第2部 『国立婦人教育会館研究紀要「第4号」』 入選論文報告会

3 主 催 国立女性教育会館、東京都教育委員会

4 期 日 平成13年2月25日（日） 13:00～16:30

5 会 場 セシオン杉並  
東京都杉並区梅里1丁目22番32号

6 参加者 123名（女性103名 男性20名）

（名）

	行政担当者	施設関係者	団体・グループ	報道関係者	研究者・教員	学生	その他	計
女性	24	16	26	3	12	5	17	103
男性	9	6	1	1	2	0	1	20
計	33	22	27	4	14	5	18	123

## 7 プログラムの概要

### (1) 第1部「少子化社会の子育てのゆくえー広がる子育てサークル」

#### ①子育てサークルの活動に関するアンケート調査報告

十文字学園女子大学講師 安達 一寿  
国立女性教育会館事業課主任研究官 中野 洋恵

#### ②シンポジウム

コーディネーター 群馬大学助教授 結城 恵  
講 師 東京大学助教授 汐見 稔幸  
講 師 中野区役所女性・青少年課 田島 昭子  
講 師 育自ネットワーク・彩の国さいたま子育てネットワーク 鈴木 玲子

### (2) 第2部『国立婦人教育会館研究紀要「第4号」』 入選論文報告会

#### ①入選論文の報告

「刑事司法とジェンダー」

中央大学兼任講師 宮園 久栄

#### ②講 評 東京大学教授／国立女性教育会館研究紀要委員会委員長

大沢 真理

## 8 プログラムの内容

### (1) 第1部「少子化社会の子育てのゆくえー広がる子育てサークル」

#### ①子育てサークルの活動に関するアンケート調査報告（報告：安達 一寿、中野 洋恵）

国立女性教育会館が行った全国11都道府県における子育てサークルのメンバーを対象とした「メンバー調査」(5000人)と、子育てサークルの代表者を対象とした「リーダー調査」(1000人)の中間報告。「メンバー調査」からはサークル活動が個人に与える影響、家族に与える影響等について、「リーダー調査」からはサークルの活動内容、行政支援に対する考え方等について報告した。

#### ②シンポジウム

##### 育児ネットワークでの活動（報告：鈴木 玲子）

子育て情報誌の刊行、月刊「育児ネットBOX」の発行、助産婦を交えてのマタニティサロン、子育てサロンなどの活動によってネットワークを広げてきた。児童福祉課から助成金を得ているが基本的には会費によって運営している。ネットワークを県内に広げていきたいと思い、1999年10月に「彩の国さいたま子育てネットワーク」を立ち上げた。活動を続ける中で専業主婦には場所を借りるお金もないし、伝える術もないということに気がついた。自分のパートナーとの間でさえ、人と関わると傷つくと思う人も多く、人間関係の難しさも感じている。

##### 中野区の子育て支援（報告：田島 昭子）

子育て中の親から最初の問題意識やエネルギーを引き出すための条件整備が行政の役割であると考えている。1992年に、地域の中で子育て支援の核となる人を養成するために子育て仲間づくりリーダー育成事業が始まった。プログラムには、①グループワーク、②実技講座、③参加体験、④自主企画講座の4つの柱がある。修了生たちが力をつけ、児童館やPTAで活躍するようになった。しかし養成できる人数には限りがあるため、集中講座方式をやめ、児童館で地域に密着した形でのリーダー育成を検討している。修了生の会では事務局も決まり、着々と代替わりをしている。住民自治が進み自主活動が育ってくる中で、行政はどのように地域を活性化していったらいいかが課題である。

##### 子育てサークルと行政支援（報告：汐見 稔幸）

17—18年前に大団地に引越したとき、ひとりの母親の働きかけに始まり、子育てサークルができた体験をした。横浜市の子育て支援計画づくりにも関わっている。親の要望に行政があればこれも支援すると、親の育児能力をうまく伸ばせない。育児支援は、きちんと訓練を受けていないとできる仕事ではない。育児アドバイスを上手にしてくれる人を配置するシステムづくりと、専門的な支援者の養成が大事になってくる。すべて自



(左から) 結城氏、鈴木氏、田島氏、汐見氏



熱心な参加者

前でやれというのではなく、環境を整えるのが行政の役目である。行政は公的な論理を大事にしなくてはならない。サークル活動にうまく出てこない人々への支援についても考えてほしい。母親が自分を解放できる場をどうつくるのか問題を立て、育児支援と育自を統一的に考えていかなければならない。子どもと関わる楽しさを父親にも体験してほしい。

#### 質疑応答・まとめ(コーディネーター：結城 恵)

行政からの支援の方法やサークル内の人間関係の調整についての質疑応答が行われた。質疑応答を通して、子育てサークルは親からじかに吸い上げた子育て中の親の声を社会に投げかけ、行政はそれを基盤にしてプログラムづくりや親同士が手を携えて子育てをすることができるきっかけをつくるために大きな意味を持っていることが明らかになった。そしてその結果として、親も子もそれぞれが子育てというサークルの中で育っていくことが望まれる。

## (2) 第2部『国立婦人教育会館研究紀要「第4号」』入選論文報告会

### ①入選論文の報告「刑事司法とジェンダー」報告者 宮園 久栄(中央大学兼任講師)

この論文でこれまで事実であるかのように言われてきた「女性犯罪は稀少である」、「女性は刑事司法過程において寛大な取り扱いを受けている」、「法は家庭に入らず」という3原則について検討した。これらの原則は、女性は弱く保護すべき存在であるという女性に対するステレオタイプのイメージに基づくものであり、事実というより神話というべきものである。正義の名の下に行われている刑事司法過程にジェンダーバイアスが潜んでいることを、この論文によって明らかにしようとした。

刑事司法における男性優位の支配構造を変えるためには、立法、司法過程を担うのは大部分が男性であるという事実を変え、女性の声や経験をそのような場に生かしていくことを目指すべきである。これまで刑事司法はジェンダーバイアスを無自覚に内在させ、司法手続きを通してジェンダー支配構造を強化する役割を担ってきた。刑事司法が変われば、人々の意識も変わる可能性があるのではないか。

### ②講評 大沢 真理(東京大学教授/国立女性教育会館研究紀要委員会委員長)

紀要第4号は17本の投稿があり、うち3本の論文と1本の研究ノートに掲載しており、テーマが「女性と人権」だったことから、女性に対する暴力の問題に投稿が多かった。掲載された論文、研究ノートについての講評が行われた。

#### 掲載論文

「人権」を論ずることとの間隔—講義「人権」をめぐる考察—(根岸 泰子)

刑事司法とジェンダー(宮園 久栄)

加害者のDV克服支援から新たな視点—フェミニズムと”加害者臨床”の統合モデルに向けての試論”(草柳 和之)

#### 研究ノート

A Cross-Country Analysis of the Economic Impacts of Female Education(畑佐 伸英)

## 9 今後の課題・展望

- (1) 平成12年度はテーマが子育てサークルの活動と行政の家庭教育、子育て支援であったことから行政担当者や団体・グループ関係者の参加が多かった。また保育をつけたことにより子どもを持っている若い親層の参加が見られたことも今回のシンポジウム参加者





論文の報告をする宮園氏



研究紀要の講評をする大沢氏

の特徴である。これまで当館の事業に参加の少なかった若い層の参加が得られたことは大きな成果であるといえよう。今後も時宜に応じたテーマ設定の調査研究を実施し、その成果を公開していくことは不可欠である。

- (2) プログラムをシンポジウムと「国立婦人教育会館研究紀要」の入選論文報告会の2部構成にしたことによってバラエティにとんだプログラムとなり参加者からも好評を博した。
- (3) 2月末という開催時期は、参加者、報告者双方にとっても忙しい時期なので検討が必要である。
- (4) 東京都教育委員会との共催により場所の確保とともに、東京都広報の紙面提供、ラジオスポット等有効な広報手段を用いることができた。今後も公開シンポジウムの開催に当たっては共通するテーマで開催できる機関・団体等との共催を積極的に進める必要がある。

(事業課主任研究官 中野 洋恵)

# 女性及び家族に関する学習情報の調査

## 1 趣 旨

関係機関等への調査を通じて、女性及び家族に関する学習情報を収集・データベース化し、オンラインで提供することによって、女性情報の流通促進を図ると同時に、女性の学習機会の拡充を図る。調査は「女性学」、「施設」の2種類について実施する。

## 2 高等教育機関における女性学関連課目等の調査研究の実施

我が国の高等教育機関における女性学関連分野の最新の教育・研究動向を調査するとともに、女性学関連分野の教育体験が受講生に与える影響や教授法などを収集分析し、高等教育機関の女性学の普及発展に資する基礎資料を収集する。なお、調査結果は、データベース及び報告書により、広く一般に公開する。

- ・調査実施期間：平成11年～平成13年度
- ・調査研究対象：大学・短期大学・大学院の学務担当及び担当教員

## 3 女性関連施設調査

### (1) 「女性関連施設データベース」のリニューアル

これまでホームページ上で公開されてきた「女性関連施設1997」と「女性関連施設における〈学習・研修〉事業に関する調査事例集」を関連付けて1つのデータベースとし、2000年10月2日からホームページ上で公開した。これにより、施設概要と事業を一挙に検索できるようになった。さらに、データを更新するために2001年3月に全国調査を実施した。

### (2) 「女性関連施設データベース」のWeb版データ更新ツールの作成及び実施

本データベースの充実を図るため、データ提供機関である女性関連施設がインターネット上で自施設のデータを更新できるツールを作成した。これにより、次の全国調査を待たずに、いつでも自施設のデータの更新・追加が可能となった。

ただし、ネット環境の整備状況については各施設の間でばらつきがあるため、Web上でのデータ更新が困難な施設からは、ペーパーやフロッピーにより情報を得ている。

National Women's Education Center, Japan

◆女性関連施設データベース◆

リンクをクリックすると対応する検索画面が表示されます。

施設概要検索 実施事業検索 共通検索

本データベースの利用方法については、[こちら](#)をご参照ください。

検索開始 クリア

施設概要について調べたいとき

フリーワード: [ ] and [ ] and [ ]

施設名・所在地の指定:

施設名 [ ]

所在地 [ ] 追加

施設条件の指定:

<input type="checkbox"/> 宿泊施設	<input type="checkbox"/> 音楽室	その他の条件の指定
<input type="checkbox"/> 保育(託児)施設	<input type="checkbox"/> スポーツ施設	<input type="checkbox"/> 施設ボランティア
<input type="checkbox"/> 情報センター(図書資料室)	<input type="checkbox"/> ホール	<input type="checkbox"/> 機関紙(誌)の発行
<input type="checkbox"/> お茶室		<input type="checkbox"/> 相談事業

検索画面

National Women's Education Center, Japan

◆事業データ更新・削除◆

・(必須)と表記のある項目は必須項目です。未入力のままでは送信できませんのでご注意ください。

最終更新日 Wed, 14 Feb 2001 14:38:28

更新 削除

◆入力者氏名 (必須) [ ]

◆入力者メールアドレス (必須) [ ]

◆入力者所属 (必須) [ ]

◆施設名称

国立女性教育会館 (ヌエック)

◆実施年度 (必須) 2001 年 (西暦を半角で入力)

◆事業名 (必須)

女性関連施設職員のためのセミナー

◆事業分野 (必須) (少なくとも一つは選択)

<input type="checkbox"/> 家族問題	<input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ養成
<input checked="" type="checkbox"/> 女性学等	<input type="checkbox"/> 男性の生活自立
<input type="checkbox"/> 女性の人權	<input type="checkbox"/> 就業支援
<input type="checkbox"/> 社会・福祉	<input type="checkbox"/> 労働事情
<input type="checkbox"/> 少子・高齢化問題	<input type="checkbox"/> パソコン関連
<input type="checkbox"/> ここからからの健康	<input type="checkbox"/> 市民活動・グループ活動支援
<input type="checkbox"/> 自己表現・文化表現	<input type="checkbox"/> 趣味
<input type="checkbox"/> 国際問題・国際交流	<input type="checkbox"/> スポーツ
<input type="checkbox"/> 男性への男女共同歩調意識の浸透	

◆事業対象者

女性の生涯学習に関連事業を企

◆実施回数

1回

◆延べ参加者数

130人

Web版データ更新ツール画面

(情報交流課専門職員 合田 美恵子/宮澤 紀美)



# 女性（婦人）教育シソーラスに関する調査研究

## 1 趣 旨

男女共同参画社会の実現に向けて、女性（婦人）教育に関するナショナルセンターとして全国の女性関連施設における情報機能の充実に資するよう、女性（婦人）教育関連語の新しい概念構造を体系化し、それに基づいた女性（婦人）教育シソーラスの開発に関する調査研究を行う。

## 2 研究目的

国立女性（婦人）教育会館の「婦人教育シソーラス第2版」（平成2年度版）は刊行以来全国の研究者ならびに学習者が有益な情報を得るための検索語ツールとして広く全国の女性関連施設において利用されてきたが、その後の「男女共同参画社会基本法の制定」、国連特別総会「女性2000年会議」等の国際的動向と相俟って、女性学・ジェンダー関連研究及び教育の多様化、地域における男女共同参画をめぐる取組の多様化等により、情報量の増大、関連分野の多様化、新しい用語の出現等に対応する新しいシソーラスが求められている。

そのため、「男女共同参画社会基本法」の制定を踏まえ、当会館及び全国の女性センター等女性関連施設の情報資源を有効に活用できるよう、女性教育関連用語における新しい概念構造を体系化し、インターネット上で提供する情報検索システムにおける「検索用語集（シソーラス）」の新しいあり方とその可能性について調査研究を実施する。

## 3 期 間

平成12年度～平成13年度（2年計画の第1年次）

## 4 年次計画

### （1）平成12年度（2年計画の第1年次）

新しいシソーラスのカテゴリーを検討・決定

### （2）平成13年度（2年計画の第2年次）

新しいシソーラスのキーワードを検討・決定、女性情報シソーラス（仮称）の公表

## 5 実施方法

### （1）調査研究会の設置

女性学・女性情報・シソーラス等関連分野の研究者・専門家、及び国立女性（婦人）教育会館事業課研究員等による調査研究会を設置し、調査研究を行う。

### （2）調査研究会委員

主査	田中 和子	国学院大学教授・国立女性（婦人）教育会館客員研究員
委員	青木 玲子	(財)東京女性財団（東京ウィメンズプラザ） 情報担当係主任専門員
	尼川 洋子	(財)大阪府男女協働社会づくり財団（ドーンセンター） 企画推進グループディレクター
	池田 淑子	東京大学大学院法学政治学研究科・法学部図書閲覧掛長
	加藤 直樹	岐阜大学助教授

亀田 温子 十文字学園女子大学教授  
橋本ヒロ子 十文字学園女子大学教授  
藤原 千沙 岩手大学講師  
船橋 邦子 大阪女子大学教授  
細谷 実 関東学院大学助教授  
伊藤眞知子 国立女性（婦人）教育会館事業課研究員  
事務局 国立女性（婦人）教育会館（情報交流課）  
※必要に応じて外部の専門家を加える。  
※必要に応じてワーキンググループを設定する。  
※必要に応じて外部の専門家から意見を聴取する。

## 6 平成12年度の研究経過

### (1) 委員会の開催

- 第1回 平成12年11月23日  
調査研究の進め方について  
第2回 平成13年2月26日  
カテゴリーの検討  
第3回 平成13年3月20日  
カテゴリーの決定

### (2) シソーラス開発者へのインタビュー

国内のシソーラス開発者に、ノウハウについて聴き取り調査を行った。

### (3) 女性情報・シソーラスに関する資料収集

他の関連シソーラスをはじめ、各女性関連施設の情報部門で使用している図書の分類表・主題別件名表、女性学関係文献目録・辞典類等の参考資料の収集・調査分析を行った。

### (4) 海外専門家の招聘

平成13年3月16日に開催した「女性情報セミナー」において、オランダのIIAV (The International Information Centre and Archives for the Women's Movement) より副マネージャーのマージェット・デュゼ氏を招聘し、調査研究会委員と意見交換を行った。

女性問題・女性学の情報シソーラスの先行事例である“European Women's Thesaurus”は、ヨーロッパの女性センター（オランダ・ノルウェー・ベルギー・スウェーデン）が、EUの資金援助を受けて共同で開発したものでIIAVはこれを編集・出版した。

## 7 今後の課題・展望

平成12年度は女性情報を取りまく現状を調査した上でカテゴリーについて検討を行った。これを踏まえて、国立女性（婦人）教育会館だけでなく全国の女性関連施設でも参照・利用できる方式と、新語を容易に取り込めるようなメンテナンスシステムを備えた新しいシソーラスを構築し、公開する予定である。

(情報交流課専門職員 合田 美恵子／宮澤 紀美)

# WinetCASS

## 1 趣 旨

近年、全国各地の女性関連施設や女性学関連研究所、NGO団体が発信している女性情報は、精度も高く非常に有用であるが、それぞれの情報が分散されているという状況にあり、その中から有益な情報を探し出すためには、多くのサイトを渡り歩くこととなる。そのため、利用者にとっては、心理的、時間的、経済的負担となっている。

このような問題を解決し、今後さらに増えるであろうインターネット利用者のニーズに応え、女性情報の活性化を図るために、女性情報の整備及び情報への入り口の整備が緊急の課題となっている。

そこで、当館では女性情報をリアルタイムに共有できる新しい検索システム<WinetCASS\*>を公開、女性及び家族に関する情報のポータルサイト（インターネット環境に入る際の入り口）として充実を図っている。

\*URL：http://www.nwec.go.jp

\*Women's Information NetworkとCross Access Search Systemの略

## 2 HP-CASS

国内外の女性情報を持っているホームページを横断的に検索するシステムで、当館があらかじめ選択したホームページから自動収集ロボットにより文字情報を収集、NWECサーバ内にインデックスを作成する。利用者が検索画面に検索条件を入力し検索すると、その検索結果にリンクが張られているので、ホームページの該当する部分を直接参照することができる。

現在は、91のホームページを8つのグループに分けて登録、全てのホームページを1度に検索することはもちろん、1つ1つのグループだけでの検索や、いくつかのグループを組み合わせでの検索も可能。ホームページを提供機関のカテゴリー別に分けたことによりさらに、必要な情報だけを検索することができるようになっている。

平成12年度には新たに、女性関連施設を9件、女性学関連研究所を2件追加し、その整備充実を図った。

<情報収集範囲>	合計	91件
女性関連施設	44件	
女性学関連研究所	12件	
国（省庁）の機関	3件	
生涯学習センター	17件	
国内女性関連サイト	3件	
海外女性関連サイト	2件	
国連関係	9件	
NWEC Only	1件	

## 3 女性情報CASS

ヌエック及び外部の団体がインターネット上で公開している女性関連データベースを横断的に検索するシステム。

これは、ヌエックの検索画面上で検索し、その検索条件を相手先のデータベースに合うような検索式に変更、それを投げかけ検索自体は相手先データベースが行うというシステムで

ある。利用者は、1回の検索を行なうだけで、いくつものデータベースを検索することができる。

- <検索範囲>           合計 10件
- 当館作成のデータベース (Winet-DB)
- 文献情報データベース
- 女性と家族に関する統計データベース
- 女性関連施設データベース
- 高等教育機関における女性学関連科目データベース
- 他の機関がWeb上で公開しているデータベース群
- 国立情報学研究所Webcat
- 女性と仕事の未来館ライブラリー
- 横浜女性フォーラム・フォーラムよこはま情報ライブラリ
- 大阪ドーンセンターライブラリー図書資料
- その他
- HP-CASS
- 全国ボランティア情報提供・相談窓口データベース

#### 4 Winet-DB

Winet-DBとは、会館作成のデータベース群で、以下のものがある。

- 女性教育情報センター所蔵の文献データベース
- 女性と家族に関する統計データベース
- 女性関連施設データベース
- 高等教育機関における女性学関連科目データベース 等

このうち、「女性と家族に関する統計データベース」は、各省庁の統計調査から女性や家族に関わる統計を取り上げた「女性及び家族に関する統計の調査研究」(平成4年度～8年度)の成果をデータベース化したものである。平成12年度から本格的な更新作業を開始し、現在は各省庁から調査結果の発表後、約1、2ヶ月後には、本データベースに反映されるようになっている。

「女性関連施設データベース」は、「女性関連施設1997」と「女性関連施設における<学習・研修>事業に関する調査事例集」を1つのデータベースとして再構築し、10月からホームページ上で公開している。また、Web上でのデータ更新を可能とするツールを作成したので、データ提供機関である女性関連施設が随時インターネット上から、自施設のデータを更新できるようになった。

(情報交流課専門職員 宮澤 紀美)

# 女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会

## 1 趣 旨

男女共同参画社会における女性関連施設等の情報活用方法・情報機能の連携のあり方等について研究協議を行うとともに、女性情報に関する専門的・実践的な研修を行ない、各施設・職員間のネットワーク形成の推進を図る。

## 2 期 日

平成12年12月13日(水)～15日(金) 2泊3日

## 3 参加者

女性情報等についてインターネットで情報発信を現在行なっているか、行なう予定のある女性関連施設等の情報担当者 49名(女性40名 男性9名)

## 4 プログラムの概要

### 【第1日 12月13日(水)】

- (1) **又エックからの報告「WinetCASSの現状と今後の予定」** 13:30～16:00
- ①完成したWinetCASSの説明と、現状の報告
  - ②リニューアルした女性関連施設DBの紹介と更新機能の操作説明・実習及び更新依頼
  - ③他各種データベースの進捗状況
  - ④シソーラスについて
- (2) **レファレンス実習について** 16:00～16:30
- (3) **婦人教育情報センター見学** 17:15～17:45
- (4) **情報交換会** 18:00～19:30

### 【第2日 12月14日(木)】

- (5) **事例報告** 9:30～11:45
- ①「地域のネットワークと共通検索」  
岐阜県生涯学習センター学習推進係長 久世 均
  - ②「女性情報ネットワークについて」  
東京ウィメンズプラザ情報担当係主任専門員 青木 玲子
  - ③「国際情報の収集と提供」  
国立婦人教育会館情報交流課専門職員 青木 一恵
  - ④「レファレンス分析」  
大阪ドーンセンター企画推進グループディレクター 尼川 洋子  
大阪ドーンセンター企画推進グループ情報ライブラリースタッフ 木下みゆき
- (6) **レファレンス実習** 13:15～15:30
- 東京ウィメンズプラザ情報担当係主任専門員 青木 玲子
  - 大阪ドーンセンター企画推進グループディレクター 尼川 洋子
  - 大阪ドーンセンター企画推進グループ情報ライブラリースタッフ 木下みゆき
- (7) **講義「IT革命と情報ネットワークの課題」** 16:00～17:30
- 文部省生涯学習局学習情報課長 岡本 薫

### 【第3日 12月15日(金)】

- (8) **レファレンス実習(つづき)** 9:30～10:15
- (9) **研究協議** 10:20～11:30
- (10) **まとめ** 11:30～11:45



## 5 プログラムの内容

### (1) 事例報告

- ①「地域のネットワークと共通検索」 岐阜県生涯学習センター 久世 均  
岐阜県生涯学習総合情報システム『LLNet』の紹介とこのシステムを構築した背景、考え方、なぜ、生涯学習の共通検索システムが必要だったのか等について。
- ②「女性情報ネットワークについて」 東京ウィメンズプラザ 青木 玲子  
「人を通して施設が結びつくネットワーク」の可能性、地域の生涯学習ネットワークに入り、そこでジェンダーの視点を入れることの重要性、ネットワークを通して女性情報を提供し合い、共有していくことの重要性とその時にコーディネーターとして女性センターが果たす役割の大切さについて。
- ③「国際情報の収集と提供」 国立婦人教育会館 青木 一恵  
どういった国際情報が利用者から求められているか、情報収集の方法としてのインターネットの活用と紙媒体の重要性、日本語での情報の見直し、逆に海外に対して日本から情報提供をしていくことの重要性について。
- ④「レファレンス分析」 大阪ドーンセンター 尼川洋子／木下みゆき  
レファレンス分析を行なう理由：利用者のニーズを把握しそれに対応した資料収集や情報発信をするため。また、ライブラリーマネジメントの基礎データとして、スタッフ間での情報の共有のため。ここで収集分析された事柄は、事業の企画に活かすなどセンター内の他の事業とも有機的に連携がなされる。  
レファレンス分析を行なうときのポイント：利用者からの質問ではなく回答で分類する。それはレファレンスでのやり取りを通して、利用者がほんとうは何を知りたいのか、具体的に何を知りたいかが明確になってくるから。

### (2) レファレンス実習

使えるツール、新たなツールを発見すること、戦略の立て方などの情報交換を目的に実習を行ない、課題に対して適当な資料にあたるまでの「どうやって選んだか」「なぜ選んだか」のプロセスを発表した。

- (3) 講義「IT革命と情報ネットワークの課題」 文部省 岡本 薫  
「情報」とは何か、「情報化」とは何か、「目的」と「手段」を区別する必要、「目的」の再確認と変化、「手段」をどう使うか、「情報教育」とは何か等について。

### (4) 研究協議

- ①データベースの共同構築：例えば、ミニコミ誌や各地で活動するグループの情報や、事業の講師選別に役立つようなものを。
- ②ネット上での情報提供を行っていない施設に対して、どういったサポートをしていくか、ネット研として他施設に何を提供できるか、自分たちは今後どのような研修機会、研修プログラムが必要か。
- ③地域ブロックでの会の開催希望や今回から使用されたメーリングリストの運営方法、ネット研のメンバー対象のHPの開設等について。

## 6 今後の課題・展望

今後多くの施設でネット環境の整備が進み、ネット研のメンバーも大幅に増加、その役割もさらに重要となるであろう。それを踏まえて、本事業のプログラムやメニュー以外の施設での実施などを検討する必要がある。

(情報交流課専門職員 宮澤 紀美)

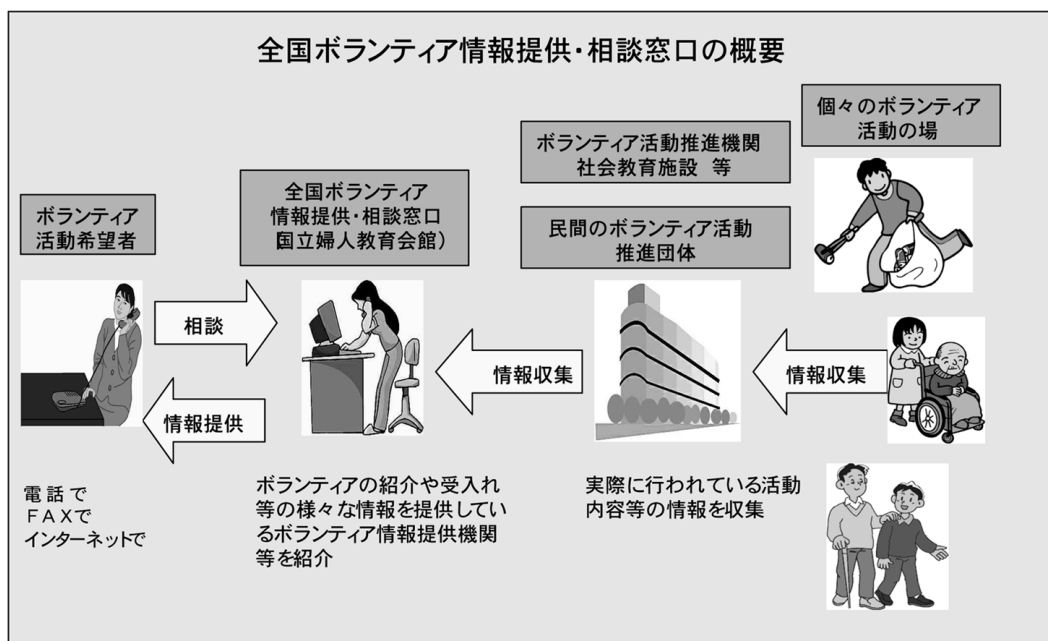
# 全国ボランティア情報提供・相談窓口事業

## 1 事業の概要

「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」は、文部科学省の委嘱を受けて実施している事業で、平成12年2月22日から電話相談窓口を開設しました。

生涯学習振興の観点から、主としてこれからボランティア活動を始めようとする人々に対し、活動に参加する動機付けを促進し、希望に沿った活動に結びつける機会を提供することをねらいとして、どこに問い合わせれば希望するボランティア活動の情報が得られるかについて、ボランティア情報提供機関の紹介を電話、FAX及びインターネットにより行っています。

これらの情報提供機関の内容は、インターネットで当会館のホームページから24時間いつでも検索することができます。



電話受付時間 9：00～17：00（12月24日から1月4日を除く毎日受付）

電話番号 0493-62-1131（専用番号）

FAX番号 0493-62-8185（専用番号）

ホームページ <http://volunteer.nwec.go.jp/>

## 2 紹介できるボランティア活動分野等

- A：教育（子育て、社会教育施設の活動、青少年指導、学習指導、いじめ、学校、人権等）
- B：福祉（障害者介助、高齢者介助、点字、手話、病院、患者・家族の支援、助け合い等）
- C：スポーツ・レクリエーション・趣味（野外活動、書道、絵画、園芸、料理、楽器、歌等）
- D：自然保護・環境保全（生態系保護、野生動物保護、エコロジー、クリーンアップ活動等）
- E：地域活動（祭礼、防災、地域づくり、交通安全、災害支援等）
- F：国際協力（海外支援、災害支援、在日外国人支援、帰国者支援、難民支援、翻訳等）
- G：医療・メンタルヘルス（献血、アイバンク、腎バンク、骨髄バンク、いのちの電話等）
- H：収集（募金、寄附、はがき、切手、テレカ、コイン、ベルマーク、グリーンスタンプ等）
- I：リサイクル（古紙、ごみ、衣料、ビン、缶、せっけん、フリーマーケット等）
- J：その他

### 3 事業の実施状況 (H12/2/22~H13/1/31まで336日間の状況)

#### (1) 相談件数

相談件数	電話等	FAX	郵便	e-mail	合計	ホームページアクセス件数
	878	97	1	246	1,222	62,626
1日当たり	2.6	0.3	0.0	0.7	3.6	186.4

#### (2) 相談者の類型

性別	女性	男性	—			不明	合計
	797	265				160	1,222
立場別	(※)個人	(※※)団体	—				合計
	1,029	193					1,222
(※)個人の属性	学生	勤労者	主婦	シニア	不明	個人計	
	272	155	177	37	388	1,029	
(※※)団体の分類	ボランティア活動	社会福祉協議会	学校・教育	福祉	行政	団体計	
	43	25	22	7	27		
	マスコミ	企業	医療	—	その他・不明		
	21	20	3		25	193	

#### (3) 相談者の地域

ブロック別	東北・北海道	(※※※)関東	東海・北陸	近畿	中国・四国	合計
	77	561	77	164	55	
(※※※)関東ブロックの内訳	九州	—			不明	1,222
	83				205	
(※※※)関東ブロックの内訳	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	関東ブロック合計
	31	22	21	102	81	
	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	
	200	73	5	9	17	
						561

(4)相談内容・分野(複数回答)	教育	福祉	スポーツ・レク・趣味	自然保護	地域活動	合計
	124	283	45	57	34	
(5)紹介機関(複数回答)	国際協力	医療	収集	リサイクル	全般・その他	1,235
	97	35	30	45	485	

(5)紹介機関(複数回答)	生涯学習センター	相談窓口(首長部局)	社会福祉協議会ボランティアセンター	民間ボランティア活動推進団体	その他	合計
	92	193	585	163	316	1,349

(6)データベース登録件	312
--------------	-----

### 4 相談業務体制

(1) 16名の相談員が交代(1日2名、9:00~17:00)で業務に当たっています。

(2) スーパーバイザー及びアドバイザーの配置

事業の円滑な実施を図るため、スーパーバイザー4名、アドバイザー1名を専門家に委嘱しています。

スーパーバイザー 安達 一寿 十文字学園女子大学社会情報学部講師、  
(国立女性(婦人)教育会館客員研究員)  
池上 洋子 全国社会福祉協議会全国ボランティア活動推進  
センターボランティアコンサルタント  
福山 清蔵 立教大学コミュニティ福祉学部教授  
村上 徹也 (社)日本青年奉仕協会事業部次長  
アドバイザー 内藤美登里 東京ボランティア・市民活動センター専門員  
(平成12年9月まで)

(3) 円滑な業務運営のための相談員と会館・文部科学省、スーパーバイザー・アドバイザー等との連絡会議、相談員のキャリアアップのための研修会を毎月開催しています。

(庶務課庶務係長 関 宗興)

# 社会教育実習生等受入事業

## 1 社会教育実習生の受入れ

### (1) 趣 旨

大学等で社会教育実習を受講する学生を対象として、大学等（担当教授）との協議に基づき、主催事業の補助業務等の体験学習を通じて、女性教育の現状及び女性教育施設の役割について学習することを目的とした社会教育実習生受入れ事業を実施しています。（10年度から実施）。

### (2) 実習内容

- ① 女性教育の現状と国立女性（婦人）教育会館の役割に関する講義
- ② 当館の事業運営についての講義
- ③ 主催事業の実施に関する業務
- ④ 受け入れに関する業務
- ⑤ 情報に関する業務
- ⑥ その他

### (3) 平成12年度受入大学、人数

3大学18名（10年度：1大学7名、11年度：4大学14名）

申請大学及び受入事業 (名)

受入事業	申請大学		大正大学		明治大学		城西国際大学		計	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
女性学・ジェンダー研究 国際フォーラム	4	1							4	1
家庭・地域で担う子育てセミナー	1	5	1		1	1			3	6
ヌエック・フェスティバル2000	3								3	0
NWEC（国立女性教育会館） アドバンストコース					1				1	0
計	8	6	1	0	2	1			11	7

(注) 1 城西国際大学は女性学専攻の大学院生のフォローアップコースとして参加

2 明治大学は日程を7日間から11日間に延長

## 2 外国人研究生の受入れ

平成11年度から、当館の機能を活用した研究活動、及び当館を拠点として国内他機関との連携による研究を行う外国人研究生の受入を行っています。

氏名 (国名)	所属	研究・研修テーマ	受入期間	備考
ミリアム ムラセ (アメリカ合衆国)	Ph.D.Student Political Science Massachusetts Institute of Technology	The State and Gender in Postwar Japan	H11.11.1～ H13.2.1 (15ヶ月)	フルブライト 研究者

### 3 評価・課題

- (1) 社会教育実習生の受入については、主催事業実施の際の貴重な戦力として活躍するなど当館にとってもメリットがある。また、大学・学生側からは社会教育の実践機関での貴重な実習、経験ができたと評価されている。今後も可能な限り受入を図っていきたい。
- (2) 外国人研究生ムラセ氏は、研究（受入）期間を当初12か月としていたが、女性団体への訪問調査など、研究の深化のため期間を3か月延長した。



実習風景



館長を囲む実習生

(庶務課庶務係長 関 宗興)

# ヌエック（国立女性教育会館）におけるボランティアの活動

国立女性教育会館では、利用者の多様な生涯学習を促進するために、ボランティア活動を希望する個人及びグループに協力を依頼するとともに、ボランティア活動の促進に努めている。

## 1 概要

ヌエックでは昭和52年の設立以来、女性のもつ能力・技術を当館の事業運営に生かすことにより、当館の機能を活用した多様な生涯学習を促進し、また女性の能力開発、社会参加につながる活動として、ヌエックでのボランティア活動を検討してきた。当初は、地元の女性や関東近県在住の女性教育担当経験者、女性教育指導員への呼びかけから始め、受入側であるヌエックの条件整備、利用者からの要望を検討するための1年間の試行期間を経て、昭和53年8月、登録による個人・グループの受入が開始された。

登録・活動を開始して以来22年間、様々な形でボランティア活動が続けられ、平成13年3月現在の登録者数は、個人登録74名（男性7名）、団体登録9グループ122名（男性13名）合計196名（男性20名）である。ヌエックにおけるボランティア活動は、国内外からの年間約10万人に及ぶ当館利用者に対し、効果的な事業運営への協力、利用者の立場に立った支援、ヌエック事業の広報、生涯学習活動の推進等に大きな役割を果たしてきた。

## 2 活動目的

ボランティア活動は、利用者の多種多様な生涯学習を支援し、かつボランティア自身の自己開発、自己実現を通して、女性の社会参加を促進することを目的とし、次の4点を活動の基本としている。

- (1) 個人の有意性、自発性に基づく活動であること。
- (2) ヌエックの設置目的に添った教育・学習に関する活動であること。
- (3) 自己の能力開発、社会参加につながる活動であること。
- (4) 無償制を原則とする活動であること。

## 3 活動内容

ボランティアに協力を依頼する活動は、ボランティアからのアイデア・申し出及び利用者からの要望をもとに当館が決定している。その活動は、多岐にわたっており、大別して「主催事業・受け入れ」「情報」「広報」「環境整備」の4分野に分けることができる。なお平成12年4月1日から平成13年3月31日までの延べ活動数は、総計1034回であり、内、個人の活動数989回、グループの活動数45回となっている。

### (1) 主催事業・受け入れ事業に関する活動（計526回、内個人510回、グループ16回）

- ・ 主催事業運営の協力（受付、会場整理、会場案内、マイク回し、視聴覚機器操作、記録写真、幼児保育、テーブルおこし等）
- ・ 国際交流関係（空港への送迎、外国人研修生のホームステイ、ホームビジットの受け入れ、日本の伝統文化紹介等）
- ・ 文化活動の実技指導（茶道、華道、伝統芸能、七宝焼、絵てがみ、切り絵等）
- ・ 当館の施設見学案内
- ・ 備品用具等の点検・整備（茶室備品、傘、自転車等）
- ・ 交流・話し合い（ヌエックボランティア活動の紹介・交流）

## (2) 情報に関する活動 (計415回、内個人415回、グループ0回)

- ・ 新聞・パンフレット類の整理 (新聞の受け入れ、受け入れ済み会報類のファイル、パンフレットの整理・ファイル等)
- ・ 新聞・雑誌・クリッピングの作成と整理 (新聞クリッピングの記事整理、英字新聞のクリッピング作成・分類・ファイル等)
- ・ テーマ別文献の常設展示 (テーマ図書資料のエントランスホールへの展示)
- ・ 図書の整理 (ラベル・貸出し期限表の貼付、図書の配架、書架点検等)
- ・ 広報活動 (「ぼらんていあ女性教育情報センターだより」「あんな本こんな本」の作成・配布)
- ・ 海外女性情報誌翻訳・整理

## (3) 広報に関する活動 (計31回、内個人31回、グループ0回)

- ・ 「ヌエックニュース」の発送等



会場でのマイク回し



参加者への座席案内



「婦人教育施設職員のためのセミナー」  
自由研究プログラム風景 (絵てがみ)



「婦人教育施設職員のためのセミナー」  
自由研究プログラム風景 (施設職員との交流)

## (4) 環境整備に関する活動 (計62回、内個人33回、グループ29回)

- ・ 館内の野草等の手入れ、ロビー等の生花、雛飾り

なお、本年度の主催事業「婦人教育施設職員のためのセミナー」では、お茶会、七宝焼き、切り絵、絵てがみ、当館の植物紹介、施設周辺散策等の自由研究プログラムを担当した。

また「ヌエック・フェスティバル2000」においては、ワーキング・グループ (11名) を組織してフェスティバルに協力し、その内2名は実行委員として推薦され、フェスティバ

ルの企画・運営を行った。またボランティアにより10の自由企画プログラム（男性による茶房、演奏、絵てがみ、茶道、華道、七宝焼き、和紙絵、交流会、女性広報誌の展示）を実施し、当館の事業運営に積極的に参画・協力した。



「ヌエック・フェスティバル2000」  
女性広報誌の展示



「ヌエック・フェスティバル2000」  
茶道の実技体験

#### 4 連絡会議

年4回（4・7・10・1月）の連絡会議を開催し、ボランティア活動を依頼する事業の主旨及び協力を依頼する内容の説明、個人・グループの活動状況報告等の連絡調整を図った。

#### 5 研修

ボランティア活動の充実・発展を図るため、実践的な研修（当館の施設・備品の理解、各種ボランティア活動の相互理解、視聴覚機器の操作、家庭教育講座等）を実施した。また、年度末には1泊2日のボランティア活動研究会を開催した。

### ヌエックボランティア活動研究会

活動研究会の概要は、次のとおりである。なお、研究会の開催に当たり、ヌエックボランティア・ヌエック職員で構成する企画・運営委員会を組織し、研究会の企画・実施を行った。研究会の事前に「ヌエックボランティア活動に関するアンケート」をボランティアに行い、研究会への参加に対する動機付け、意欲付けとした。

また、このアンケートの集計結果を用いて、委員が各グループのファシリテーター役を務めた。なお討議「新たなる飛翔—これからのヌエックボランティアを語る—」は、研究会終了後のアンケート（回収数25名、回収率55.6%）によると、「参考になった」と答えた者が84%、「少し参考になった」が16%と、好評であった。

#### (1) 趣旨

ヌエックボランティア活動の充実・発展を図るため、新たなステップとなる実践的研修を行う。

#### (2) 主題 21世紀のヌエックボランティア —ボランティアの本質を考える—

#### (3) 期日 平成13年2月20日（火）～21日（水） 1泊2日



#### (4) プログラムの概要

##### 【第1日 2月20日(火)】

- |                                                              |                      |
|--------------------------------------------------------------|----------------------|
| ① 開会                                                         | 10:00~10:10          |
| ② 情報提供「平成13年度の事業計画及び重点施策」                                    | 10:10~10:40          |
| ③ 講義「ヌエックボランティアに期待すること—女性施設のボランティア—」<br>講師 埼玉県教育局生涯学習課社会教育主事 | 清水 隆                 |
| ④ ワークショップ「これからの活動を考える」<br>講師 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官         | 13:00~17:00<br>山本 慶裕 |
| ⑤ 情報交換会                                                      | 18:00~19:30          |

##### 【第2日 2月21日(水)】

- |                                 |             |
|---------------------------------|-------------|
| ⑥ 討議「新たなる飛翔—これからのヌエックボランティアを語る」 | 9:00~11:20  |
| ⑦ 平成13年度ヌエックボランティア委嘱について        | 11:20~11:40 |
| ⑧ 閉会                            | 11:40       |

#### (5) プログラムの内容

- ① 情報提供「平成13年度の事業計画及び重点事項」
- |        |       |
|--------|-------|
| 事業課長   | 高見澤光子 |
| 情報交流課長 | 森高 桂子 |
- 平成13年度のヌエックの事業計画（案）に基づき、両課長から重点事項の説明があった。

- ② 講義「ヌエックボランティアに期待すること—女性施設のボランティア—」
- |                      |      |
|----------------------|------|
| 講師 埼玉県教育局生涯学習課社会教育主事 | 清水 隆 |
|----------------------|------|

- ・ ボランティア活動は、自分のため、人のため、社会のためであり、基本的には、決して強制されるものではなく、続けることが大切である。しかしどうしてボランティア活動をするのか、人との比較ではなく、自分自身の中で時々問い直すことが必要である。
- ・ 学習活動に関するボランティア活動のメリットは、新しい経験、学習意欲、人間関係について得られるものが大きい。人間関係は広がり（輪）、自分が発信していく（環）ことで、和が生まれ、つながる。
- ・ 期待される社会教育施設ボランティア像は、無財七施の教えに通じる。慈眼施：慈しみの顔で、和眼施：和やかな絵顔で、愛語施：言葉が大事、捨身施：体を使って、心慮施：思いやりを持ちともに喜びともに悲しみ、座席施：体の悪い人に席を譲って、房舎施：雨の時などに場所を提供する。豊かな心、ぬくもり、あたたかいものを発信できる。

- ③ ワークショップ「これからの活動を考える」
- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| 講師 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官 | 山本 慶裕 |
|----------------------------|-------|
- ・ 参加体験型学習のグループワークの中で、自分の意見を表現するために、参加者相互が積極的に関わり、自主的・主体的に行動することをめざした。
  - ・ はじめに山本氏から、ボランティア活動の基本評価軸（自発性、無償性、公共性、先駆性）、更に、共感性、親近性、刺激性、経験性、物語性、明快性、変容性、多彩性、独走性、継続性等の評価軸についての説明があり、その後、女性の学習とその変化、ヌエックの役割、ボランティア活動の課題、課題解決の方策について、グループ討議を行った。
  - ・ ヌエックボランティアの課題として、新しいボランティアが定着しないこと、新しい活動の開発、高齢化、ボランティア同士の交流、地域への橋渡し、利用者への対応の仕方、今後の学習等につ



山本氏の講義



KJ法を使い、グループ討議をまとめる

いての課題が出され、それぞれの解決策について検討した。

#### ④ 討議「新たなる飛翔—これからのヌエックボランティアを語る」

事業課専門職員

土岐 都子

20日のワークショップで話し合ったこと、「ヌエックボランティア活動に関するアンケート」結果等をもとに、ヌエックボランティア活動の課題及び課題の解決に向けて、グループ・全体で討議を行った。

はじめに、ボランティア活動の目的について個々人の意見を出し合い、今後の目的を確認した。次に、「新しいボランティアの定着」、「ボランティア同士の横のつながり」、「学習・研修」の3テーマのうち一つを選び、KJ法を使って話し合った。その後スピークアウトの時間を設け、新しい活動の提案、企画委員からの感想・意見があり、今回の研究会の成果を是非実践に移し、平成13年度につなぐことを確認した。



会館職員グループの討議



グループごとの発表を聴く

## 6 ボランティアの受け入れ

ヌエックでは、6月、10月の2回、ボランティアの活動説明会（当館の設置目的・事業内容についての説明、ボランティア活動の内容、実際にボランティア活動をしている方々の体験発表・感想等）を行い、新しいボランティアを募集している。

ボランティアとして活動を希望する者は仮登録者として受け入れ、約3ヶ月の仮登録期間中に、実際にボランティア活動を体験する研修を用意した。研修内容は、ヌエックの施設見学、基礎的な視聴覚機器等の取扱い方、英字新聞クリッピング、ヌエックニュースの発送、主催事業への協力等である。

## 7 自主活動グループ

ボランティアは各自の活動以外に独自に学習グループを組織し、当館における活動に必要な知識や能力を高めるための学習を自主的に進めている。現在4グループが活動している。

### (1) ヌビック

1999年に発足し、ボランティアの活動分野を越えたネットワークを作ることを目的として作られた42名のボランティアからなるグループである。ボランティア同士の交流の機会の設定（卓球、七宝焼き等）、「ヌビックだより」の作成等を中心として活動した。

### (2) なごみグループ

1979年に発足し、主に主催事業や受け入れ事業に関わる者で結成されたグループである。主催事業の参加者へのヌエック利用の便を図るための情報提供を目的とした「ようこそヌエックへ」の作成等自主的な活動を行っている。当館の主催事業である「ヌエック・フェスティバル2000」では、自由企画プログラムとして、出会いと交流を目的とする「題名のない交流会」を運営した。

### (3) J・T・Vグループ

1980年に発足し、女性教育情報センターで図書の整理、新聞クリッピングの分類・整理、各地の女性会館・女性センターから送られてくる広報誌の整理、情報センターのPR等、情報に関するボランティア活動を行う者で結成されたグループである。新着図書を紹介する「情報センターだより」、J・T・Vのメンバーがお勧めの図書を紹介する「あんな本こんな本」を発行している。

「ヌエック・フェスティバル2000」では、「北京からの女性広報誌の流れ」と題する自由企画プログラムを運営し、ヌエックに収集された全国の女性広報誌の特集記事を分野・年度・都道府県別に整理及び比較検討した資料の展示を行った。

## 8 その他

地域におけるボランティア活動研修会のプログラムの一環として、ヌエックボランティアとの交流を希望する利用者が増えている。本年度は、県教育委員会、生涯学習センター等からの申込みによる交流で実際のボランティア活動を紹介した他、「ベトナム社会主義共和国女性教育指導者」との交流では、国際的な交流・情報交換を行った。

(事業課専門職員 土岐 都子)



平成12年度ヌエック（国立女性教育会館）

## 主催事業実施報告書

平成13年4月

編集・発行 独立行政法人 国立女性教育会館

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

TEL 0493-62-6711

FAX 0493-62-6720

印刷・製本 勝美印刷株式会社



***NWEC***

シンボルマーク  
「両手を空に掲げ、希望に燃える女性像をデザイン化」したものです。